

三號

患者ノ住所ハ示ス
ヲ要セス

原判文ヲ監査スルニ被告ハ片田市之助長男喜代治妻石外十數名ノ病体ヲ診斷シ云々トアリテ已ニ被告カ私ニ醫業ヲ爲シタルノ事實明瞭ナレハ外十數名ノ住所姓名ヲ一々揭示セサルモ犯罪構造ニ影響ナケレハ決シテ事實理由ノ不備ニ非ス(高知輕刑部ノ言渡ニ對シ江洲久信上告事件明治二十年十二月十五日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百五十六條

四號

器械ノ投
藥ハ醫業
ニテラス

刑法第二百五十六條免許ヲ得シテ醫術ヲ業トスルモノ制裁スル法條ナルコトハ同條醫業云々ノ文字ニ依ルモ明了ナリ原判文ノ事實ニヨレハ被告ノ所爲ハ單ニ藤井辰五郎ヘ對シ投藥ヲ爲シタル而已ニシテ醫業ノ所爲アルニ非レバ其辰五郎ニ投藥セシハ自己ノ利益ヲ企圖スル爲ニ之ヲ業トスルノ意思アリタルニ非サレハ之ヲ該條ノ犯罪者トスルヲ得ス(山口輕刑部裁判所ノ言渡ニ對シ增野文章上告事件明治十九年四月廿九日大審院ニ於テノ判決)

第二百五十六條

五號

私擅醫業
ノ器械
破毀ノ罪

審案スルニ本案被告所有ノ藥品ハ被告人ノ手裏ニ存在スルモノニシテ固ヨリ犯罪ノ用ニ供シタルモノニ非ラス其治療器械ノ如キハ所謂罪跡ナルモノニシテ犯罪ノ用ニ供シタル物件ナリト云フヲ得サルモノナレハ共ニ刑法第四十三條ヲ適用シ之レヲ沒收スヘキモノニアラス然ルニ原扣訴院ニ於テ被告ノ所有ニ係ル藥品及ヒ治療器械ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタルモノト爲シ沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ附帶上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス(明治二十二年十二月二十一日大阪控訴院ノ言渡大審院ニ於テ)

第四十三條
第二百五十六條

六號

私擅醫業
ノ藥劑ハ
沒收セス

刑法第二百五十六條ノ罪ハ醫ヲ爲スヲ以テ犯罪トスルニアラスシテ官許ヲ得サルヲ以テ犯罪ヲ成立シタルモノナリ故ニ其施用ニ供シタル藥劑ノ犯罪ニ關係アラサルコト明ナレハ原裁判所カ之ヲ沒收シタルハ擬律ノ錯誤ナリトス(高知輕刑部裁判所ノ如外一名上告事件明治十九年九月廿八日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百五十六條

七號

第二百五十六條ハ官ノ許可ヲ得サル醫業ヲ支配スル法條ニシテ其門第等カ師命ヲ受ケテ代診スルカ如キハ問フ可キニアラサルナリ(裁判所ノ言渡ニ對シ阿部龍平上告事件明治二十一年五月十九日大審院判決)

私ニ醫業ヲ爲ス罪

門弟ノ代
診ハ私擅
醫業ニテ
ラス

第二百五十六條

八號

代診ハ私
擅醫業ニ
アラヌ

刑法第二百五十六條ニ私ニ醫業ヲ爲スモノトハ技術ヲ備フルト否トヲ論セサルモ
彼ノ開業醫カ代診セシメタルモノ、如キハ該條ニ包含セサルモノトス(罪裁判
所ノ言渡ニ對
シ富岡東榮菊井恒次岡部一貞上告事
件明治二十年五月十九日大審院判決)

第二百五十七條 正文略之

人ニ災害
ヲ加フル
事

草第二百九十九條 內科外科ノ醫術ヲ施シ之レカ爲メ人ニ或ル災害ヲ加ヘタルキハ
過誤ニ因テ加ヘタル身体上ノ傷害又ハ殺害ノ刑カ前條ノ刑ヨリ重キキハ其重キ刑
ニ處ス可シ(刑、第二百五十七條)

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 正文略之

第七節 公ケノ德行ヲ害シ及ヒ法教ニ對スル不敬ノ罪

公衆ノ風
儀ニ對ス
ル不敬

草第二百九十一條 何人タリトモ公ノ場所若クハ公衆ノ自ニ觸レ得ヘキ場所ニ於
テ故意ヲ以テ風儀ヲ害スヘキ所爲ヲ行フタル者ハ十五日以上二月以下ノ重禁錮二
圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百五十八條○佛刑、第三百三十條)

第二百五十九條 正文畧之

猥褻ノ物
品ノ公然
ノ販賣

草第二百九十二條 何人タリトモ猥褻ノ書冊圖書若クハ比喩其他風儀ヲ害スヘキ
性質ノ物品ヲ公然販賣シ又ハ販賣若クハ貸貸ノ爲メ陳列シタル者ハ十一日以上一
月以下ノ重禁錮三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

携賣

單ニ該物品ノ隱密ノ携賣貸貸若クハ販賣アリタルキハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金
ノミヲ言渡ス可シ

右二箇ノ場合共ニ猥褻ノ物品ハ之ヲ毀棄ス可シ(刑、第二百五十九條○佛刑、第二
百八十七條、佛國千八百八十一年七月二十九日ノ法律千八百八十二年八月二日ノ
法律)

第二百六十條 正文略之

第二百六十一條 草案第二百九十四條ヲ比照スヘシ

草第二百九十三條 何人タリトモ自己ノ家宅若クハ公ケノ場所ニ於テ僥倖ヲ期ス
ル賭博ヲ私討シ以テ自己ノ利益ヲ圖リタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮五圓以
上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百六十條○佛刑、第四百十條、第四百七十五條
第五項)

博徒結黨

〔博徒ノ黨類ヲ招結シ以テ賭博ノ利益分配ヲ圖リタル者モ亦同一ノ刑ニ處ス可シ〕
(刑、第二百六十條)

風俗ヲ害スル罪

例外

第二百九十四條 前條ノ條件アル時僥倖ヲ期スル賭博現行犯ニテ發見セラレタル者ハ十五日以上二月以下ノ重禁錮三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス
塲錢ハ之ヲ沒収スヘシ
純ラ無償ナルカ又ハ單ニ現塲ニテ消費ス可ク且ツ純粹ノ歡樂ニ供スル物品ヲ賭シタル僥倖ノ博戯ハ本條例規ノ限ニ在ラス(刑、第二百六十一條○佛刑、第四百十條、第四百七十五條第五項)

第八十五條第二百六十一條

一號

原判文ヲ閱スルニ被告増次郎ハ云々金錢ヲ賭ケ骨牌ヲ以テ博奕ヲ爲シ居ル現塲巡查ニ發見セラレシモ隙ヲ見テ其塲ヲ逃走シ追テ自首シタル云々ト記載シアリ抑賭博犯罪ヲ構成スルハ現行犯ニ限レル者ニシテ本件ノ如キハ其現塲ヲ巡查ニ撞見セラレタルキ已ニ賭博犯罪ヲ構成シタルモノナリ然ラハ遁走ノ後自首スルモ未發自首ヲ以テ論ス可キ者ニアラス然ルニ原裁判所カ被告カ賭博ノ現塲ヲ巡查ニ撞見セラレタルノ事實ヲ認メナカラテ刑法第八十五條ヲ適用シ自首減等ノ處斷ヲ爲シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ該當スル破毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリ(松山輕罪言渡ニ對シ中増次郎上告事件明治廿二年十月三十日大審院ニ於テ破毀ノ判例)

賭博犯ハ自首ヲ與ヘス

利益ヲ僥倖スル富講ノ事

第二百六十一條 正文略之

草第二百九十五條 自己ノ利益ノ爲メ公ケノ富講ヲ設ケタル者又ハ富籤ノ發賣ヲ

幫助シタル者ハ第二百九十三條ニ記載セル刑ニ處ス(刑、第二百六十二條○佛刑、

第四百十條、佛千八百三十六年五月二十一日ノ法律)

(富籤發賣ニ因リテ得タル金額ヲ其儘ニ發顯スルキハ差押テ沒收ス可シ反對ノ場合ニ於テハ富講ノ發起人又ハ主タル連類國庫ニ對シテ發顯セラレサル金額ニ等シキ罰金ニ處セラレヘシ然レモ若シ既ニ抽籤ヲ實行シ當籤物ヲ交付シタルキハ沒收スヘキ金額ヨリ其價額ヲ扣除ス可シ)

施濟ノ富講

(官許ヲ得サル施濟ノ富誼ニ係ルキハ發起人及ヒ主タル連類單ニ第二百九十三條ニ記載セル罰金ノミニ處セラレ可シ富籤ノ發賣ニ因リ得タル金額ハ之ヲ沒収ス可シト雖モ行政官ニ於テ其全部若クハ幾分ヲ其目的タルシ事柄ニ適用スルコトヲ得(佛千八百四十四年五月二十二日ノ命令ト對比スヘシ)

第二百六十三條 正文略之

草第二百九十六條 總テ神社寺院墓所其他宗教ニ屬スル塲所ニ於テ日本ニ公認シ又ハ縱容セラレタル法教ニ對シ故意ヲ以テ公然不敬ノ所行ヲ爲シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

法教ニ對スル公然ノ不敬

風俗ヲ害スル罪

右ノ場所ニ於テ教徒ノ説教又ハ宗徒ノ禮拜ニ障碍若クハ妨害ヲ加ヘタルハ其刑
一月以上三月以下ノ輕禁錮五圓以上二拾圓以下ノ罰金タルヘシ(刑、第二百六十三
條○刑、第二百六十條乃至第二百六十四條)

加重

若シ數人連合シ又ハ他宗ノ教徒右ノ罪ヲ犯シタル時ハ前記ノ刑三等ヲ加フ(刑、零)

○富興行ヲ禁ス(明治元年十二月)
(明治元年十二月)

富興行ノ儀ハ都テ御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建
等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季ノ弊風僥倖ノ利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ
自然農工商共其職業ヲ惰リ徃々之レカ爲メニ家産ヲ破産候者モ不少哉ニ相聞以ノ
外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣意ニ相戾リ候義ニ付更ニ嚴禁被仰
出候事

○富籤賣買者等處分(明治十五年五月)
(第廿五號布告)

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購
買シタルモノ處分法左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮
ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヒチ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハスニ

十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ
借リテ購買シタル者及ヒ他人ヨリ讓受タル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處
ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコト得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其
罪ヲ免ス再犯ニ關ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

第七章 死屍ヲ棄毀シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 草案第二百九十七條ヲ比照スヘシ

第二百六十五條 正文略之

第二百六十六條 草案第二百九十七條第四項ヲ比照スヘシ

草第二百九十七條 墳墓ヲ掘發シテ死屍ヲ露ハシ又ハ之ヲ納レタル棺槨ヲ露ハシ

タル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮五圓以上二拾五圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ犯罪人死屍ヲ移轉シ又ハ之ヲ殘毀シタルハ二年以上五年以下ノ重禁錮拾圓

死屍ヲ棄毀シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

墳墓ヲ掘

以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ(刑、第二百六十五條○草、第二百六十條)

(皇室ノ陵墓ニ對シ右ノ犯罪ヲ行フタルハ前刑ニ一等乃至二等ヲ加フ)
此條ノ罪ハ未遂犯タリトモ仍ホ罰スヘキモノトス(刑、第二百六十六條)

第八章 商業及農工業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 正文略之

第八章 商業工業及農工業ノ自由ニ對スル罪

必要ノ需用品

草第二百九十八條 凡テ一人ニ對シ重キ脅迫又ハ暴行ヲ用ヒ若クハ詐欺ノ計策ヲ以テ米穀其他一般ノ使用ニ欠ク可カラサル食用品タル產物又ハ膏油薪炭建築用ノ木材ノ搭船若クハ登岸運輸若クハ賣買ニ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮五圓以上二十拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

有益ナル需用品

前號ニ記載シタル意外ノ需用品又ハ商品ニ關シテ右ノ犯罪ヲ行フタルハ本刑ニ一等ヲ減ス(刑、第二百六十七條)

第二百六十八條 正文略之

公ケノ落札

草第二百九十九條 動産又ハ不動産所有權若クハ收益權ノ糶賣又ハ物品ノ供給工事其他或ル請負ノ入札ヲ爲スニ當リ暴行ヲ爲シ又ハ書面若クハ言語ヲ以テ重キ脅迫ヲ爲シ又ハ詐欺ノ計策ヲ以テ其糶賣又ハ入札ノ自由ニ妨害ヲ加タル者ハ十五日

以上三月以下ノ重禁錮五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百六十八條○佛刑、第四百十二條)

若シ政府又ハ公ケノ官廳ノ糶賣ニ係ルキハ前項ノ刑ニ一等ヲ加フ(刑、零)

第二百六十九條 草案第三百條ヲ比照スヘシ

第二百七十條 草案第三百條ヲ比照スヘシ

職工ノ徒黨

草第三百條 凡テ職工工長若クハ工場長其賃銀ヲ増加セシメ又ハ農工若クハ商業ノ作業ノ條件ヲ變更セシメンカ爲メ通謀ノ他ノ職工若クハ雇主ニ對シ暴行重キ脅迫若クハ詐欺ノ計策ヲ行ヒ一箇若クハ數箇ノ工場ニ於テ作業ヲ妨害シタル者ハ十日以上二月以下ノ重禁錮二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百六十九條、第二百七十條○佛刑、第四百十四條、第四百十五條、第四百十六條)

第二百七十一條 正文略之

雇主ノ徒黨

草第三百一條 凡テ土地ノ所有主雇主製造所ノ主人若クハ商館ノ主人賃銀ヲ減少シ又ハ作業ノ條件ヲ變更セシメンカ爲メ通謀シテ他ノ所有主雇主製造所ノ主人若クハ商館ノ主人ニ對シ暴行重キ脅迫若クハ詐欺ノ計策ヲ行ヒ以テ作業ヲ自由ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第二百七十一條○佛刑、第四百十四條乃至第四百十六條)

商業及農工業ヲ妨害スル罪

一層重キ
刑ニ處ス
ル事

草第三百二條 本章ニ豫定セル情狀アルニ方リ需用品商品若クハ器械ノ毀損アリタルキハ第四百七十一條ニ記載セル刑中諸條ノ刑ヨリ重キモノヲ適用スヘシ(刑零)

(暴行及ヒ脅迫ノ通常刑モ亦タ其前條ノ刑ヨリ重キキハ等シク適用スヘキモノトス)

虚説

第二百七十二條 正文略之

草第三百三條 凡テ虚偽ノ風説又ハ其他詐欺ノ計策ヲ以テ第二百九十八條第一項ニ指示セル需用品ノ定價ニ昂低ヲ生セシメタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第二百七十二條○佛刑第四百十九條第四百二十條)

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 正文略之

參照(再閱刑)第九章 公ケノ官吏其職務ノ執行ニ關シ犯シタル重罪及ヒ輕罪

第一節 官吏公益ニ對スル重罪及ヒ輕罪

草第三百四條 凡テ公ケノ官吏故意ヲ以テ其職掌ニ係ル法律若クハ行政規則ヲ公

法律施行
ヲ缺キタ

ル事

布シ施行シ又ハ施行セシムルノ義務ヲ盡サス又ハ他ノ官吏ノ公布若クハ施行ヲ妨害シタル者ハ其等級又ハ身分ノ如何ヲ問ハス二月以上六月以下ノ輕禁錮二拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第二百七十三條)

若シ二人又ハ數人ノ官吏通謀シテ此罪ヲ犯シタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ(刑零○佛刑第二百二十四條)

第二百七十四條 正文略之

草第三百五條 公力ヲ要求シ又ハ之ヲ使用スルノ權アル公ケノ官吏一揆暴動若クハ兇徒聚衆ノ鎮制ヲ爲ス可キ時ニ方リ故意ヲ以テ之ヲ要求若クハ使用セサル者ハ

二年以上五年以下ノ輕禁錮二拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第二百七十四條)若シ官吏ノ無爲逆徒トノ共謀ニ出テタルキハ逆徒ノ共犯ヲ以テ論シ重キニ從テ處斷ス(刑零○佛刑第二百二十五條)

草第三百六條 前條ノ官吏法律規則若クハ其上官ノ處分ノ執行ヲ妨害スル爲メニ公力ヲ要求シ又ハ使用シタルキハ其刑輕禁獄タルヘシ

若シ其公力ノ使用ヨリ他ノ適正ノ兵隊又ハ人民ト爭鬪ヲ起スニ至リタルキハ其刑重禁錮タルヘシ

前二項ハ場合ニ依リ第三百三十四條乃至第三百三十七條ニ規定シタル重罪ヲ以テ目的

官吏公益ヲ害スル罪

逆徒鎮制
ヲ缺キタ
ル事

トスル一揆若クハ暴動ノ首魁若クハ黨與者ニ對シ制定シタル一層重キ刑ヲ適用スルノ妨ケトナラス(刑、零〇佛刑、第百八十八條乃至第百九十一條)

通謀ノ辭

草第三百七條 凡テ公ケノ官吏二名又ハ數名通謀シテ其職ヲ辭シ故意ヲ以テ或ル公務ノ成就ヲ妨ケタル者ハ一月以上三月以下ノ輕禁錮五圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、零〇佛刑、第百二十六條)

職務ノ不
當ノ繼續

草第三百八條 凡テ公ケノ官吏其職務ノ停止ヲ適法ニ達セラレタル後仍ホ在職シ其資格ヲ以テ該職務ノ處分ヲ行フタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮五圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

官吏其職務ヲ任セラレタル期限經過ノ後又ハ其免職若クハ其隨意辭職ノ聽許ヲ知リタル後仍ホ其職務ノ執行ヲ繼續シタル者ハ三月以上一年以下ノ禁錮拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、零〇佛刑、第百九十七條)

他ノ職務
ノ權領

(公ケノ官吏故意ヲ以テ己ムヲ得サルニ非ラサルニ他ノ官吏ノ管轄ニ屬スヘキモノタルヲ知リ命令又ハ禁止ノ處分ヲ行フタル者ハ前項ニ記載セル刑ニ處ス)(刑、零〇佛刑、第百二十七條乃至第百三十一條)

禁止シタ

草第三百九條 凡テ府縣ノ行政事務ヲ任セラレタル官吏其職務ヲ行フ管轄地内ニ

ル商業

於テ米穀生絲膏油薪炭若クハ建築用ノ木材ニ關スル商業ヲ爲シタル者ハ自己ノ名稱ヲ以テスルト假定ノ名稱ヲ以テスルト介入者ノ名稱ヲ以テスルトヲ分タス又公然爲シタルト伴僞ノ所爲ニ依リタルトヲ問ハス五拾圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

但シ該官吏其所有地又ハ其耕作地ノ或ル生産物ヲ其管轄内ニ於テ賣却スルハ其地ノ所在如何ヲ問ハス本條ノ限ニ在ラス(刑、第百七十五條〇佛刑、第百七十六條)

官吏商業制禁(明治八年四月
第六十五號達)

官吏商賣ノ營業不相成ハ勿論ニ候處其區分判然タラザルニ付自今左ノ通被定候此旨相達候事

但從前ノ指令之レニ抵觸スルモノハ廢止ト可心得事

第一條

一凡ソ官吏タルモノ并ニ其家族トモ他ノ物品ヲ買入レ之ヲ餘人ニ賣以テ利ヲ獲ルモノ或ハ他ノ生産ヲ買入レ製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ業一切禁止ノ事

但神官ニ教導職區戶長郵便取扱人學區取締役ニ及ヒ等外吏ノ分ハ此限ニアラス(八年第百七十六號
達ヲ以テ但書改正)

官吏公益ヲ害スル罪

明治九年六月九日
第九號
第十條
第十一條
第十二條
第十三條
第十四條
第十五條
第十六條
第十七條
第十八條
第十九條
第二十條
第二十一條
第二十二條
第二十三條
第二十四條
第二十五條
第二十六條
第二十七條
第二十八條
第二十九條
第三十條
第三十一條
第三十二條
第三十三條
第三十四條
第三十五條
第三十六條
第三十七條
第三十八條
第三十九條
第四十條
第四十一條
第四十二條
第四十三條
第四十四條
第四十五條
第四十六條
第四十七條
第四十八條
第四十九條
第五十條
第五十一條
第五十二條
第五十三條
第五十四條
第五十五條
第五十六條
第五十七條
第五十八條
第五十九條
第六十條
第六十一條
第六十二條
第六十三條
第六十四條
第六十五條
第六十六條
第六十七條
第六十八條
第六十九條
第七十條
第七十一條
第七十二條
第七十三條
第七十四條
第七十五條
第七十六條
第七十七條
第七十八條
第七十九條
第八十條
第八十一條
第八十二條
第八十三條
第八十四條
第八十五條
第八十六條
第八十七條
第八十八條
第八十九條
第九十條
第九十一條
第九十二條
第九十三條
第九十四條
第九十五條
第九十六條
第九十七條
第九十八條
第九十九條
第一百條

第二條

一 官吏ノ家族自己ノ財ヲ以テ賣買ノ業ヲ營メント欲スル者ハ分籍別居ノ上相營ムベキ事

第三條

- 一 左ノ數件ハ商賈ノ業ニアラサルニ付官吏タル者ト雖凡制禁ニアラサル事
- 但商賈同様に店ヲ開クハ不相成候事
- 一 鑛山借區營業及ヒ田地ヲ所有シ其利ヲ獲ル事(八年第八十七號達)
- 一 田地家屋ヲ貸シテ地代宿賃ヲ獲ル事
- 一 金銀ヲ貸シテ利息ヲ獲ル事
- 一 所有地ヨリ生スル物産ニ製作ヲ加ヘ賣拂事
- 官吏會社ノ株主トナルヲ得ルノ區分(明治十四年五月第三十七號達)
- 官吏商業區分ノ儀ニ付テハ兼テ相達候趣モ有之候處自今道路河港ノ修築海陸ノ運輸土地ノ開墾及ヒ殖産ノ事業ヲ以テ目的ト爲シ設立スル會社ノ株主トナルハ不苦候條此旨相達候事
- 官吏ノ職務上直接關係アル會社ノ株主タルノ禁(明治十四年五月內達)
- 官吏ノ儀ハ濫リニ商社ヘ加入等不相成ハ勿論今般第三十七號達部内ノ會社ト

雖凡其會社ニ直接關係ノ職務アルモノ株主タルハ不都合ニ候條右等ノ儀無之様取締可致此旨及內達候也

○ 後備軍艦員營業認可(明治十四年五月陸軍省へ達)

官吏商業ノ營業不相成儀ハ明治八年第六十五號ヲ以テ相達置候處後備軍艦員(諸官廳ニ奉職スル判任)ニ限リ營業差許候條其業体ニ依リ於其省認可スヘシ此旨相達候事

但營業上ニ付テハ其官名ヲ稱スルヲ得ス

○ 軍艦乘組等級表ニ載スル卒以下商業區分(十一年一月海軍省丙第十七號達)

官吏商業不相成儀ハ明治八年四月中第六十五號公達ノ趣モ有之候處軍人軍屬ノ儀ハ一等卒以下ト雖トモ軍艦乘組等級表ニ列載スルモノハ自今左ノ通可相心得旨相達候事

一 他ノ物品ヲ買入レ之ヲ余人ニ賣以テ利ヲ獲ルモノ或ハ他ノ生産ヲ買入製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ儀一切禁止ノ事

第十一條 官吏並ニ其家屬ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ラサレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ナムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係ス

官吏公益ヲ害スル罪

ルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ラサレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス(明治二十年七月勅令第三十九號官吏服務紀律)

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 正文略之

第二節 官吏ノ身体ニ對スル重罪及ヒ輕罪

權力ノ濫用

草第三百十條 凡テ公ケノ官吏其資格ヲ以テ人民ニ其之レニ要求スルノ權ヲ有セサル所爲ノ成就ヲ擅ニ命令シ又ハ其權利若クハ適法ノ權能ヲ行フヲ惡意ヲ以テ不當ニ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第二百七十六條○佛刑第百十四條第一項)

第二百七十七條 正文略之

不法拘留ノ事ニ關スル懈怠ノ罪

草第三百十四條 凡テ司法警察又ハ行政警察ニ附屬セル官吏監獄内ニ擅恣ノ拘留アルヲ知リ又ハ私宅内ニ監禁アルヲ知テ速ニ之ヲ調査檢證スルヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リ且ツ其管轄ヲ有スルキ之ヲ制止セス又ハ反對ノ場合ニ於テ之ヲ管轄官廳ニ報告セサル者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮四圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第二百七十七條○佛刑第百十九條)

擅恣ノ逮捕

第二百七十八條 正文略之

草第三百十一條 凡テ司法警察若クハ行政警察ノ官吏現行犯ノ場合ノ外法律ニ制定シタル程式並ニ其他ノ規則及ヒ條件ヲ遵奉セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ逮捕セシメタル者ハ擅恣逮捕ノ罪ヲ以テ論シ此一事ノミヲ以テ十五日以上三月以下ノ重禁錮二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

不法ノ拘留

若シ該官吏ノ所爲若クハ懈怠ニ因リ逮捕ノ後不法ノ拘留アリタルキハ通常人民ノ犯シタル擅ニ人ヲ監禁スルノ罪ノ刑ヲ適用スヘシ(刑第二百七十八條○佛刑第百十四條第一項)

裁判官ノ命令不法ノ命

草第三百十二條 (豫審判事其他ノ裁判官毫モ自由剝奪ヲ受ケシム可キ者ニ非ラサルヲ知リ又ハ法律ニ依循シテ其訊問手續ヲ爲サス其逮捕ヲ命令シ又ハ之ヲ繼續シタルキハ前條ニ記載セル區別ニ從ヒ該條ニ制定シタル刑ニ照シテ各一等ヲ加フ)
(刑)零○佛刑第百十四條第二項第百二十一條第百二十二條ト對照スヘシ

第二百七十九條 正文略之

監獄内ニ不法領取又ハ拘置ヲ爲シタル事

草第三百十三條 凡テ監督其他獄舎ノ看守長裁判宣告書令狀又ハ其他正當ナル逮捕ノ命令書ヲ檢視セス囚人ヲ領取拘置シタル者ハ擅恣拘留ノ罪ヲ以テ論シ前條ニ從テ處斷ス

官吏人民ニ對スル罪

前項獄舎ノ看守長未決囚又ハ既決囚ノ假釋又ハ放免ノ爲メ定メタル期限ノ後仍ホ故意ヲ以テ之ヲ拘置シタル者ハ全上ノ刑ニ處セラル可シ(刑第二百七十九條○佛刑第二百十條)

第二百八十條 正文略之

囚人ニ對スル凌虐ノ所遇

草第三百十五條 (凡テ警察官吏囚人ノ看守若クハ護送人囚人ニ對シ必要ノ食物若クハ衣服ヲ屏去シ又ハ之ニ對シ暴行若クハ獄則ニ准サ、ル嚴刻ノ所爲ヲ施シ又ハ凌虐ノ所遇ヲ爲シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其犯罪ニ因テ身体ノ傷害ヲ生シ又ハ終身ノ廢疾ニ致シタル時一層重キ刑ニ處スルハ此限ニ在ラス)(刑第二百八十條)

第二百八十一條 草案欠

第二百八十二條 正文略之

白狀ヲ得シカ爲メ暴行凌虐ノ所遇

草第三百十六條 凡テ裁判官檢察官警察官吏若クハ囚人ノ看守被告人ニ對シ白狀又ハ陳述ヲ爲サシメシカ爲メニ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所遇ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮二拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ場合ニ依リ故意ノ毆打創傷ノ爲メ定メタル一層重キ刑ニ處スルハ此限ニ在ラス(刑第二百八十二條○佛刑第二百八十六條)

同一ノ目的ヲ出タル追

第二百十七條 前條ト同一ノ目的ヲ以テ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所遇ヲ爲サント脅迫シタルニ止マル時ハ其刑二月以上一年以下ノ重禁錮拾圓以上五拾圓以下ノ罰金タルヘシ(刑、零)

第二百八十二條 一號

巡査ハ糺彈官吏ニ

刑法第二百八十二條ニ裁判官檢察官及ヒ司法警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ云々トアリ其警察官吏トハ法律上被告人ニ對シ訊問ヲ爲スヘキ資格アルモノヲ指稱シタル法意ニシテ巡査ハ之レニ包含セサルコトハ上告論旨ノ如クナリトス而シテ當時被告人カ職務如何ヲ監査スレハ原判文ニ被告ハ箴瀨村巡查駐在所在勤中云々トアリテ其資格ナキコトハ明カナルニ之レニ對シ原裁判所カ刑法第二百八十二條ヲ適用シ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ (熊本輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ丸山安貞上告事件明治廿二年四月十日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百八十三條 正文略之

裁判否拒

第三百十八條 凡テ民事又ハ行政裁判官刑事又ハ陸軍裁判官假令ヒ其管轄外ノ事ト雖モ自己ニ付セラレタル事件ヲ審判セサルニ因リ其長官ノ督責ヲ受ケ仍ホ十五日ノ後正當ノ事故ナクシテ其事件ノ本案ニ關シ又ハ自己ノ管轄ニ關シ其判決ヲ爲

官吏人民ニ對スル罪

スヲ拒ミ又ハ怠リタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ重罪又ハ輕罪事件ニ關シ被告人未決拘留ヲ受ケタルハ懈怠シタル裁判官罰
金ノ外十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處セラル可シ(刑第二百八十三條○佛刑第
百八十五條)

第二百八十四條 正文略之

第二百八十五條 正文略之

賄賂

草第三百十九條 凡テ行政又ハ司法部ノ公ケノ官吏仲裁人贈與餽贈ヲ收受シ又ハ
金額有價物其他賄賂ノ目的ニテ之ニ附與シ又ハ提供シタル利益ノ提供若クハ約束
ヲ聽許シタル者ハ其直接タルト間接タルトヲ問ハス此一事ヲ以テ二月以上一年以
下拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ其利益ノ爲メニ官吏次條ニ豫定シタル以外ノ反則又ハ不法ノ處置ヲ行ヒ又ハ
其行フ可キ處分ヲ爲サ、リシ時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但シ其處置又ハ無爲ノ輕重ニ
應シ一層重キ刑アルルキハ之ヲ適用スヘシ(刑第二百八十四條第二百八十五條)

第二百八十四條
第二百九十條

一號

私訴ニ對スル論旨ニ付審按スルニ賄賂收受ノ罪ハ之ヲ聽許シタル官吏ノ瀆職ヲ罰

未タ賄賂
ヲ收受セ

サル前之
カ返還ヲ
求ムルハ
法律ノ保
護ヲ與フ

スル者ニシテ贈遺者ニ對シテハ法律上之ヲ犯罪視セサルナリ故ニ未タ收受者カ贓
罪ヲ構成セサル以前ニ在テ其紹介者等ニ對シ返還ヲ求ムルノ場合ニ於テ法律上ノ
保護ヲ與ヘサルモノト云フヲ得ス況ンヤ本按原裁判所カ認メタル賄賂收受ノ事實
ニアラスシテ欺罔手段ニ出テタル事實ナルニ於テヲヤ(新潟輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ戸田久
吉上告事件明治廿二年二月七日大審
院ニ於テ棄
却ノ判決)

第二百八十六條 正文略之

承前

第三百二十條 凡テ刑事ノ裁判官又ハ陪審官(事件ノ本案ニ付キ)適法ノ判決ヲ言
渡スカ爲メナルモ贈與ヲ收受シ又ハ約束ヲ聽許シタルモノハ此一事ヲ以テ三月以
上二年以下ノ重禁錮二拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ其言渡シタル判決不法ニシテ被告人ニ利アルルハ六月以上三年以下ノ重禁錮
三拾圓以上七拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ其判決不法ニシテ被告人ニ不利ナルルハ二年以上五年以下ノ重禁錮四拾圓以
上百圓以下ノ罰金ニ處ス

然レモ若シ前項ノ場合ニ於テ被告人ニ對シ宣告シタル刑前項ノ刑ヨリ重キルハ前
ノ第二百五十四條及ヒ第二百五十五條ヲ以テ受賄ノ罪アル裁判官又ハ陪審官ニ適
用スヘシ(刑第二百八十六條○佛刑第七十七條第七十八條第八十一條第八

官吏人民ニ對スル罪

十二條

第二百八十七條 正文略之

怨恨若クハ愛情
刑贈賄者ノ
未遂犯
沒收

第三百二十一條 刑事裁判官又ハ陪審官愛情若クハ保護ニ因リ又ハ怨恨若クハ惡意ニ因リ(本案ニ付キ)不法ノ判決又ハ認定ヲ爲タルキハ被告人ニ利ナルト不利ナルトヲ問ハス前條後ノ三項ニ照シ處斷ス(刑、第二百八十七條○佛刑、第百八十三條) 草第三百二十二條 該官吏仲裁人又ハ陪審官ニ賄賂トシテ贈與又ハ約束ヲ爲シタル本犯ハ前諸條ニ記載シタル區別ニ從ヒ收受聽許シタル者ト同刑ニ處ス(刑、零)

第二百八十八條 正文略之

草第三百二十三條 何レノ場合ニ於テモ賄賂トシテ贈與シ且ツ收受セラレタル金額又ハ有價物ヲ其儘受賄官吏ノ掌中ニ發顯スル片ハ之ヲ沒收ス反對ノ場合ニ於テハ發顯セサル金額ニ等シキ罰金ニ處ス(刑、第二百八十八條○佛刑、第百八十條)

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 正文略之

第三節 官吏國又ハ人民ノ財産ニ對スル重罪及ヒ輕罪

竊取詐欺

草第三百二十四條 凡テ國庫ノ會計吏政府若クハ行政官廳ニ屬スル需用品其他或

不正ノ得
利益

ル物件ノ受托者若クハ監守者其職務ニ據リ保有スル所ノ金額若クハ有價物ノ全部又ハ一部ヲ竊取シ若クハ詐取シタル者ハ竊盜ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ該會計吏ノ屬吏若クハ下役ハ自カラ官吏ノ資格ヲ有セスト雖モ前項竊取ノ正犯タルキハ竊盜ノ刑ニ照シ一等ヲ加フ其使丁ニ就テモ亦同シ但シ何レノ場合ニ於テモ其職務ニ關スル證書簿冊若クハ文書類ノ偽造アリタルハ官文書偽造ノ刑ニ照シテ處斷ス(刑、第二百八十九條○佛刑、第百六十九條以下) 草第三百二十五條 (凡テ官吏其職務ニ據リ契約若クハ落札工業若クハ供給物ノ監督及ヒ一般ニ國ノ公領又ハ私領ノ資産ニ關スル處置ヲ爲スヲ任セラレタル者其處置ニ關シ金額又ハ金額ニ評定スルヲ得ヘキ利益ヲ收受シ又ハ聽許シタルキハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ其實得シタル利益ノ四分一ヨリ少ナカラス二分一ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス但シ第三百二十三條ニ規定シタル如ク該利得ハ之ヲ沒收スルモノトス)(刑、零○佛刑、第百七十五條)

第二百八十九條

一號

原裁判所ハ刑法第二百八十九條ノ刑ニ一等ヲ減シ重禁錮三年監視一年ノ刑ヲ言渡シタルニ其監視ノ正條刑法第二百九十二條ヲ適用セザリシハ附帶上告及ヒ代言人

郵便書狀
ヲ開披シ
テ爲替チ
竊取シタ

官吏財産ニ對スル罪

ルハ其開
披罪ハ特
盗ノ結果
ナリ

雇員ト雖
同シク論
スルノ例

官署ノ帳
簿ノ如キ
ハ其官署
ニ備置ス

ナリテ行
使トス

筆生タリ
ト雖官署
吏ノ資格
ヲ以テ取
扱ハタル
事務ニ付
テハ官署
ト同一ノ
責任ヲ負
フ

ノ擴張第一論旨ノ如ク失當ノ裁判タルヲ免レヌ且被告人ハ金圓ヲ竊取スル爲メニ
郵便書狀ヲ披封シタルモノニシテ其披封ハ竊取ノ手段タルニ過キサレハ竊取罪ノ
外別ニ披封ノ罪ヲ組成スルモノニ非ラス然ルニ原裁判所ハ金員竊取ト披封トノ二
罪アリトシ刑法第二百八十九條ノ外仍ホ郵便條例第二百三十四條ヲ適用シタルハ
共ニ擬律ノ錯誤ナリト(千葉重罪裁判所ノ言渡ニ對シ五木田義雄上告事件
明治廿一年十月四日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百八十九條

二號

原判文ニ戶長役場ノ雇員トナリ戶長ノ命ヲ受ケ協議費徵收ノ事務擔任中其徵收シ
監守スル處ノ明治十六年度ノ金五百七拾八圓廿三錢四厘ノ内金三十八圓四十錢ヲ
數度ニ竊取ストアリテ戶長ノ命ニ依リ官吏ノ職務ヲ行ヒ其監守スル處ノ金圓ヲ竊
取セシモノナレハ假令雇員ト雖モ官吏ト同ク論スヘキモノナリ(高知重罪裁判所ノ言渡
事件明治十九年五月七日
大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百八十九條第二項

三號

原判文ヲ閱スルニ被告カ監掌ニ係ル簿冊ヲ變換行使シタルトノ件ハ被告ニ於テ四
徒携有金品領置簿へ悉ク下渡ヲ爲シタル年月日及ヒ人名ヲ記入シテ下渡濟ノ印ヲ

押捺シ以テ其實下渡ヲ爲シタルモノ、如ク爲シ置キタルニ止リ未タ之ヲ主任書記
若クハ典獄ニ差出スカ如キ行使ノ實ナキモノトアレモ官署ニ備ヘ附アル帳簿ノ如
キハ現ニ簿冊ヲ増減變換シ其金品ヲ運轉シ竊盜ノ目的ヲ達シタル以上ハ即チ之ヲ
行使シタル實アル者トス然ルヲ簿冊變換行使罪ノ原素ヲ欠クモノトシテ刑法第二
條ニ依リ無罪ヲ言渡シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ該當スル擬律錯誤ノ裁判
ナリ(高知重罪裁判所ノ言渡ニ對シ細川進上告事件
明治二十一年九月四日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百八十九條

四號

戶長役場ノ筆生ハ一ノ雇員ナリト雖モ租稅徵收等ノ事務ヲ擔任シ監守スル金員等
ヲ竊取シタルモハ官吏ヲ以テ論シ刑法第二百八十九條ヲ適用ス可キモノナルニ原
會議局ニ於テ刑法第二百八十九條ニ所謂官吏トハ定員定職アルモノヲ云フ本件被
告ノ如キハ戶長ニ於テ一時雇入レ種々ノ事務ヲ取扱ハシムル筆生ニ過キサレハ定
員定職アル者ト爲ストノ理由ヲ付シ被告兩名ハ諸稅金徵收ノ事務ヲ擔當シ
金員監守ノ責任アル者ナルヤ否ノ事實ヲ審究セス漫ニ刑法第三百九十五條ニ該
當スベキ輕罪ナリト言渡シタルハ越權ノ處分アル不法ノ裁判ナリトス(新潟裁判所會
議局ノ言渡ニ
對シ田原周太相馬忠太上告事件明治廿一年
十月三十一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

官吏財產ニ對スル罪

第二百八十九條

五號

凡ソ己レノ監守スル金員ヲ竊取スルハ他ノ竊盜ノ如キ手段ヲ要セス且其手段ニ依リ刑ニ輕重ナケレハ監守金ヲ竊取シト掲クルヲ以テ足レトス又其金員ハ竊取ノ高ヲ示セハ充分ニテ竊取ニ係ラサル支拂金額ヲ示スモノニアラサレハ戶長以下給料旅費ノ内未タ戶長役場ニ於テ支拂ハサル若干金ヲ竊取シタリト認メタルモノニテ公私訴ノ判文毫モ齟齬スル處ナシ(廣島重罪裁判所ノ言渡ニ對シ三浦忠綱上告事件明治二十一年五月十七日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

六號

被告ハ雇員ナレハ常人ト異ナルヲナシト云フモ原判文ヲ檢スルニ被告ハ神戸郵便電信局雇員ニシテ神戸大津間郵便物護送方ヲ担任シ云々監守ニ係ル云々金圓郵便切手ヲ竊取シタリトアリテ其郵便物保管ノ責任アルハ明白ナレハ刑法第二百八十九條ヲ適用シタルハ相當ノ裁判ニシテ擬律ノ錯誤ナリト云フヲ得ス(神戸重罪裁判所ノ言渡ニ對シ小畑貞真上告事件明治二十一年六月五日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百八十九條

七號

官吏カ制規ニ據リ配下ノ人民ヨリ徵集シタル金員ハ其性質ノ如何ニ拘ラス保管中

金圓ハ摺
テ官金ナ

贓金ヲ代
償スルモ
犯罪構造
上何等ノ
影響ヲ及
ササルモ
ノトス

荷シクモ
官吏ノ資
格ヲ有ス
ル者ニシ
テ自己ノ
監守ニ係

ハ總テ官金ト稱スヘキモノナリ又刑法第二百八十九條ニ問擬シタルハ不法ナリト云フモ官吏ノ資格ヲ以テ保管シタル金員ヲ竊取シタルハ即チ監守盜ヲ以テ論セサル可ラス(甲府重罪裁判所ノ言渡ニ對シ松山新吉上告事件明治二十一年十月九日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百八十九條

八號

原裁判言渡書ヲ檢閱スルニ被告人ハ戶長役場用係勤務中戶長代理ノ資格ヲ以テ人民ヨリ領收シ監守スル所ノ金圓ヲ竊取シタル所爲アリト認定シ其事實及ヒ採集セシ證據ヲ明示シ法律ニ照シ相當ノ刑ヲ言渡シタルモノナレハ事實理由ノ齟齬不備アルニ非ス又固ヨリ擬律ノ錯誤アルニモ非サルナリ然ルニ被告人ハ戶長ニ於テ其金額ヲ上納シタルニ因リ犯罪ヲ組成セスト云モ他人ヨリ其贓金ヲ代償スル時ハ監守盜ノ罪ナシト謂フノ理ナシ(前橋重罪裁判所ノ言渡ニ對シ阿部好登上告事件明治二十一年三月七日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百八十九條

九號

原判文ヲ檢スルニ被告順吾ハ東京郵便局傭ニシテ郵便書記ノ事務取扱ヲ特ニ命ゼラレ兩國郵便支局ニ勤務シ郵便物差立掛担任中全局ヨリ振出ニ係ル云々小爲替證書ヲ担任ノ郵便物中ヨリ數次ニ連續シテ即チ其證券振出當日ニ於テ之ヲ竊取シタ

官吏財産ニ對スル罪

ル物件ヲ
竊取スレ
ハ監守者
タルヲ免
レス

監守ノ事
實ハ監守
盜非構成
ノ要素タ
ラズ

監守盜ノ
方法手段
ハ明示ナ
クハ要ス
何ナリ

トナレハ
犯成立ニ
影響ナク
レハナリ

ル者ト事實ヲ認メアレハ假令書記ノ事務取扱ノ司令ハ何様ノ手續キニ係ルモ其事
務担任中ハ官吏ノ資格ヲ有シ即チ監守者ト言ハサル可ラス故ニ原裁判所カ郵便小
爲替券竊取ノ件ハ刑法第二百八十九條ニ依テ處斷シタルハ相當ノ裁判ナリトス
(東京重罪裁判所ノ言渡シニ對シ關根順吾上告事件
明治二十一年九月廿八日大審院ニ於テ棄却判決)

第二百八十九條

十號

凡官吏監掌ニ係ル所ノ金額ヲ竊取費消シタル事實アリトセハ刑法第二百八十九條
ノ責罰ヲ免レサルヤ論ヲ俟ヌ今原判文ヲ監査シ其認ムル所ニヨレハ第一項ヨリ
第四項ニ至リ被告カ監守スル所ノ操替金製茶紀念碑寄附金又ハ郵便切手等ヲ竊取
費消シタル事實理ヲ明示シ而シ之ニ相當スル即チ刑法第二百八十九條ヲ適施シア
リテ更ニ違法ノ裁判ト認ムヘキ廉アルヲ發見セス(京都重罪裁判所ノ言渡シニ對シ池田懸胤上
告事件明治二十二年二月廿九日大審院公
却ノ判決)

第二百八十九條

十一號

原裁判言渡書ヲ檢閱スルニ被告人ハ戶長奉職中其部内ヨリ徵取セシ明治十六年度
第一期地租及ヒ地租割金等ノ内明治十六年八月七日金百五十圓全年八月廿四日金

三百圓ヲ竊取シ又全年度第二期地租及ヒ地租割金數割ノ内金二百圓餘ヲ竊取シ以
テ自己ノ負債ニ充用セリ然ルニ其上納期限ニ至リ自ラ差支ヲ生シタルヨリ全年八
月以來逐次徵收セシ他ノ公租金等ヲ流用シ以テ前期ノ上納金ヲ補償セシト雖モ結
局幾分ノ殘金ヲ存スルノミニ第二期ノ上納金ヲ完納スル能ハサルニ至レリ是ニ
於テ更ニ該殘金ヲ竊取シタル上其罪跡ヲ隱蔽スル爲メ明治十六年十一月十九日
自己ノ竊取シタル金額ニ相當スル金千五十圓余自宅ニ於テ盜難ニ係リタル旨ヲ告
訴シ引續戶長役場ニ備ヘタル諸上納受拂簿中全年九月十八日以後收入ニ係ル金額
月日等ヲ増減變換シ及ヒ新ニ諸上納受拂簿ヲ偽造シ共ニ之ヲ梁田郡役所ニ差出シ
云々トアリテ被告人カ其職務ヲ以テ徵收セシ各種公租金ノ内之ヲ監守中自ラ竊取
シタル事實ヲ明示シ其二百圓余ヲ竊取セシ年月ハ十六年八月后十一月前ニ在ル
判文ノ前後ヲ參照シ推知スルコトヲ得ヘシ而シテ結局ト云ヒ是ニ於テト云フハ即チ
十一月十九日ノ所爲ヲ惹起ス爲メノ文字ナレハ別ニ月日ヲ記スルヲ要セス抑監守
自盜ノ所爲ニ付キ其竊取ノ方法月日等ハ本人ノ自白アラサルヨリハ之ヲ詳知スル
ニ由シナク又之ヲ明示スルヲ要セサルナリ其新ニ諸上納受拂簿ヲ偽造シトアルハ
別ニ帳簿ヲ作リ不實ノ事ヲ記載セシ所爲ニシテ他ニ偽造ノ方法アルニ非ス而シテ
諸帳簿ヲ増減變換シ及ヒ新ニ偽造シ之ヲ郡役所ニ差出シトアレハ其行使シタル事

官吏財産ニ對スル罪

實明白ニシテ其理由ヲ闕クト云フヲ得ス(東京重罪裁判所ノ言渡ニ對シ寺山孫次郎上告事件
明治二十一年二月七日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

十二號

開封ニ對シ
書信ニ對シ
シ金圓ヲ
得ルト否
トニヨリ
開封罪ノ
成否ヲ別
ツ

開封シテ物ヲ得サル信書ニ對シテハ郵便條例第二百三十四條ニ處斷ス可ク又物ヲ得タル信書ニ對シテハ刑法第二百八十九條ニ照シ處斷ス可ク其書信開封罪ニ就テハ別ニ犯罪ヲ組成セズシテ竊盜罪ノ手段中ニ入ルモノトス(木下幸太郎上告事件明治二十年九月二十日大審院判決)

第二百九十條 正文略之

收斂罪

草第三百二十六條 凡テ租稅其他或ル入額又ハ政府若クハ行政官廳ニ收納スヘキ元金ノ取戻ヲ任セラレタル公ケノ官吏手傳役屬吏故意ヲ以テ全部又ハ一部ノ正數外ナル金額若クハ有價物ヲ納メシメ又ハ領收シ自己ノ所有ト爲シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(刑)第二百九十條○佛刑)第百七十四條第一項及第二項

〔會計吏正當ニ徵收シタル税金中ヲ以テ與ヘラル、所ノ控除金ヲ不正ニ徵收シタル税金中ヨリ領收シタル場合ニ於テモ亦タ同一ノ刑ヲ適用ス(刑)零〕
第三百二十六條第二(本節ニ規定シタル犯罪ハ未遂犯タリモ仍ホ罰ス可キモノトス(刑)零○佛刑)第百七十四條第三項

ス(刑)零○佛刑)第百七十四條第三項

第二百九十一條 草案欠

第三編 身体財産ニ關スル重罪輕罪

第一章 身体ニ對スル罪

第一節 謀殺ノ罪

第二百九十二條 正文略之

〔再閱刑〕第一章 身体ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第一節 謀殺毒殺及ヒ其他故意ノ殺害ノ罪

謀殺

草第三百二十七條 豫防シテ故殺即チ故意ノ殺害ヲ爲シタルノ罪ヲ犯シタル者ハ「謀殺ノ罪」ト稱シ死刑ニ處ス(刑)第二百九十二條○佛刑)第二百九十五條乃至第二百九十八條第三百二條

第二百九十二條
第三百二十一條

被告人本田松野ヲ殺害セント決意シ詐言ヲ以テ松野ヲ欺瞞シ巧ミニ情死ノ事ヲ勸誘シ終ニ短刀ヲ以テ松野ノ咽喉ヲ刺シ絶命セシメタル者ニシテ其豫メ謀テ人ヲ殺シタル所爲ナルト明白ナリ然ルニ裁判官ハ此事實ヲ認メナカラ自殺ニ關スル罪ナリトシ刑法第三百二十一條ニ依リ處斷シタルハ檢察官上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ

情死ヲ假
裝シタル
殺害ハ謀
殺ナリ

謀殺

係ル不法ノ裁判ナリトス(岐阜重罪裁判所ノ言渡シニ對シ大洞七三郎上告事件 明治廿一年八月十一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十二條

一號

原判文ニ認ムル如ク憤怒ノ餘リ殺害セント決心シ出刃丁ヲ買求メ之レヲ懷中ニ入レ云々トアリテ被告ノ所爲ハ臨時殺意ヲ生シタルニアラス其前ニ於テ殺意ヲ決シ出刃丁ヲ豫備シタルモノナレバ故殺ナリト云フヲ得ス(大坂重罪裁判所ノ言渡ニ對シ 年三月十四日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百九十四條

二號

原裁判言渡書ヲ閱スルニ(前爰ニ至リ初メテ同人ヲ殺害シテ平素ノ怨ヲ霽サント 決心シ猶其場ニ忍ヒ時機ヲ待居タルニ程ナク靜マリタルヨリ云々家丁席ノ押入ノ 内ヨリ取出シ鞘ヲ拂ヒ拔刀ニテ云々忍ヒ入り休息シタル謙作ノ頭部ヲ目掛ケテ夜 具ノ上ヨリ及ヒ其外數太刀ヲ切付ケ終ニ殺害ノ目的ヲ達シタルモノナリ)ト事實 ノ理由ヲ付シ而シテ後段ニ刑法第二百九十四條ヲ適用シ故殺罪ヲ以テ斷定セリ然 ルニ事實中殺意ヲ決シテ猶其場ニ忍ヒ時機ヲ待チ押入中ヨリ刀ヲ取り出シ鞘ヲ拂 ヒ被害者ノ詰所ニ忍入り切付ケタル等ノ理由ニ依レハ深思熟慮シテ豫備ノ行爲ヲ

謀殺放殺ノ區別

以テ殺害シタル即チ謀殺ノ事實ナルモノ、如クシテ故殺罪ノ要件タル怒リニ乘シ 忽然殺意ヲ發シ熟慮スルノ暇ナク直チニ殺害シタルノ事實ハ之ヲ明示セサルモノ ナリ然ラハ則チ原裁判所カ刑法第二百九十四條ヲ適用シタル果シテ擬律其當ヲ得 タルモノナルヤ否ヤ監査スルニ由ナキ事實ノ理由不備ナル不法ノ裁判ナリ(東京重 罪裁判所ノ言渡ニ對シ分目總吉上告事件明治二十一年十二月十四日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十二條

三號

被害者カ致命ノ近因ハ腦症ニシテ負傷ニアラス故ニ謀殺既遂ヲ以テ處斷シタルハ 不法ナリト云フモ原判文ヲ閱スルニ前畧深サ腦ニ達シタル爲メ腦症ヲ起シ云々ト アリテ負傷ノ爲メニ腦症ヲ發シ遂ニ死去シタルヲ明瞭ナレハ謀殺既遂ヲ以テ處斷 シタルハ相當ナリ(浦和重罪裁判所ノ言渡ニ對シ宮崎繁七上告事件 明治廿一年四月十一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十二條

四號

原裁判言渡ヲ檢案スルニ被告人ハ養父惣五郎ト財産上ノ事ヨリ紛争ヲ生シ爾來相 親和セサリシヨリ終ニ惣五郎ヲ除クノ心ヲ決シ明治十九年三月十二日夜家人ノ不 在ニ乘シ雨戸一枚ヲ開キ物品ヲ散亂セシムル等恰モ賊ノ忍入りタル如キ狀況ヲ爲

謀殺

他ニ顯ハ
レタル事
實アレハ
敢テ豫謀
ノ事實ナ
リトシ特

創傷ニ基
因シタル
結果ハ其
者其責ニ
任スベキ
モノトス

示スルヲ
モトス

謀殺罪ヲ
構成スル
ニハ豫謀
決意ノ事
實ヲルナ
要ス

謀殺決行
中ニ他人
ヲ殺傷ス
ルモ其他
人ニ對ス
ルノ所爲
ハ必スシ
モ謀殺ト
爲スナ得
ス

共謀シテ

シ以テ己レノ犯跡ヲ蔽ハント謀リ然ル後惣五郎ノ熟眠ヲ襲ヒ之ヲ殺害シタルノ始
末ヲ掲載シアレハ其豫メ謀テ殺害セシ事實ナリトス(千葉重罪裁判所ノ言渡ニ對シ坂部首藏
上告事件明治廿一年三月六日大審院ニ
於棄却
ノ判決)

第二百九十二條

五號

原判文ヲ閱スルニ前被告ハ小西川權七方ニ至リ「ヤス」ヲ先ツ以テ戶外ニ呼出シ尙
其伯父方ヘ同行セヨト「ヤス」ニ申聞ケタルモ兩親ヲ捨置キ他行ノ難相成旨斷ルヨ
リ所持ノ短刀様ノ物ヲ以テ「ヤス」ノ咽喉ヲ突キ云々ト在ル事實ヲ按スルニ被告カ
「ヤス」ヲ他ニ誘導セント試ミタル意思ハ推測スルニ足ルモ謀殺罪ニ必要ナル靜思
熟慮及ヒ決意アリタルヲ辨知シ能ハサルノミナラス「ヤス」カ他行ヲ斷ルヨリ所持
ノ短刀様ノ物ヲ以テ云々トアル事實ニ據ル時ハ却テ故殺若クハ歐打創傷ノ罪ト云
フヘキモノ、如シ凡ソ謀殺罪ナリト認ムルニ於テハ必ス豫備決意ノ事實ヲ明示セ
サル可カラス然ルニ原裁判言渡ハ其必要ノ條件ヲ明示セス單ニ事實末段ニ於テ該
所爲ハ云々豫メ謀テ殺害セントシテ遂ケサルモノト認定ヲ下シタル迄ニシテ未タ
之ヲ以テ犯罪構造ノ事實理由ヲ明示シタルモノト斷定スルヲ得ス(靜岡重罪裁判所ノ
吉上告事件明治廿一年五月廿
六日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十二條

六號

刑法第二百九十二條ヲ按スルニ豫メ謀テ人ヲ殺シタルモノハ謀殺ノ罪ト爲シ云々
トアレハ其謀殺決行中他人ヲ殺傷シタル場合ト雖モ右法條ニ適合スル條件具備セ
サルニ於テハ直ニ謀殺罪ヲ以テ論斷スルヨリ得サルモノトス何トナレハ謀殺決行
中ノ所爲ト雖モ各其事實ニ由テ罪ノ成立スルハ固ヨリニシテ一個ノ意見ヲ以テ二
個ノ謀殺罪ヲ組成スル道理ナケレハナリ今原判決書ニ就テ被告カ音羽信太郎ニ對
スル事實理由ヲ閱スルニ「テ」ヲ目掛ケ其左肩ニ切付ケタルモ死セサルヨリ尙ホ
二刀目ヲ切下ケントスル處ヲ信太郎カ前面ヨリ抱キ付キタルヲ以テ遂ニ信太郎ノ
左肩ニ切付ケ云々トアル點ニシテ被告カ信太郎ニ切付ケタル所爲ハ或ハ其妻「テ
」ト均シク謀殺スルノ意思目的ニ出テ事茲ニ至リシモノナルヤ否ヤ乃チ刑法第
二百九十二條ノ罪ヲ組成スルニ必要ナル事實理由ハ毫モ之ヲ明示セサルモノナリ
故ニ謀殺決行中ノ所爲ト云フノミヲ以テ謀殺ノ未遂ト斷定シタルハ理由ノ不備ヲ
免カレサル不法ノ判決ナリ(靜岡重罪裁判所會議局ノ言渡ニ對シ島角太郎上告事件
明治二十一年十一月二十九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十二條

七號

原判文ヲ觀ルニ(上略明治十八年四月十日同意者概子地主山ニ集合スルヤ精行ハ

謀殺

謀殺シタルノ適用

之ニ對シ殺害ノ方法ヲ尋テタルニ伊三郎ハ之ヲ銃殺スヘシトノ意見ヲ述ヘタルニ
精行ハ之ヲ斥ケ銃殺ハ其創痕ヲ死体ニ留ムルヲ以テ犯罪發覺ノ恐アレハ捕縛シテ
之ヲ水中ニ沈メ絶命ノ後縛ヲ解キ彼レ自ラ溺死セシ体ニ仕做シ置ク方可ナラント
ノ意見ヲ演ヘシニ亦一同之ニ同意シタルヲ以テ長田利太郎及福吉ヲシテ熊岡常之
進ノ在宅ナリヤ否ヲ觀察セシメ常之進カ本村即チ船村戸長役場ニ赴クヲ知ルヤ同
人ノ歸路ヲ拒守シ殺害セシトテ伊三郎等ニ謀リ云々精行岩次ハ同字馬木ノ越ヲ峰
太喜馬太ハ同字西ケ峰ノ間道ヲ捉持シ云々果ノ常之進カ歸リ來ルヲ以テ第一ノ
「タシセカ」休場ハ無事ニ通過セシメ第二ノ「シ」ハナ口ニ來懸ルヤ伊三郎壽太郎寅
次實吾友次等ハ木竹福吾ハ戸田徳次ヨリ借受ケタル十手ヲ以テ毆チ倒シ云々ト
アリ被告精行ハ自ラ殺害ニ手ヲ下サスト雖モ既ニ其殺害ノ方法ヲ示シ殺害スヘキ
場所ヲ定メ各々其場ヲ拒守シ第一ノ場所ヲ逃走セハ第二第二ヲ逃走セハ第三第四
ニ於テ捕獲スヘシト謀リ被告モ其一方ヲ拒守シタルモノニシテ其殺害ハ各人一体
ノ所爲ナレハ被告ハ實行者ノ一人ナルハ論ヲ俟タス原裁判モ此事實ヲ認定シタル
トハ右判文ノ文詞ニ依リテ明カニシテ決テ教唆者ナリト認メタルニ非ラス(高知重
罪裁判
所ノ言渡ニ對シ戸田精行上告事件明治
廿一年十月九日大審院ニ於テ棄却ノ判)

第三百九十二條 第三百一
第三百一
第三百一

中止犯ト
未遂犯ノ
區別

八號

中止犯トハ犯罪ヲ決行シ了ハラサル以前ニ在テ犯人自ラ之ヲ遂行スルヲ止ムルノ
謂ニシテ犯人ノ真心悔悟ニ出ツルト被害者ノ發色ヲ聞キ哀情ヲ生スルト又ハ其目
的人即チ被害者ノ人達ナルニ因ルトヲ問ハス苟モ犯人自己ノ意思ヨリ出テ其行爲
ヲ中止シタル場合ハ總テ中止犯ニシテ彼ノ犯人意外ノ障碍若クハ舛錯ニ依リ其目
的ヲ遂ケ得サル場合トハ決テ同視ス可カラサルナリ今原判文言渡ニ認メタル事實
ヲ閱スルニ(前豫テ用意ノ短刀ヲ持チ先ツ姦夫ト覺シキ者ヲ刺撃スルニ敢テ驚愕
ノ模様ナク又一撃スルニ其叫聲小兒ノ音聲ニシテ姦夫喜三郎ト思ハレサルニ駭キ
急ニ妻ミナヲ起シ燈火ヲ點セシメタルニ姦夫ニアラスシテ長女テイナリシカハ狼
狽シテ家外ニ驅出シ近隣ニ告ケ官ニ自首シタル事實)云々トアリテ意外ノ障碍ニ
依リ遂ケ得サルニ非ラス被告自ラノ意思ヲ以テ其行爲ヲ中止シタル事實ナルヲ明
カナリ然リ而シテ被告カ現ニ加ヘタル被害者ノ負傷ハ十五日ニシテ全癒ニ及ヒタ
ルハ亦一件書類ニ徴シテ明了ナレハ刑法第三百一一條ニ該當スル輕罪ナルニ原裁判
所カ之ヲ謀殺未遂罪ナリトシ管轄違ヒノ言渡シヲ爲シタルハ上告ノ論旨ノ如ク破
毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリト判定ス(宇都宮縣裁判所ノ言渡ニ對シ平田半平上告事件
明治二十年四月三十日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十二條 第二百五條

謀殺

第二百九十四條

九號

凡ソ謀殺罪ヲ組成センニハ社會ニ現出セシ一個人ニ對シテ豫謀殺害ノ行爲アリタルヲ要ス然ルニ母ノ胎内ニ來リテ未タ社會ニ生出セサル人ノ如キハ蓋シ完全ノ一個人ト稱ス可ラサレハ假令出産ノ前是レヲ殺害セント謀リタルモ之ヲ以テ謀殺ノ豫備ト爲シ難ク即チ出産ノ當時始メテ殺意ヲ生シタル者ト看做サ、ル可ラス故ニ刑法第二百九十四條ノ故殺罪ナリトスルハ格別謀殺ナリトスルヲ得ス

又胎内ニ來リタル人ヲシテ生産セハ殺ス可ト勸メタルモノ、如キハ社會ニ生存スル人ニ對セシ殺害ニアラサルヲ以テ謀殺殺害ノ罪ヲ構成セサルコト論ナキナレハ刑法第二百五條ヲ適用ス可キモノニアラス(西田キヨカ神戶重罪裁判所ノ言渡ニ對スル上告事件明治二十二年一月十七日大審院判決)

第二百九十三條 正文略之

第三百二十九條 死ニ致ス可キ性質ノ物品ヲ配劑シ以テ故意ノ殺害ヲ爲シタル者ハ豫謀ナキト雖モ「毒殺ノ罪」ト稱シ死刑ニ處フ(刑)第二百九十三條○佛刑、第三百一一條、第三百二條)

第二百九十三條

一號

毒殺ノ手段ナキモナリトス

原裁判官渡邊ヲ檢スルニ森下三平カ梅毒症ニ罹リ「モルヒネ」ノ該病ニ功能アルヲ聞キ藥舖ニテ購求セントシタルモ之レヲ得サリシ趣キヲ以テ被告惡意ノ醫師アルヘキニ付キ「モルヒネ」ヲ買ヒ吳レ度シトノ被告ハ依頼ヲ受ケ云々惡意ナル醫師深井純一ヨリ藥舖ヘノ通帳ヲ以テ藥舖ヨリ「モルヒネ」ヲ購求シ明治二十二年六月三日三平カ農業ノ飯途宅前ヲ通過スルヲ酒ヲ呑ムヘシトテ呼ヒ入レ飲酒スルノ際被告ハ右ノ硫酸「モルヒネ」二瓶ヲ三平ニ渡シタルハ必ス三平ハ其死ニ至ルヘキ分量ヲ知ラシテ其場ニ於テ多量ニ服用スヘキヲ豫想シ之レヲ三平ニ渡シタルニ果シテ三平ハ之レヲ受取り其分量凡ソ其一瓶ノ四分ノ一弱即チ死スルニ至ルヘキ多量ヲ直ニ手ノ内ニ移シ出シテ服用セントスル際被告ハ即チ之レヲ殺スノ謀計ヲ成シ遂ケントシ其服用ヲ止メスシテ水ヲ汲ミテ三平ニ與ヘ前顯ノ如キ多量ノ硫酸「モルヒネ」ヲ頓服セシメタリ因テ三平ハ自宅ニ飯リ同夜右「モルヒネ」中毒ノ爲メ絶命シタルモノナリトアリ抑モ毒殺罪ハ故意ヲ以テ毒藥ヲ施用シ以テ人ヲ死ニ致スニアラサレハ成立セス本案ノ如キハ前顯ノ如ク被告カ三平ニ渡シタル「モルヒネ」ハ三平カ毒藥ニシテ自カラ購求シ得サルカ爲メ被告ニ對シ其惡意ナル醫師ニ就キ購求シ吳レトノ依頼ニ付キ被告ニ於テ購求シ渡シタルモノニシテ被告カ三平ニ對シ其毒藥タルノ情ヲ明カサスシテ殊更ニ渡シタルモノニアラサレハ之レヲ以テ毒藥

謀殺

ヲ施用シタリト云フヲ得ヌ又其服用スルニ際シ止メヌシテ水ヲ與ヘタルモ被告カ
 三平ニ勢ヒ服用セサル可カラサルノ手段方法ヲ辨ヘ服用セシメタルニアラスシテ
 三平自身ニ病ヲ治センカ爲メ自カラ其「モルヒチ」タルヲ知テ服用シタルモノナ
 レハ是亦毒藥施用ノ所爲ト云フヲ得ヌ要スルニ三平カ致死ノ結果ヲ招キタルハ自
 己カ服用ノ適度ヲ誤リ夫レカ爲メ絶命シタルモノニシテ被告ノ豫謀ニ罹リタルニ
 アラサルモノトス故ニ原裁判言渡書ノ認ムル事實ニ依レハ被告ノ所爲ハ只其依頼
 ニ應シ購求シ遣ハシタルト三平カ服用スルニ當リ止メヌト云フニ過キス故ニ毒藥
 ナ施用シテ人ヲ殺スノ罪アリト云フヲ得ヌ然ルヲ原裁判所カ此事實ヲ認メナカラ
 刑法第二百九十三條ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤タルヲ免カレサル不法ノ裁判ナレ
 ハ破毀シテ無罪ヲ言渡ス(廣島重罪裁判所ノ言渡ニ對シ田坂吉之助上告事件
 明治廿二年十二月廿四日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十三條

二號

原判文ニ被告人ハ重藏ノ所業ヲ厭ヒ父金助死亡後ハ一層憎ミヲ生シ烏頭草ノ毒物
 ナルヲ知リ居ルヨリ之ヲ重藏ニ喰ハシメント土手ニ在ルヲ掘出シ食物ニ混入シ
 重藏ニ喰ハシメ重藏ハ爲メニ數時間ニシテ死シタル旨ヲ記載シアレバ別ニ烏頭草
 ノ分量及殺意ヲ決シタルヲ明示セサルモ被告人カ重藏ヲ毒殺セシテ判然ナレハ

犯罪成立
 必要ノ
 事由ヲ揭
 示スルナリ
 足ルナリ

事實理由不備ニアラス(盛岡重罪裁判所ノ言渡ニ對シ近藤セン上告事件
 明治廿一年十月十六日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百九十三條

三號

被告カ用井タル毒藥即チ「ストリキニ」トシテハ其性効嚴烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ
 人ヲ殺スニ足ル者ナルヤ否ヤヲ知リタル事實理由ヲ明示セサルハ不當ナリト云フ
 モ原判文ヲ閱スルニ被告トメカ妬情倍太甚シ明治二十年十月下旬ニ至リ夫松次
 郎ヲ殺害セント決意シ云云夫松次郎カ常ニ飯容器ニ用ユル五寸重箱内ノ殘飯ヘ右
 「ストリキニ」トシテ混和シ置キ云々トアリテ夫松次郎ヲ殺サンカ爲メ該毒藥ヲ使
 用シタル事實明カナレバ即チ人ヲ殺スニ足ルベキ毒藥ナリシヲ知リテ使用シ爲
 メニ松次郎ヲ殺シタルニ於テハ其分量ヲ被告カ知リ居リシヤ否ヲ明示スルノ必用
 ナシトス(大津重罪裁判所ノ言渡ニ對シ中島トメ上告事件
 明治廿一年六月廿六日大審院ニ於テ棄却ノ判決
 第三百九十三條
 第三百九十二條)

四條

藥品取扱規則第一條ニ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ性命ヲ傷害スル
 ニ足ルヘキモノヲ第二類毒藥トストアリテ「モルヒチ」ハ第二類ノ毒藥ナルヲ明瞭
 ナリ故ニ苟モ惡意ヲ以テシナラ毒殺セント謀リ「モルヒチ」ヲシナニ飲マシメ「モル

謀殺

毒殺罪ヲ
 組成スル
 ニハ其分
 量ヲ知了
 スルト否
 サルモト
 トス

効犯ノ
 不能犯ノ
 別

ヒ子ノシナヲ殺ス能ハサリシ所以ハ「モルヒ子」ノ人ヲ殺ス性質ナキニ非ラス其人ニ對シテ分量ノ足ラサルニ依リシモノナレバ不能犯ト稱スベキモノニ非ラス効犯ト云フ可キモノニシテ即チ刑法第百十二條ニ所謂舛錯トアルニ該當ス可キモノナリ故ニ原裁判所ニ於テ被告ノ所爲ニ對シ刑法第百九十三條同第百十二條等ヲ適用シタルハ相當ニシテ擬律錯誤ニ非ラサルナリ又第二ハ理由ノ不備ナリト云フニアレモ抑モ鐵ヲ使用スルモ決テ人ヲ殺スニ足ラスト確言シ得可キモノニ非ラサレハ原裁判官ニ於テ鐵ハ人ヲ殺スニ足ル可キモノト認メ而シテ被告カ所爲即チ被告ハ甚四郎ト謀リ鐵ヲ以テシナヲ刺シ殺サンコト決シ甚四郎ハシナヲ欺キ其胸部腹部等ニ鐵治用ノ銀鐵ヲ六回試下シタルモ其術拙劣ニシテ之ヲ殺害シ得サリシモノト認メ謀殺未遂ヲ以テ論シタルハ相當ニシテ毫モ理由不備ト云フヲ得ス(千葉重罪裁判所ノ言渡ニ對シ金木タツ上告事件明治二十年五月三日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百九十四條 正文略之

草第三百三十一條 凡ソ前諸條ニ記載シタル以外ノ故殺ハ無期徒刑ニ處ス但シ本法特ニ一層重キ刑又ハ輕キ刑ヲ制定シタル場合ハ此限ニ在ラス(刑、第二百九十四條○佛刑、第三百四條第三項)一號

尋常ノ故殺

兒子ヲ抱キ入水シタル所爲ハ故殺犯トナスニ足ルモノトス但シ精神ノ喪失シタルハ格別ナリ

原判文ヲ查スルニ被告等カ投水ノ際其子幸ナルモノヲモ水死セシムルノ意旨ヲ以テ之ヲ懷キ以テ共ニ投水シタルコトヲ明記シタルモノナレハ縱令其意ハ之ヲ懲諒スルニ出ルニモセヨ之ヲ以テ殺意即チ犯法ノ意ナシト云フヲ得サルモノナリ若シ又被告等カ進退維谷ニ際シ一時精神喪失等ノ事故ニ依リ殺意ナカリシト云フノ意ナラハ其事實ヲ明記セサル可カラズ然ルニ原裁判ハ其等ノ事實ヲモ記セスシテ突然其末段ニ至リ敢テ子ヲ殺スノ惡意ニ出テタルニ非ラストシ以テ無罪ト爲シタルハ擬律ノ錯誤ヲ免カレス然リト雖モ原判文事實中女子幸ハ自然手放レ深ミニ付流レ行キ或ハ嬰兒ノミ流レ失ヒタル等ノ文詞ノミニシテ幸ナル者カ既ニ犯シタル事蹟ハ毫モ記載ナキニ其末段ニ至リ嬰兒ヲ死ニ致シタルハ云々ト掲載セシハ事實理由ノ齟齬ニシテ其法律ニ適用ノ當否ヲ査定スルニ由ナキ裁判ナリトス(安濃津重罪裁判所ノ言渡ニ對シ鈴木齊次郎鈴木みつ上告事件明治二十年四月十二日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十四條

二號

原裁判所カ認メタル事實及ヒ證據ニ徴スルニ明治廿一年一月廿八日夕刻被告人ノ夫關三郎ナル者病ヒ危篤ニ迫リ親戚俱々其看護中被告トシテ頓ニ産氣ヲ催シ不得已其場ヲ去テ裏土藏ニ至リ分婉シ了ルヤ否忽チ夫ノ弟芳三郎急ニ呼テ言フ兄已ニ

謀故殺

周章狼狽ノ際ハ殺意アリト得スルヲ得

没シタリ早ク來レト夫レ如此死別ト分婉ト同時ニ相發シタルニ當テハ普通人情ノ
周章狼狽ヲ免レサル所ナレハ之ヲ審理スルニ當リ最モ當サニ仔細ニ吟味シ事實ノ
理由ヲ明示スヘキナリ原判文末段ニ嬰兒ノ全身ヲ襪襪襪襪ニ包ミ以テ其口鼻ヲ壅
壓シ窒息死ニ至ラシメタルモノトアリテ其死ニ至ラシメタルハ嬰兒ノ全身ヲ襪襪
ニ包ミタル方法ノ疎虞ナルヨリ其口鼻ヲ壅壓シタルカ將タ別ニ施ス所アリテ窒息
シタルカ緊要ナル手段方法ノ明示ヲ缺キタルハ理由ノ不備ナリトス(長野重罪裁判所
井ト上告事件明治廿一年十二月
十四日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十四條

三號

凡ソ故殺罪ヲ構成スルハ其人ヲ殺スノ意思アルヲ要スルコトハ論ヲ俟タス而シテ原
判文ヲ閱スルニ一層悲歎遺ルヘカラサレハ寧ロ自死スルニ如カス云々溜ノ淺深ヲ
顧ミスセキヲ脊負ヒタル儘溜池ノ中ニ身ヲ投シ云々然レトモセキハ入水ノ爲メ遂
ニ死ニ至リタルモノトシ記載シアリテ其セキカ死セシ事實判決ナラストス要ス
ルニ本件ハ故殺罪ヲ構成スルノ事實理由ニ於テ明瞭ナラサルカ故ニ裁判ノ當否ヲ
監査スルニ由ナキモノトス(名古屋重罪裁判所ノ言渡ニ對シ辯野サワ上告事件
明治廿一年十二月十三日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百九十四條

故殺罪成
立ニハ殺
意ヲ要ス

正當防衛
ノ解釋ヨ
リ故殺ノ
適用ニ及
ブ

五號

刑法第三百十四條ノ正當防衛罪ヲ構成スルニハ第一暴行ヲ受ケ避クル能ハサルコト
第二腕力ヲ用ヒサレハ防衛シ能ハサルコト第三加ヘラル、暴行ニ非ラサルコト第四條
件具備セサル可カラス今原判文ヲ閱スルニ(前コト)ハ豫テ竊カニ携ヘタル短刀ヲ
以テ突然背後ヨリ被告ニ斬リ掛ケシニ依リ被告ハ直ニ其短刀ヲ奪ヒ取り「コト」ヲ
其場ニ取押ヘタルモ當時被告ノ思惟スルニハ「コト」ハ曾テ己ニ對シ屢妨礙ヲ加ヘ
且ツハ祈リ殺ス杯種々怨言ヲ放チタルコトアリ斯ル女ヲ助ケ置カハ他日如何ナル
災害ヲ招クヤモ計リ難ク寧ロ同人ヲ殺害シ後難ヲ除クニ如カスト決意シ奪ヒ取り
タル短刀ヲ以テ「コト」ノ首級ヲ切斷シテ死ニ致シタルモノナリ云々トアル事實ニ
依ル時ハ右ノ條件具備セサルヲ以テ正當防衛ナリト云フヲ得ス何トナレハ暴行者
タリシコトニ於テ當時必要的ト爲シタル所ノ短刀ハ既ニ被告ガ取揚ケタルノミナ
ラス暴行ノ避クル能ハサルニ非ラス既ニ避ケ得タルモノナレハ從テ同人ニ害ヲ加
フルニモ及ハサルニ遂ニ將來ノ加難ヲ慮リ事茲ニ出テタル所爲ナレハナリ故ニ以
上ノ事實ニ對シ故殺ナリトシテ刑法第二百九十四條ヲ適用シタルハ相當ノ裁判ナ
リトス(長野重罪裁判所ノ言渡ニ對シ大森力太郎上告事件
明治二十年七月二十一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百九十四條

謀故殺

豫防決行

五號

被告カ所爲ハ故殺ナリト云フニ在レモ抑モ故殺トハ外面ノ感觸ニ乘シテ直チニ怒氣ヲ生シ熟慮スルノ暇アラヌシテ犯シタル場合ヲ指稱スルモノニシテ而今本件ニ付原裁判所カ認メタル事實ヲ鑑査スルニ被告ハ溜池ノ畔ニ至ルニ及ヒ寧口竊ニ該女ヲ池水ニ投シ當面ノ煩累ヲ拂フニ如カスト決意シトアリテ之即チ外面ノ感觸ニ非ラスシテ腦裏ニ熟考ヲ遂ケタルモノナリ加フルニ幼女ノ上衣ヲ脱シ自己ノ携ヘタルモノト取換ヘ并繩ヲ以テ幼女ノ胸腹ヲ縛シ云々之ヲ池中ニ沈メ死ニ致シタルモノトアル事實ヲ通觀スレハ謀殺罪組成ニ必要ナル豫備決意實行ノ第二百九十二條ヲ適用シ斷了シタルハ相當ニシテ決テ不法ノ裁判ト爲スヲ得ヌ(大分重罪裁判所部武十上告事件明治廿一年八月廿五日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

六號

被告カ擅ニ死屍ヲ墓地外ニ埋葬シタル如キハ故殺罪ノ結果ニシテ法律上擬問スベキモノニ非ラサルニ之ヲ一罪トシテ罰シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス(千葉重罪言渡ニ對シ大塚定吉上告事件明治廿一年六月廿七日大審院ニ於テ無罪ノ判決)

第二百九十四條

正文略之

承前

草第二百二十八條 故殺ハ豫防ナキキト雖モ之ヲ行フニ先チ又ハ之ヲ行フニ方リ身体ノ支解折割ヲ爲シ拷責ヲ用ヒ又ハ其他殘虐ノ所爲ヲ加ヘタルトキハ亦タ「謀殺」ト稱ス(刑、第二百九十五條○佛刑、第三百三條)

第二百九十六條 正文略之

草第三百三十條 故殺ノ目的他ノ重罪若クハ輕罪ヲ設備シ或ハ容易ナラシメ又ハ其重罪若クハ輕罪ノ正犯或ハ從犯ノ逃走又ハ脫刑ヲ助クルニ在ルキハ亦タ死刑ニ處ス(刑、第二百九十六條○佛刑、第三百四條第一項及ヒ第二項)

第二百九十六條

一號

刑法第二百九十六條ハ其範圍廣キカ爲メ事實ニ因リ法律ノ適用ニ錯誤ナキヲ保シ難シト雖モ本案ノ如キハ被告カ面識アル被害者ニ己ノ名ヲ大呼セラレタルヨリ後害ヲ恐レ寧ロ殺害シテ盜罪ヲ免レント決意シタル理由判然タレハ刑法第二百九十六條ヲ適用シタル原裁判ハ至當ナリ(神戸重罪裁判所ノ言渡ニ對シ西藤宗吉上告事件明治廿一年二月九日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百九十七條 正文略之

草第三百三十二條 謀殺故殺ノ刑毒殺ノ刑又ハ單純ナル故殺ノ刑ハ場合ニ從リ人ヲ死ニ致スノ意ニ出テ詐術ヲ以テシ且ツ惡意ヲ以テ直接ニ之ヲ死ニ致シタル所爲

謀故殺

一罪ノ結果ハ別ニ問フベキモノニアラヌ

他ノ重罪又ハ輕罪ニ附帶シタル故殺ノ罪

后害ヲ恐レシタルハ第二百九十六條ヲ適用スベキモノトス

死ニ致シタル誘導

チ行フノ誘導ヲ爲シタル者ニ適用スヘキモノトス但シ自殺ニ加功シタル罪ニ關シ
第五節ニ定ムル者ハ此限ニ在ラス(刑第二百九十七條)

第二百九十八條 正文略之

故殺ノ執
行ニ際シ
行フタル
過誤ノ殺
害

草第三百三十三條 人ヲ死ニ致スノ意ニ出テ前諸條ニ豫定シタル情況ノ一アリテ
〔其執行ニ際シ偶然ニ因リ他ノ人ヲ死ニ致シタル者ハ恰モ故意ヲ以テ之ヲ行フマ
ルカ如ク其殺害ノ刑ニ處スヘシ(刑第二百九十八條)〕

第二百九十八條

一號

誤殺ノ解
釋

刑法第二百九十八條ノ誤殺犯ハ乙者ヲ殺スノ意思ニテ丙者ヲ以テ乙者ナリト誤認
シ殺傷シタル場合ニシテ今原判文ヲ檢スルニ被告カ宇三郎ヲ傷シタル事實ハ乙者
ヲ差押ヘタル際宇三郎カ馳セ來リシニ乙者ニ斬掛ル刃先觸レ誤テ負傷セシメタル
モノニテ其人ヲ誤認シ負傷セシメタルニアラス過失ニ出テタルト明瞭ナレハ誤殺
ヲ以テ論スヘキニ非ラサルナリ(熊本重罪裁判所ノ言渡ニ對シ柿原庄太郎上告事件
明治廿二年三月廿九日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第一節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條 正文畧之

第二節 故意ノ毆打創傷暴行及ヒ身体ノ毀傷

毆死ノ創
傷

草第三百三十四條 死ニ致スノ意思ナクシテ故意ヲ以テ人ヲ毆打創傷若クハ之レ
ニ暴行ヲ加ヘ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス(刑第二百九十九條佛刑第二百
九條第四項)

第二百九十九條

一號

原判文ヲ閱スルニ前被告ハ一旦歸宅シタルモ憤怒ニ堪ヘス小刀ヲ携帶シ茂三郎家
宅竹垣ヲ破リ屋敷内ニ入りタル際茂三郎ハ竹垣ヲ破ル音ヲ聞キ賊ノ這入りタルト
思量シ全所ニ立ち出タルヨリ直チニ組合トナリタルヲ被告清次郎ハ小刀ヲ以テ云
々トアリテ殺意ヲ決シ又ハ豫シメ謀テ毆打スルノ目的ヲ以テ該小刀ヲ携帶スル等
ノ事實ニ非ラス偶然有合セタル小刀ヲ持チ出テタルモノナレハ原裁判所カ毆打創
傷ニ因テ死ニ至ラシメタルノ所爲ト認メ刑法第二百九十九條ヲ適施斷了シタルハ
相當ナリ(前橋重罪裁判所ノ言渡ニ對シ小林清次郎上告事件
明治二十一年十二月十四日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百九十九條

二號

毆打致死ノ罪ハ假令人ヲ毆傷殺死ノ惡意ナキモ其毆傷ニ原因シテ死ヲ致シタル時
ハ成立スル者トス今被告ハ殺意ナシト雖モ現ニ被害者ノ咽喉ヲ強壓シ呼吸ヲ壅塞

毆打殺傷

毆打ノ適
用

信仰ヲ得
シトノ利
慾心ヨリ
人ノ病ヲ

治ニトテ
遠シタル
致シタル
死ハナリ

知覺精神
ノ喪失如
何ハ事實
ニ關ス

不治ノ疾

刑法第三
百條第二
項ノ非ハ
身体中一
部ノ効用
ヲ欠クニ
至ラシメ
タルヲ要
ス

シナミハ之レニ原因シテ死ヲ致シタル事實ナレハ其刑法第二百九十九條ヲ適用シ
タルハ相當ニシテ決テ誤斷ニ非ラス又刑法第七十七條ニ依リ不論罪タルヘキニ事
茲ニ出テサルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ被告ハ諸人ノ信仰ヲ得ントスル
ノ利益心ヨリ被害者ノ拒絕スルニモ拘ラス其耳下ヲ爪傷シ呼吸ヲ壓塞シ強テ其祈
禱ノ術ヲ施シ爲メニ病者ヲシテ死ニ致シタル者ニシテ如此ハ法律ノ禁スル所素ヨ
リ不論罪ノ限リニ非ラス故ニ其第二百九十九條ヲ適用シタルハ相當ニシテ錯誤ニ
アラス(水戸重罪裁判所ノ言渡ニ對シ飯島カツ上告事件明)
(治廿一年九月二十五日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百九十九條

三號

飲酒昏醉中ニ行ヒタルモノニシテ知覺精神ヲ喪失シタルヨリ生シタル結果ナレハ
罪トシ論スヘカラスト云フモ原裁判言渡書ヲ檢スルニ被告ハ「キリ」ニ對シ此所
ハ他人ノ家ナレハ共ニ自宅ニ歸ルヘシト云ヒシニ「キリ」ハソノ馬鹿ト歸ル者ナ
シト言リタルヨリ被告ハ彌憤激シ「キリ」カ右手ヲ押タルモ益々惡口罵詈訶シテ隨ハ
ス茲ニ於テ被告ハ「キリ」ニ對シ飽マテ我意ヲ主張スル上ハ殺スヘシト嚇シタルモ
尙ホ肯セサルヨリ被告ハ酩酊ノ折柄怒氣益々激昂シ携帶セル出刃庖丁ヲ以テ「キ
リ」カ左第二肋間ヨリ斜メニ胸壁ヲ突傷シ爲メニ「キリ」ハ即死シタル者ナリト認メ

タル事實ハ知覺精神ノ喪失シタル所爲ニアラサルコト明確ナリ(函館重罪裁判所ノ言渡
ニ對シ白米竹次郎上
告事件明治二十一年十一月二十
一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百條 正文略之

草第三百三十五條 故意ヲ以テ暴行ヲ加ヘ囚テ視官聽官ヲ全失セシメ若クハ舌ヲ
斷チ兩手兩足若シクハ一手一足ヲ毀傷シ陰陽ヲ折損シ又ハ知覺精神ヲ失喪セシメ
タル者ハ輕懲役ニ處ス其暴行ニ因テ一目ヲ瞎シ一手一足ヲ斷チ前項ニ豫定セシモ
ノニ比スレハ更ラニ輕微ナルモ亦同シク不治ノ性ナル身体ノ癱疾若クハ精神ノ失
喪ヲ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ拾圓已上五拾圓已下ノ罰金ニ處ス
(刑)第三百條○佛刑、第三百九條第三項)

第二百條第一項

一號

刑法第三百條第二項ハ身体中一部ノ効用ヲ欠クニ到ラシメタルコトヲ要スルモノ
ナリ然ルニ原裁判ハ單ニ耳朶ヲ嚙切リタリトノ事實ノミニシテ其効用ヲ失ハシメ
タルヤ否ノ事實ヲ脱シタルハ理由ノ不備ナリトス(山形輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ森谷吉藏上
告事件明治十九年四月廿九日大審院ニ於
テ破毀
ノ判決)

第三百一條 正文略之

毆打殺傷

疾病廢業

草第三百三十六條 故意ヲ以テ暴行ヲ加ヘ因テ二十日以上ノ疾病若クハ廢業ニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮拾圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(佛刑第三百十一條第一項)

其疾病若クハ廢業二十日以下繼續シタルキハ一年以上一年以下ノ重禁錮五圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス(佛刑第三百十一條第一項)

其疾病廢業ニ至ラサルキト雖モ一時健康ヲ害シ若クハ輕微ナル身体ノ毀傷ヲ致シタルキハ十一日以上一月以下ノ輕禁錮及ヒ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第三百一一條〇佛刑、全上)

第三百一一條 正文略之

豫謀

草第三百二十七條 其暴行豫謀ニ出テタルモノナルキハ前諸條ニ記載シタル刑ニ一等ヲ加フ(刑、第三百二條〇佛刑、第三百十條、第三百十一條第二項)

第三百二條 正文略之

附帶ノ創傷

草第三百二十八條 他ノ重罪輕罪ヲ豫備シ又ハ之ヲ容易ニスルカ爲メ或ハ逃走若シクハ脱刑ヲ幫助スルカ爲メ暴行罪ヲ犯シタル者ハ其自己ノ爲メニスルト其重罪輕罪ノ共犯若シクハ從犯中一人ノ爲メニスルトヲ問ハス前諸條ニ記載シタル刑ニ一等ヲ加フ但シ暴行ヲ以テスル盜犯ノ爲メ第二章第二節ニ記載シタル刑ハ此限ニ

在ラス(刑、第三百三條)

第三百二條

一號

罪ヲ免レニ爲メ人ニ毆打シタル所爲ハ第三百三條ニテ論ス

原判文ヲ檢スルニ被告ハ長久寺庫裏ノ締リアル雨戸ヲ振外シ忍入り財物ヲ搜索セントスル際該寺留守居僧侶田畑文明ニ撞見セラレタルヲ以テ其目的ヲ達セス且同人ニ發聲セラレントテ恐レ胸襟ヲ掴ミ同人ノ口ニ手ヲ掩ハントシタル際瓜ニテ同人ノ鼻ニ負傷セシメタルハ其罪ヲ免カレンカ爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ニシテ加重ノ情狀アル事實明白ナリ原裁判官ハ此ノ事實ヲ認メナカラ單ニ刑法第三百一一條三項ノミヲ適用シ第三百三條ヲ適用シ加重セサリシハ擬律ノ錯誤ナリ(安瀨津輕罪裁對シ鹽崎實吉上告事件明治廿一年十一月十三日大審院ニ於テ被毀ノ判決)

第三百四條 正文略之

過誤ノ創傷

草第三百四十一條 確定シタル或ル一人ニ對シテ加ヘントシタル暴行若クハ有害物品ノ施用ニ因リ偶然若シクハ意外ニテ他人ヲ害シタルトキハ其實際犯シタル罪故意ニ出テタルモノトシテ其犯罪ノ本刑ヲ科ス(刑、第三百四條)

第三百五條 正文略之

數人ニテ加ヘタル毆打殺傷

草第三百三十九條 二人以上數人ニテ暴行ヲ加ヘタルキハ其現ニ致シタル毀傷ノ

輕重ニ從ヒ各自ニ本刑ヲ科ス然レモ犯人各自ノ致シタル毀傷ノ性質若クハ輕重ヲ知ルニ難キ片ハ教唆者ニ最重毀傷ノ刑ヲ科シ其他ノ者ニハ一等ヲ減ス(刑、第三百五條、第三百六條)

第三百六條 正文略之

草案第三百三十九條ヲ比照スヘシ(但シ同條ハ現行刑法第三百五條ニ比照シアリ)

第三百六條

一號

前判文ヲ閱スルニ其爭論ノ際被告政五郎ハ締ロ々々ト聲ヲ立テツ、目崎米作ノ左手ヲ押ヘ進退ヲシテ自由ナラシメサル様爲シ居タルヲ被告大太郎ハ豫テ所持スル兇器ヲ以テ米作ノ后腋下ノ線直下云々突傷ヲ負ハセ其負傷セシメタル爲メ米作ヲシテ明治廿年八月二十五日死ニ致ラシメトアレハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成サシメタルモノハ大太郎カ所爲ニシテ此場合ニ在テハ歐打スルニ當リ自カラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ストアルニ該當セリ然ルニ原裁判所ハ此法文アルニ係ハラヌ刑法第四百條ヲ適用シ正犯ト爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ(浦和重罪裁判所ノ言渡シニ對シ加藤政五郎上告事件) 明治二十一年五月三日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九條 第三百六條

二號

附帶上告第一ノ要旨ハ被告カ薪水ヲ携ヒテ金十郎ト共ニ其場ニ臨ミタルハ幫助ノ所爲ナリト云フニ在ルモ個ハ被告カ金十郎ト共ニ藤一郎ヲ毆打セントノ所爲ニ止マリ金十郎カ藤一郎ヲ毆打シタルニ關シ毫モ幫助ノ所爲アルニ非サレハ之ヲ以テ刑法第三百六條ニ適スル幫助ノ所爲ト云フヲ得ス若シ之ヲ以テ幫助ノ所爲アリトセハ同第三百五條ニ所謂現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科スノ法文殆ト解ス可ラサルニ至ラン如何トナレハ共謀人ヲ毆打シタル者ハ皆幫助ノ罪アルヲ以テ傷ヲ爲スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科スルヲ要セサレハナリ然ルニ附帶上告等ハ同第三百六條ニ對シ一箇ノ說ヲ附シ同第三百五條ハ共謀シテ毆打ヲ爲ス場合ニ適用ス可ラスト云フモ右兩條ハ二人以上共ニ人ヲ毆打云々トアツテ其法文毫モ異ナル所ナケレハ一ハ共謀ノ場合ニ適シ一ハ適ス可ラスト云フヲ得サルノミナラヌ同第三百六條ハ單ニ共謀人ヲ毆打スル幫助者ノ制裁ヲ規定シタルニ止マリ共謀者各自ニ傷ヲ受ケタル場合ニ適用スヘキニ非ラヌ然ルニ該條人ヲ傷セスト雖モトアルハ共謀ニ出テ、人ヲ傷シタルモ勿論該條ニ依テ處斷セサル可ラスト云フモ如何シテ如此モノヲ該條ニ依テ處斷シ得ヘキカ該條ニハ其處斷シ得ヘキ

毆打殺傷

犯者ノ人
ヲ毆打ス
ルノ目的
ヲ知リテ
共ニ其
場ニ臨ミ
タルカ如
キ所爲ハ
幫助シタル
者ト爲ス
フヲ得ス

法文ナキヲ如何セン論シテ此ニ至レハ前文辨明ノ如ク該條ハ單ニ幫助者ノ制裁スルノ法意ニ止マリ其共謀人ヲ歐打シテ各成傷シタル者ハ同第三百五條ニ依ラサルヲ得スシテ全條ノ共謀毆打ヲ爲ス場合ニ適用スヘキコトハ勿論從テ本件ノ所爲ヲ同第三百六條ノ幫助ニ適セサルコト倍著明ナリトス(前橋重罪裁判所ノ言渡ニ對シ藤卷金十郎上告事件明治十九年四月三十日大審院ニ於テ判決)

第三百七條 正文略之

草第三百四十條 何人ト雖モ故意ヲ以テ且ツ罪ヲ犯スノ意ニテ健康ニ害アル可キ物品ヲ他人ニ施用シタルハ其現ニ生シタル毀傷ノ性質ニ從ヒ豫謀ニ出テタル暴行ノ前ニ記載シタル所ノ刑ニ處ス(刑第三百七條○佛刑第三百十七條第四項及第五項)

第三百八條 正文略之

草第三百四十二條 本節ニ記載シタル刑ハ第三百三十二條ニ從ヒ惡意ヲ以テ與ヘタル誘導ヨリ生スル身体若シクハ精神ノ毀傷及ヒ癡疾ニモ適用ス可キモノトス(刑第三百八條)

第三百九條 正文略之

第三節 故殺及ヒ故意ノ毆打創傷ニ關スル法律上ノ宥恕

及ヒ不論罪ノ原由

草第三百四十三條 被告人自己ノ身体ニ重大ナル暴行ヲ受ケ直チニ發シタル激怒ニ乘シテ故殺及ヒ故意ノ毆打創傷若シクハ暴行ヲ加ヘタル時ハ其罪ヲ宥恕ス(佛刑第三百二十一條、第三百二十五條) 自己ノ過失ニ依リ暴行ヲ招キ爲メニ激怒ヲ發シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ此宥恕ノ限ニ在ラス(刑第三百九條) (又配偶者間ノ暴行ニ付テハ此宥恕ヲ許與セサルモノトス)(刑、零○佛刑、第三百二十四條第一項)

第三百九條

一號 刑法第三百九條ニ依レハ自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ストアリ原判文ヲ查スルニ自己ノ三本鐵ヲ持去リタルヨリ被告鹿藏カ之レヲ憤リ持去リタル幸助ニ追跡シ云々互ニ口論毆闘ヲ爲シ遂ニ市助ヨリ其鐵ヲ取還シ之レヲ以テ幸助ノ頭部又ハ胸部ヲ毆打シ重傷ヲ負セ云々トアリテ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒リテ發シタル所爲ニ非ラス又ハ盜品ヲ取還スル爲メニ出タル所爲ニモ非ス現ニ幸助ノ持去リタル鐵ヲ取還シタル后チニ至リ

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

有害ノ物

詐僞ノ誘導

例外

同上

直チニ怒ヲ發シタルニ依リテ殺傷シタル原因トナラス

毆打創傷シテ死ニ致シタル事實ナレハ原裁判所カ右刑法第三百九條ニ依ラス全第
二百九十九條ヲ適用シタルハ相當ノ裁判ナリ(福島重罪裁判所ノ言渡シニ對シ七海鹿藏博川長
審院ニ於テ)
棄却ノ判決

第三百九條

二號

刑法第三百九條ニ自己ノ身体ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷
シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ依リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニアラ
ストアル律意タル自己ニ不正ノ所爲ナク從テ他人ヨリ暴行ヲ受クルノ原由ナキニ
謂レナク他人ヨリ暴行ヲ加ヘラル、チ以テ直チニ怒ヲ發シ以テ暴行人ヲ殺傷シタ
ルキニ適應スルノ精神ニシテ其怒氣ノ直接ニ繼續シテ毫モ間斷ナキチ要スルモノ
ナリ今原判文ヲ閱スルニ右ニ掲ケルカ如キ事實ニシテ被告ハ「コト」ヨリ暴行ヲ受
テ其怒氣ニ乘シ直ニ殺傷シタルニ非ラスシテ怒氣ヲ發シタル時ト殺傷シタル時ト
ノ間靜思熟慮シタルノ餘地アリテ其殺害ヲ爲シタルハ全ク怒氣ヲ發シタル時ト端
ヲ異ニシアルヤ明カナリ因テ此事實ニ對シ刑法第三百九條ヲ適用セサルハ相當ナ
リトス(長野重罪裁判所ノ言渡ニ對シ大森力太郎上告事件
明治二十年七月二十一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百十條 正文略之

第三ノ人
ニ對スル
暴行

草第三百四十四條 他人ニ對シテ重大ナル暴行ヲ加フルヲ目撃シ爲メニ激怒ヲ發
シテ故殺罪ヲ犯シ若クハ暴行ヲ加ヘタル者ニハ激怒ヨリ生スル宥恕ヲ許與スルコ
ト得可シ(刑、零〇佛刑、同上)

相互ノ暴
行

草第三百四十五條 二人以上數人ニテ爭鬪シ互ヒニ毆打創傷シ其何人ヨリ挑撥シ
タルモノナルヤヲ證スルコト能ハサルキハ總テ激怒ヨリ生スル宥恕ヲ得可シ(刑、第
三百十條)

姦通ノ現
行

第三百十一條 正文略之
草第三百四十六條 本夫其婦ノ姦通ノ現行犯ヲ襲ヒ現場ニ於テ姦夫若クハ姦婦ニ
對シテ故殺若クハ暴行ヲ加ヘタルキハ其罪ヲ宥恕ス可シ(佛刑、第二百二十四條第二
項)

然レモ本夫前キニ其婦ノ淫行ヲ幫助シタルキハ本宥恕ノ限リニ在ラス(刑、第三百
十一條)

第三百十一條

一號

被告ハ身体ヲ防衛スル爲メ負傷セシメタル者ニシテ殺意アルニ非ラスト云フモ原
判文ヲ檢スルニ被告ハ米松「ハルト」全衾スルヨリ直ニ宅内ニ闖入シ其姦所ニ至リ

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不諭罪

タル事實ニ據ル

之ヲ詰責シタルニ彼等ハ其罪ヲ謝セサルノミナラス米松ハ被告ニ對シ暴言ヲ發シ木製ノ燭台ヲ以テ打チ掛リタルヲ以テ被告ハ憤怒ニ禁エス忽チ姦夫姦婦ヲ殺害セントノ意ヲ生シ側ノ棚ニ在リタル脇差ヲ執リ兩人ニ切リ掛ケ云々米松ハ負傷ノ爲メニ死去シ「ハル」ハ創傷ノ爲メ七八週間ノ疾病ニテ治療シタリト明ニ殺意ヲ生シタル事實證據ヲ示シ法律ヲ適用シタルハ相當ノ裁判ニシテ正當防衛ニアラス(千藤所ノ言渡ニ對シ三間富士松上告事件明治十一年九月廿日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百九十一條

二號

奸所ニ於テノ殺傷ハ豫謀トテ故意トシテ區別セテテ宿怨ヲ與フ

刑法第三百一十一條ニ本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直ニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者トノミアリテ其殺傷ノ豫謀ニ出ルト故意ニ出ツルトヲ區別シアラサレハ其本夫ニシテ姦所ニ於テ直ニ殺傷シタルノ結果アルハ則チ其要件ヲ具備シタルモノニシテ無論該條ヲ適用シ相當ノ宿怨ヲ與フヘキハ當然ナルニ原判文ニ被告甚七「ヤスト」ハ公然タル夫婦ナルヲ及其姦所ニ於テ云々ト之ヲ判示シナカラ只單ニ刑法第二百九十二條同第三百六十三條ノミヲ當行シ右第三百一十一條ニ依リ宿怨ヲ與ヘサリシハ全ク上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ナリ(佐賀重罪裁判所ノ言渡ニ對シ四月八日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百一十一條

三號

内田タケハ被告人カ妻ナレハ假令之ヲ殺傷シタルモ姦所ニ於テ爲シタル者ナレハ刑法第三百一十一條ニ因リ宿怨アルヘキ者ト云フニアレハ原裁判所ハタケト被告人トハ馴染合タル事アルモ被告人ノ身持宜カラス且粗暴ノ所業アルヨリ之ヲ厭ヒ遂ニ離別シタル者ト認メアレハ固ヨリ夫婦ニ非サルヲ明カナリ然レハ「タケ」及ヒ西川豊吉カ熟睡中故ラニ殺サントノ遂ケサル所爲ヲ明示シ之ニ相當シタル法條ヲ適用シタレハ原裁判ヲ不當ト云フヲ得(宇都宮重罪裁判所ノ言渡ニ對シ木村巳代吉上告事件明治廿一年六月廿一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百一十一條 第九十九條

四號

刑法第三百一十一條ノ宿怨減輕ハ犯罪ノ種類ニ依リ特別ニ定ムル所ノ減輕ニシテ一般ノ犯罪ニ適用ス可キ總則ノ減輕ニ非ラサルヲ以テ其減輕ヲ爲シタルモノヲ本刑ト爲シ而シテ後チ總則ノ酌量減輕ヲ爲ス可キモノナルハ刑法第九十條但書ノ法文ニ明確ナリ然ルニ原裁判所カ未遂犯ノ減輕ヲ爲シテ本刑ト定メ而シテ特別ノ宿怨減輕ト總則ノ酌量減輕トヲ通減シ處斷シタル上告前段論旨ノ如ク減輕法ヲ誤リタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ

姦所ニ於テ殺シタルヲ殺シタルノ適用トノ特別ノ減輕

夫婦タルノ買アルニアラサルレバ刑法第三百一十一條ヲ適用スベカラス

殺傷ニ關スル宿怨及ヒ不論罪

本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

原裁判言渡ニ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ姦所ニ於テ姦夫乙吉ヲ故殺セ
ントシ遂ケサル所爲ハ刑法第二百九十四條ニ照シ未遂犯ナルヲ以テ全第三百十二條
全第三百十三條ニ依リ無期徒刑ヨリ二等ヲ減シ尙ホ同第三百十一條全第三百十三條
ヲ適用シ三等ヲ減シ全第六十九條全第七十條ニ從ヒ一年六月以上三年九月以下ノ
重禁錮ニ處スヘキ處原諒ノ情狀アルヲ以テ全第八十九條全第九十條ニ照シ二等ヲ
減シ九月以上一年十月十五日以下ノ範圍ニ於テ處斷スヘキモノトス過失ニ依テ卯
三郎ヲ傷シタル所爲ハ刑法第三百十九條ニ照シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
ヘキモノトス右二罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ故殺未遂犯ニ從ヒ
九月ノ重禁錮ニ處スルモノナリ(熊本重罪裁判所ノ言渡ニ對シ梅原庄太郎上告事件)
明治廿二年三月廿九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百十二條 正文略之

草第三百四十七條 晝間故ナクシテ人ノ住居シタル邸宅又ハ建築アル建築ナキト
ヲ問ハス人ノ住居シタル宅邸ノ障壁ヲ踰越損壞スル者或ハ同所ニ乱入シタル者ヲ
防止シ又ハ直チニ追逐スルカ爲メ故殺ヲ行ヒ又ハ暴行ヲ加ヘタル者ハ其罪ヲ宥恕
ス可シ(刑)第三百十二條○佛刑)第三百十二條
草第三百四十八條 縱令ヒ身体ニ對スル暴行ナシト雖モ(必要ナル物品)ノ盜奪ヲ

晝間ノ踰
越

必死物ノ
盜奪

防止スル手段トシ或ハ盜奪物品ヲ直チニ取戻スカ爲メ同一ノ重罪若シクハ輕罪ヲ
犯シタル者ハ亦タ其罪ヲ宥恕ス(刑)零

第三百十三條 正文略之

草第三百四十九條 前諸條ニ豫定セシ場合ニ於テ故殺罪毆打創傷若クハ暴行ノ罪
ヲ科ス可キ刑ハ前節ニ記載シタル區別ニ從ヒ本刑ニ三等又ハ四等ヲ減ス可シ(刑)
第三百十三條○佛刑)第三百二十六條

宥恕ノ効
力

第三百十四條 正文略之

草第三百五十條 正當及ヒ必要ノ防衛ノ爲メ故殺若クハ故意ノ暴行ヲ爲シタル者
ハ其自己ノ爲メニセシト他人ノ爲メニセシトヲ問ハス其罪ヲ論セスシテ其刑ヲ免
除ス(佛刑)第三百二十七條

正當及ヒ
必要ノ防
衛

然レモ故殺若クハ暴行ノ本犯自己ノ過失ニ因リ其被フリタル兇行ニ機會ヲ與ヘタ
ル片ハ只本刑ヲ宥恕スルニ止マル可シ(刑)第三百十四條

第三百十四條

一號

原判文中前加害者又八郎ハ被告人元吉ヲ不意ニ背後ヨリ押倒シ云々又八郎ハ前面
ニ廻リ元吉ノ胸襟ヲ捉ヒ鎗穗ヲ以テ突ントセシヲ以テ元吉ハ其鎗穗ヲ掴ミ左手ノ

正當防衛
ノ適用

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不諭罪

拊指其他十二ヶ所ニ傷ケ受ケナカラ云々トアリ其後段ニ至リ又八郎ハ飽迄其暴行ヲ繼續シテ止マヌ云々殊ニ此日ハ道路艱難進退自由ナラス而シテ其暴行ヲ避クルニハ他ニ手段ナク身命ノ危険目前ニ迫リ必要亦不得止ニ出テ云々トアリテ其全文ヲ通視スヘシ又八郎ニ於テ被告人ニ奪取セラレタル鎗穗ヲ取還サント力抗シ猶ホ引續キ被告人ヲ害セント暴行ヲ爲スヲ以テ被告人ハ其暴行ヲ避クル手段ナク已ムヲ得ス暴行人又八郎ヲ傷シ爲メニ死ニ至ラシメタル者ニシテ被告カ正當ニ身体生命ヲ防衛シタル所爲明白ナルニ刑法第三百十四條ニ因リ論斷シタル原裁判ハ相當ニシテ上告論旨ハ相立ス(弘前輕罪裁判所ノ言渡ニ對スル武田三吉上告廿二年四月廿日大審院判決)

第三百十四條

二號

刑法第三百十四條ノ正當防衛罪ヲ構成スルニハ第一暴行ヲ受ケ避クル能ハサルコト第二腕力ヲ用ヒサレハ防衛シ能ハサルコト第三加ヘラル、暴行ト加フル暴行ト同時ナルコト第四不正ノ所爲ニ依リ招キタル暴行ニ非ラサルコトノ四條件具備セサル可カラズ今原判文ヲ閱スルニ(前「コト」ハ豫テ窃カニ携ヘタル短刀ヲ以テ以テ突然背後ヨリ被告ニ斬リ掛ケシニ依リ被告ハ直ニ其短刀ヲ奪ヒ取り「コト」ヲ其場ニ取押ヘタルモ當時被告ノ思惟スルニハ「コト」ハ會テ己ニ對シ屢妨碍ヲ加ヘ且ツハ斬リ殺

正當防衛
ノ解釋ヨ
リ故殺ノ
適用ニ及
ブ

ス杯種々怨言ヲ放チタルトモアリ斯ル女ヲ助ケ置カハ他日如何ナル災害ヲ招クヤモ計リ難ク寧ロ同人ヲ殺害シ後難ヲ除クニ如カスト決意シ奪ヒ取りタル短刀ヲ以テ「コト」ノ首級ヲ切斷シテ死ニ致シタルモノナリ云々トアル事實ニ依ル時ハ右ノ條件具備セサルヲ以テ正當防衛ナリト云フヲ得ス何トナレハ暴行者タリシコトニ於テ當時必要的ト爲シタル所ノ短刀ハ既ニ被告カ取揚ケタルノミナラス暴行者タル「コト」迄ヲモ取押ヘ其暴行ノ避クル能ハサルニ非ラス既ニ避ケ得タルモノナレハ從テ同人ニ害ヲ加フルニモ及ハサルニ遂ニ將來ノ加難ヲ慮リ事茲ニ出テタル所爲ナレハナリ故ニ以上ノ事實ニ對シ故殺ナリトシテ刑法第二百九十四條ヲ適用シタルハ相當ノ裁判ナリトス(長野重罪裁判所ノ言渡ニ對シ大森力太郎上告事件明治二十年七月二十一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百十五條 正文略之

正當防衛
ノ同視ス
可キ場合

草第三百五十一條 左ノ場合ニ於テ故殺又ハ故意ノ暴行ヲ爲シタル者ハ正當必要ナル防衛ノ手段トシテ尙ホ其罪ヲ論セス其刑ヲ免除ス

- 第一 數人ノ犯シ又ハ犯サントスル毀壞若シクハ劫掠放火若クハ堤防ノ破壞ニ對シテ動産又ハ不動産ヲ保護スルニ出テタル時(佛刑第二百二十九條)
- 第二 身体ニ暴行ヲ加ヘテ犯シ若クハ犯サントスル盜罪ヲ防止シ又ハ贓品ヲ直チニ取戻ス爲メニ出テタル時(佛刑第二百二十九條第二項)

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三 夜間故ナクシテ第三百四十七條ニ豫定シタル住居ニ闖入スルヲ防止シ又ハ闖入シタル者ハ直チニ追逐スル爲メニ出テタル時刑第三百十五條〇佛刑、第三百二十二條第二項

第三百十五條第二項

一號

原判文ヲ審閱スルニ(前何者ナルカ自分常居ノ椽側ニ立チ忍入ラント戸ヲ明ケ居ルモノ有之何者カト聲懸ケタルニ答ナキ故仍ホ盜人テハナキヤ盜人ナレハ打タレヌ様ニ立還レト云ヒタルモ彼レ答ナキヨリ云々彼者椽ヨリ下リ被告人ノ方ヘ立向フカ如ク近寄ルニ付云々其場ニ有合タル松割木ヲ以テ右ノ者頭上ト覺ヘ打タルニ云々トアル事實ニ由テ之ヲ觀レハ本件被告ノ所爲ハ夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入りタル者アルヲ認メ之ヲ制シ立還レト云フモ尙ホ被告人ノ方ヘ立向フ如ク近寄ルニ付防止スル爲メニ止ムヲ爲ス毆打死ニ致シタル事跡明白ニシテ乃チ刑法第三百十五條第三項ニ問擬ス可キ按件ナリトス然ルニ原裁判茲ニ出テス刑法第三百九十九條第三百十六條等ヲ適用斷了シタルハ擬律錯誤ナシ(盛岡重罪裁判所ノ言渡事件明治二十一年十二月二十日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百十五條

二號

原判文ニ被告ハ已之助ノ暴行ヲ怒リ已之助ニ組付キ罌丸ヲ強ク挫キタルニアレハ正當防衛ニ出テタルニ非サルコトヲ明示シタルモノトス(千葉輕罪裁判所ノ言渡シニ對シ審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百十五條第二項

三號

刑法第三百十五條第二項ニ盜贓ヲ取還スルニ出テタルトキトアルハ已ムコト得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル場合ニ當行スル律意ニシテ盜贓ヲ取還スル目的ニ出ツルニモセヨ故ナク人ヲ毆打シタル如キモノハ該法條ノ範圍外ニ屬スルヤ論ヲ俟タス今原判文ヲ見ルニ被告等ハ森寬忠大熊小三郎カ鏡餅ヲ取去リタルヲ憤リ之ヲ取還サントシテ下駄ヲ以テ小三郎ヲ毆打シタルモノト認メ毫モ已ムコト得サルニ出テタル情況ヲ見ルヘキ所ナケレハ原裁判所カ之レニ對シ刑法第四百二十五條第九項ヲ適用斷了シタルハ相當ナリ(福岡輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ近藤喜平太西本雄男上告事件明治二十一年三月十七日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百十六條 正文略之

草第三百五十二條 前二條ノ場合ニ於テハ只法律上ノ宥恕アルノミ

第一 故殺若クハ暴行ノ本犯其故意ヲ以テ身體財產ヲ正當ニ防衛スル爲メニ必

四五九

殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

家宅侵入
ヲ防止ス
ル爲メノ
殺傷

正當防衛
ニアラス

防衛ノ仕
損シ

防衛ニ於
ケルノ過
度

要外ノ害ヲ兇行者ニ加ヘタル時

第二 危險ノ止息シタル後ニ至リテ害ヲ兇行者ニ加ヘタル時(刑第三百十六條)

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條 正文略之

第四節 過失殺、過失毆打又ハ過失創傷

草第三百五十三條 何人ト雖モ拙劣疎忽又ハ一般若クハ職業上ノ規則ヲ遵守セサルニ因リ故意ニ非スシテ人ヲ死ニ致シ又ハ其死ニ致シタルハ拙劣疎忽又ハ一般若クハ職業上ノ規則ヲ遵守セサル直接ノ原因ナリシキハ二月以上一年以下ノ輕禁錮及ヒ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ若クハ唯此二刑中ノ一ニ處ス可シ(刑第三百十七條○佛刑第三百十九條)

第三百十七條

一號

被告ハ航海中雲霧ニ隔テラレ被害船ノ所在ヲ見分タズ衝突シタル事實ナリトス果シテ然ラハ被告ハ海上衝突豫防規則ヲ遵守シ就中雲霧ニ際シテハ同則第十二號ニ隨ヒ號角ヲ以テ發聲シタリシヤヲ取調ヘ果シテ同則ヲ遵守シ懈怠ナカラシメハ過失ノ責アル可カラスト雖モ其遵守ノ一ヲ欠クニ於テハ過誤懈怠ノ責ナカル可カラ

過失殺

松ノ衝突
ヨリ人ヲ
殺傷シタ
ルハ宜
シク其定
則ヲ守リ
タルヤ否
ヲ察究ス

可シ

ス然ルヲ原會議局ハ右等ノ取調ヲナサズ免訴シタル豫審ノ終結ヲ認可シタルハ治罪法第四百十條第十一項ニ定メタル越權ノ處分ニシテ破毀ノ原由アリトス(山口裁判所會議局ノ言渡ニ對シ時乘治三郎上告事件) 明治十九年十月廿二日大審院ニ於テ破毀ノ判決 第三百十九條

第三百十七條

二號

被告勘六ハ妻タケノ弟中津輕郡前田町石戸谷富藏ナル者神經病ニ罹リ言語舉動常ナラサルニ全ク狐憑ナリト云云且其身体左胸部ニ瘡ノ如キモノ出タルヲ認メ是レ惡狐ノ潛ム處ト思惟シ云云此瘡ヲ破リ惡狐ヲ追出サハ病根自ラ滅シ全治ニ至ルヘシト妄信シ云々トアリテ被告ノ意思ハ專ラ富藏ノ病ヲ治セントスルニ外ナラスシテ毫モ故意即チ犯罪ノ意思ナケレハ之ヲ毆打創傷ナリト云フヲ得ス加之已ニ被告カ犯罪ノ意思ナク又其所爲タル疎虞又ハ懈怠トモ云フヘキモノニ非サレハ過失殺ノ罪モ亦構成セサルモノナルニ原裁判所ハ以上ノ事實ヲ認メタルニ拘ハラズ刑法第三百十七條ヲ適用シタルハ不法ノ裁判ニシテ破毀スヘキモノトス(私前重罪裁判所ノ言渡シタル裁判ニ對シ吉澤勘六カ上告事件明治廿一年五月十九日大審院ニ於テ破毀無罪ノ判決)

第三百十七條

三號

過失殺傷ノ罪

俗説ノ妄
信ニ出テ
タル暴行
ハ毆打過
失殺傷等
ノ罪トナ
ル可キモ
ノニアラ
ズシテ無
罪ナリ

失火ノ爲メ人ヲ死傷ニ致シタルハ一括シテ罪ヲ得ス

銃丸ヲ手取ニスルトノ揚言ヲ輕信シテ發射シタルハ過失傷ヲ得

過失殺ハ刑法第三百十七條ニ明記アル如ク疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル場合ニ於テ成立スルモノトス本案原判文ヲ閱スルニ被告ノ所爲タル自宅臺所ノ爐中ニ於テ焚火ヲ爲シ其儘隱居所ニ來テ寢ニ就キタル處其夜八時頃其爐中ノ焚火ヨリ失火シ云々トアリ而シテ同居人齋藤孫四郎ノ燒死シタルハ疎虞懈怠等ノ過失アリタリヤ否ノ事實ハ審判ヒス加之原裁判言渡書ニハ孫四郎ヲ燒死シタルハ失火罪ノ結果ニシテ刑法第三百十七條ニ該當スベキ者ニアラサレハ罪トナラストノミ掲ケタルハ要スルニ治罪法第四百十條第九項ニ相當スル上告ノ理由アルモノトス(靜岡縣裁判所ノ言渡ニ對シ片桐吉藏上告事件明) 治二十二年三月二十六日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百十九條

四號

上告ノ趣旨ハ公訴アレハ必ス私訴ノ附帶スヘキモノニテ私訴權ナキモノハ犯罪ヲ構成セサルモノナリ本件ハ被害者ニ私訴權ナケレハ被告ノ所爲ハ罪トナラスト云フニアルモ凡ソ民事ノ責任ト刑事ノ犯罪トハ其成立原因ヲ異ニスルモノナレハ民事即チ私訴上賠償ノ責任ナキモノト雖モ必スシモ刑事ノ犯罪ヲ構成セサルモノト斷言スルヲ得ス何トナレハ刑事ノ犯罪ハ現ニ一己人ニ損害ヲ與ヘタル所爲ノミニ限ラス社會ヲ害スルニ於テ成立スルモノナレハナリ況ンヤ原判文ニ認メタル事實ニ

依レハ本件被害者ハ未タ必スシモ私訴權ノ生セサルモノト認ムルヲ得サルニ於テヲヤ又第二論旨ニ付原判決書ヲ查閱スルニ被害者次平カ被告及ヒ其他ノ者ト飲酒ノ際酒興ノ餘リ自分ハ銃丸ヲ手取リニスルノ術ヲ爲シ得ルト揚言シ和銃ニ彈丸ヲ裝置シ交付シタルヲ被告カ趣ク輕信シ發射シタル事實ニテ其發射スル銃丸ヲ避ケ又ハ手取リニスルヲ能ハサルハ何人ト雖モ復タ能ク之レヲ知ル殊ニ被害者ハ酒興ニ乘シ揚言シタルモノナリト云フニ在レハ之レヲ輕信シタルハ即チ被告ノ不注意ト云フ可ク而シテ縱ヒ被害者ノ不注意アルモ之レヲ以テ行害者ノ過失ノ消滅セシムル筋合ナケレハ本件ノ如キハ刑法第三百十九條ノ責罰ヲ免レサルモノトス(福岡縣裁判所會議局ノ言渡ニ對シ有田龜吉上告事件明) 治二十二年六月二十九日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百十七條

五號

原判文ニ明治十八年四月廿二日夜被告ハ志賀藏ヲ懷キ寐臥シ熟眠中自己ノ身體ヲ以テ志賀藏ヲ死ニ至ラシメ云々トアル以上ハ刑法第三百十七條ニ問擬セサルヲ得ス(新潟縣裁判所ノ言渡ニ對シ高橋ツル上告事件) 明治十九年四月三十日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百十七條

六號

過失殺傷ノ罪

火勢ノ蔓
延テ抱出
サレテ死
シタルモ
敢テ過失
殺テナリ
ト云フナ
得ルモ
一罪ニ付
上告アル
ハ其罪上
告アルサ
ルモ破毀
スルヲ得
得

被害者スエノ死ハ被告ノ失火ニ對シテ間接ナレハ其死ヲ以テ被告ノ過失ト爲スコ
ラサルニ敢テ之ヲ罰セシハ擬律ノ錯誤ナリト云々アレハ則チ治罪法第四百十條第
十項ニ適應スル破毀ノ原由アルモノトス然ル所以ヲ茲ニ辨明セシニ夫レ原裁判所
カ適用セシ刑法第三百十七條ニ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサル過失ニ因テ人
ヲ死ニ致シタル者ニ當行ス可キ法律ナルニ原裁判所ノ認メタル被害者スエカ燒死
ノ事實中被告ニ其法律上之ヲ疎虞懈怠ト爲ス可キ項件アリシコトヲ見サルノミナラ
ス「妹スエヲ抱出サントスルモ火勢四方ニ蔓延シ爲メニ抱出ス可キ能ハス」云々ト其
判文ニ明記シアルニ依テ見レハ「スエ」カ死亡ニ至ル當時被告ニ毫モ疎虞懈怠ノア
ラサリシコトハ疑フ可カラス而シテ其被告カ失火ト「スエ」カ死亡トノ接際ヲ論スレ
ハ則チ其二ハ其一ノ半後ニ發生シタル殊別ノ事項ナレハ其一ノ事前ニ在リシ不戒
慎ヲ援テ特別ナル其二ノ事項ニ併セ以テ一罪ヲ構成シタリトハ決シテ謂フヲ得ヘ
カラサルモノナリ然ラハ則チ原裁判ハ罪ト爲ラサル所爲ニ刑法第三百十七條ノ刑
名ヲ宣告シタルモノニシテ所謂擬律錯誤ノ裁判ナリトス然リ而シテ本案上告ハ原
裁判言渡ノ一部ニ對スルモノナリト雖モ原裁判ハ前掲ノ如ク刑法第百條ノ適用ニ
依リ上訴外ニ屬スル失火破毀事件ト交々相關涉シ分離ス可カラサルヲ以テ治罪法
第四百二十九條ニ照シ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ無罪ノ裁判ヲ爲

スモノトス(岐阜縣裁判所ノ言渡ニ對シ小倉ハツ上告事件明) 治二十年六月二十四日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百十七條

七號

父兄ノ子
弟ヲ懲戒
スル所爲
ノ所爲ハ
所謂懲戒
權ニ基キ
ルモノニ
シテ懲戒
罪ヲ構成
セズ
若シ夫レ
カ爲メ殺
傷ニ至リ
テモ過失
殺傷ニ外
ナラス

本案ノ事實ハ過失殺傷罪ナリトス何者被告ニ於テ辰次郎ハ時々痙攣症ヲ發スルヲ
豫テ了知シナカラ之レニ意ヲ注カス一時懲戒ノ爲メ辰次郎ノ四肢ヲ細帶ニテ縛
眺着ヲ面部ニ覆ヒ手拭ニテ口邊ヲ縛リ納戸ノ蒲團上ニ伏サシメ蒲團ヲ着セ置キタ
ル爲メ辰次郎ハ怒氣上衝シ持病ノ痙攣症ヲ發シ其痙攣ノ爲メ呼吸ヲ窒息シテ死シ
タルモノト認メタリ然ラハ原承審官カ其事實ヲ認メナカラ之レニ刑法第三百二十
三條同法第三百二十四條ヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリトス夫レ刑法第二百二十三
條ハ其範圍狹隘ナルモノニテ父兄カ好意上我カ子弟ノ暴惡ナル所行等ヲ懲戒ス
ル爲メ一時室内ニ押シ込ミ或ハ擲拊シ或ハ減食セシムル等ノ所爲ニ對シテハ適施
スヘキモノニ非ラストス故ニ過失殺ナルニ外ナラサルナリ(岐阜縣裁判所ノ言渡ニ對シ
年五月二十三日大審
院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百十七條

八號

被告房吉シユン多吉ナミハ被告人フチニ於テ房吉養長男タリシ萬吉カ神經病ニ罹

俗説ヲ妄
信シタル

過失殺傷ノ罪

ノ所爲ハ
過失罪ヲ
組成セス

無期ノ癡
疾

其他ノ毀
傷

リタルヲ狐ノ付キタルモノト思惟シ此事ヲ咄セント信シ云々狐ヲ放シ吳レトテ多
吉ヲシテ石三箇ヲ取寄セシメ之ヲ燒キテ云々己レ自ラ右燒石ヲ萬吉ノ脊部ニ一
度押付ケ猶房吉フチカ指圖ニ從ヒタルモノナレハ被告等ハ始終フチノ妄説ヲ信シ
而カモ彼レノ指示ニ從ヒ萬吉ノ疾病ヲ治セント企圖セシ所爲ニ外ナラスシテ更ニ
疎虞懈怠等ノ事實ニ適合スル廉アルコトナシ然ラハ則チ刑法第三百十七條ニ所謂疎
虞懈怠ヨリ生スル過失罪ヲ構成セザルノミナラス法律上之ヲ制裁ス可キ正條ナキ
ニ付キ無罪トス(弘前縣裁判所ノ言渡ニ對シ關根房吉關根ジュン關根多吉是
澤ナミ上告事件明治廿一年四月十日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百十八條 正文畧之

草第三百五十四條 過失ニ因テ人ヲ死ニ致サスト雖ヒ毆打創傷又ハ其他ノ變災ニ
因リ第三百三十五條ニ豫定シタル無期ノ癡疾又ハ毀傷ヲ加ヘタルキハ一月以上六
月以下ノ輕禁錮及ヒ五圓以上五拾圓以下ノ罰金又ハ唯此兩刑中ノ一ニ處ス可シ
(刑第三百十八條)佛刑第三百二十條

第三百十九條 正文略之

草第三百五十五條 疎忽ノ爲ノ一時疾病ニ罹ラシメ又ハ一時勞動シ能ハサラシメ
タルキハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮及ヒ三圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ唯此二
刑中ノ一ニ處ス可シ(刑第三百十九條)

或ル職業
ノ爲メノ
加重

自殺ニ干
與スル所
爲ノ三種

若シ其疎忽ノ爲メ何等ノ疾病ヲ加ヘス又何等ノ勞動ヲモ爲スト能ハサルニ至ラザ
メサルモ健康ノ一時ノ妨害又ハ身體上ノ輕キ毀傷ヲ加ヘタルキハ二圓以上五圓以
下ノ罰金ニ處ス可シ(刑、零)

草第三百五十五條第二(鐵道又ハ共同ニ人ヲ運送ス可キ船舶又ハ爆裂スヘキ物件
ヲ製造シ又ハ使用スル製作場若クハ造船場ノ役員雇人又ハ職工ノ其職務又ハ事業
ヲ行フニ付キ懈怠シタルキハ前條々ノ刑ニ一等ヲ加ヘ且ツ常ニ刑ヲ併合シテ科ス
可シ(刑、零)

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條 正文略之

第五節 自殺ニ干與スル罪

草第三百五十六條 左ニ掲クル者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上五拾
圓以下ノ罰金ニ處ス可シ

第一 自己ノ隨意ニテ人ノ自殺ヲ教唆シ且ツ之レヲ決心セシメタル者

第二 人ノ切迫ナル依頼ヲ受ケテ其無形又ハ有形ノ苦難ヲ免カレシメンカ爲メ
之レニ死ヲ與ヘタル者

自殺實行ノ所爲ニ於テ唯直接ニ之レヲ助成シタル者ハ以上述フル所ノ刑ノ一等

自殺ニ關スル罪

ヲ減ス可シ(刑第三百二十條)

第三百廿條

一號

被告權太郎ハ岡野ヲカト情死ヲ圖リ全人ノ囑托ヲ受ケ携フル處ノ小刀ヲ以テ全人ノ咽喉部ヲ突キ死ニ至ラシメタル事實ナレハ刑法第三百二十條ヲ適用シタルハ相當ナリ(東京輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ堀口權太郎カ上告事 件明治廿三年二月廿七日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百廿一條 正文略之

草第三百五十七條 前條第一項ニ指定シタル自殺ノ煽動者其一身上ノ情慾又ハ其固有ノ利益ヲ満足セシムルカ爲メニ人ヲ教唆シテ自殺セシメタルハ重懲役ノ刑ニ處ス可シ(刑第三百二十一條)

草第三百五十八條 若シ其煽動者又ハ其他ノ干與者ノ意料外ノ情狀ニ因リ自殺ハ唯之レニ着手セシノミカ又ハ其効力ヲ缺キシモノナルハ前二箇條ニ記載シタル刑ハ總則ニ從フテ減等ス可シ(刑零)

第三百二十一條 第三百九十二條

一號

原判文冒頭ニハ自殺教唆云々トアリ末文ニハ刑法第三百二十一條ニ該ルトアルニ因テ之ヲ觀レハ被告ハ被害者サイカ持出シ來ル金員ヲ取受シ以テ自己ヲ利センコ

情死ノ下手者

刑ノ加重

利ヲ圖リタル自殺ハ其教唆ニ下

手ス可キモノニテモラノ下シテ手ヲ下シタル事實アルハ謀殺罪トモノト云ハサル可

情死ヲ假裝シタル然タル謀殺ナリ

ヲ圖リサイヲ教唆シテ自殺セシメタルモノト事實ヲ認定シタルナリ果テ然ラハ首尾ノ文詞ニ適當スル事實即チ教唆自殺ノ事柄ヲ舉示セサルヘカラサルハ言フ俟タサルナリ然ルニ其事實ノ理由ヲ闕スルニ(上略被告太郎ハ續テ身ヲ投スルト僞リ先ツサイヲ其儘溜池ニ突落シ其場ヲ立去リ云々)トアリ今此事實ニ依ルトキハ被告ガ所爲ハ教唆ニ止マラス自ラ進テ下手ヲ殺害シタルモノニシテ謀殺犯ナルカ如シ若シ此謀殺ノ事實ヲ以テ實ナリトセンカ引用ノ法律ニ適應セス若シ此法律ノ引用ハ誤謬ナキモノトセンカ自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタルモノナリトハ判文中更ニ觀ルヘキ事實アルコトナシ到底事實ノ覆審ヲ爲スニ非ラサレハ其當否ヲ監査スル能ハス不法ノ裁判ナリ(大分重罪裁判所ノ言渡ニ對シ毛井太郎上告事件 明治廿一年十月十二日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百二十一條

二號

被告人カ本田松野ヲ殺害セント決意シ詐言ヲ以テ松野ヲ欺瞞シ巧ミニ情死ノ事ヲ勸誘シ終ニ短刀ヲ以テ松野ノ咽喉ヲ刺シ絶命セシメタルモノニシテ其豫メ謀テ人ヲ殺シタル所爲ナルコト明白ナリ然ルニ裁判官ハ此事實ヲ認メナカラ自殺ニ關スル罪ナリトシ刑法第三百二十一條ニ依リ處斷シタルハ檢察官上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリトス(岐阜重罪裁判所ノ言渡ニ對シ太洞七三郎上告事件 明治廿一年八月十一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

逮捕監禁ノ罪

第三百二十二條 正文畧之

第六節 不法ノ逮捕及ヒ監禁ノ事

不法ノ逮捕

草第三百五十九條 總テノ常人ニシテ現行犯ノ外人ヲ逮捕スル者ハ其逮捕ノ一事ニ付キ十一日以上一月以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(刑第三百二十二條)

〔若シ官吏ノ身分官服官飾ヲ僭用シ若クハ官憲ノ偽リノ命令ヲ以テ逮捕ヲ實行スル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮及ヒ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ〕(刑、零〇佛刑第三百四十一條第一項)

專恣ノ監禁

草第三百六十條 若シ私家ニ於テ十日又ハ十日以下ノ間不法ノ監禁ヲ爲セシハ四月以上一年以下ノ重禁錮及ヒ四圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ

監禁ノ日數十日又ハ十日ノ端數ヲ過クル毎ニ刑一等ヲ增加ス可シ(刑、第三百二十二條〇佛刑、第三百四十二條、第三百四十三條)

草第三百六十條第二 (前ニケ條ニ據テ受ケシムヘキ數多ノ刑ハ第百十二條第二第八項ニ定メタル方法ニ從フテ併科ス可シ)

第三百二十三條 正文畧之

草第三百六十一條 若シ苛虐ノ取扱又ハ重劇ノ脅迫ヲ以テ監禁ヲ爲セシハ一年

以上五年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(佛、刑第三百廿三條〇佛刑、第三百四十四條第二項)

第三百二十三條 第三百十七條 第三百二十四條

一號

父兄ノ子 弟ヲ懲戒スルノ爲メ 所行爲ハ 權ニ基キ 禁錮ニシテ 禁錮ヲ構 成セシメ 若シ夫レ 力爲メ殺 傷ニ至リ タルモ過 失殺傷ヲ 失ニ外ナ ラス

疾病癱疾 死去

本案ノ事實ハ過失殺傷罪ナリトス何者被告ニ於テ辰次郎時々痙攣症ヲ發スルヲ豫テ了知シナカク之レニ意ヲ注カヌ一時懲戒ノ爲メ辰次郎ノ四肢ヲ細帶ニテ縛シ胴着ヲ面部ニ覆ヒ手拭ニテ口邊ヲ縛リ納戸蒲團上ニ伏サシメ蒲團ヲ着セ置キタル爲メ辰次郎ハ怒氣上衝シ持病ノ痙攣症ヲ發シ其痙攣ノ爲メ呼吸ヲ窒息シテ死シタルモノト認メタリ然ラハ原承審官カ其事實ヲ認メナカラ之レニ刑法第三百二十三條同法第三百二十四條ヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリトス夫レ刑法第三百二十三條ハ其範圍狹隘ナルモノニシテ父兄カ好意上我カ子弟ノ暴惡ナル所行等ヲ懲戒スル爲メ一時室内ニ押シ込ミ或ハ帶等ヲ以テ縛シタリ或ハ擲拊シ或ハ減食セシムル所爲ニ對シテハ適施スベキモノニアラストス故ニ過失殺ナルニ外ナラサルナリ (破早重罪裁判所ノ言渡ニ對シ加藤要治上告事件明) (治廿一年五月二十三日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百二十四條 正文畧之

草第三百六十二條 苛虐ノ取扱ヲ以テ人ヲ監禁シ爲メニ疾病或ハ事業ノ不能無期ノ癱疾又ハ死ニ致シタル者ハ假令ヒ犯者之レヲ致スノ意思ヲ有セザリシト雖モ豫

逮捕監禁ノ罪

メ謀テ犯セシ故意ノ創傷及ヒ毀傷ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス可シ(刑、第三百二十四條○佛刑、第三百四十四條第二項)

第三百二十五條 正文略之

草第三百六十三條 監禁ヲ受ケタル者其監禁ヲ受ケタルカ爲メ其身ヲ免カルヘイヲ得サリシ所ノ意外ノ變災ヨリシテ其者ノ死去又ハ癱疾ヲ致セシキハ豫謀ヨリ生スル加重ヲ適用スヘカラス(刑、第三百二十五條)

監禁ヲ受ケタル者隨意ニ自殺シ又ハ其身ヲ毆打創傷セシキモ亦右ニ同シ(刑、零)

第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條 正文略之

第七節 脅迫

口頭上ノ脅迫

草第三百六十四條 何人ト雖モ口頭上ノ脅迫ノ犯者トナル者ハ左ノ如ク罰ス可シ
第一 脅迫ノ目的殺害若クハ人ノ居住スル家屋又ハ其附屬地ニ放火シ溢水シ又ハ之ヲ毀却セントスルニ在リシキハ一月以上一年以下ノ重禁錮及ヒ四圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス可シ

第二 若シ又口頭上ノ脅迫ノ目的監禁毆打創傷又ハ身体ニ對スル其他ノ暴行妨害若クハ人ノ住居セサル家屋ニ放火シ又ハ溢水シ若クハ其他總テ不動産又ハ動

産ノ毀壞強奪ニ在リシキハ十一月以上二月以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第三百二十六條○佛刑、第二百二十三條乃至第二百二十七條第

三百七條第三百八條及ヒ第四百二十六條)

監視

(尚ホ其外ニ犯者ハ六月以上二年以下ノ期限中監視ニ附スルヲ得可シ(刑、零○佛刑、第三百五條第三百六條第三百七條)

文書ヲ以テスル脅迫

草第三百六十四條第二 前條ニ掲ケタル危險ノ恐レヲ生ス可キ性質アル無名又ハ署名ノ文書謄畫又ハ或ル符表ヲ以テ人ヲ脅迫シタルキハ前條ニ掲ケタル刑ヲ倍シテ科ス可シ(刑、零)

第三百二十七條 正文略之

刑ノ加量

草第三百六十五條 左ニ掲ケタル所ノ各情狀アルキハ前二條ニ掲ケタル刑ニ一等ヲ加フ可シ

第一 其犯者脅迫ノ際人ヲ殺害スルニ明顯ナル武器若クハ燃燒ス可キ物件又ハ爆裂ス可キ物件ヲ携帶セシ時(刑、第三百二十七條)

第二 (公ケノ官吏ノ職務執行中又ハ其職務ノ關スル場合ニ該官吏ニ對シテ脅迫ヲ行ヒシ時)

(第百十五條ニ指定シタル中央官憲ノ一ニ對シ若クハ其長官又ハ其數名ノ官員ニ

恐迫ノ罪

強取附送
リノ事

他人ニ對
スル脅迫

告訴ヲ必
要トスル

例外ノ規
則

恐怖ヨリ
生スル不
幸ナル結
果

疎忽ノ脅
迫

婦女ノ承
諾ヲ經テ
墮胎ノ事

婦女自カ
ラ墮胎ス
ル事

婦女ノ承
諾ヲ經テ
墮胎ス
ル事

墮胎ニ適
スル水藥
如何ヲ定
メスシテ

對シテ脅迫ヲ實行セシキハ刑二等ヲ增加ス可シ(刑、零)

草第三百六十五條第二 (金額有價物領収證書又ハ義務釋免ノ證書ヲ交付シ即チ差送ルヘキノ差圖ヲ以テ脅迫ヲ爲シタルキハ第四百二十七條ニ循ヒ未遂顯効又ハ既遂ノ強取ノ刑ヲ適用ス可シ(刑、零))

第三百二十八條

草第三百六十六條 脅迫ノ害惡ヲ其脅迫ヲ受ケタル者自カラノ身体ニ對シ若クハ其他ノ人ニ對シテ蒙ラシメタルキハ其脅迫ノ罪ハ前條々ニ掲ケタルカ如クニ罰ス可シ(刑、第三百二十八條)

第三百二十九條 正文略之

草第三百六十七條 前條々ニ掲ケタル諸般ノ場合ニ於テハ脅迫ヲ受ケタル本人又ハ之レヲ代表スル者ノ告訴アルニ非ザレハ起訴ヲ生セス(刑、第三百二十九條)然レハ公ケノ官吏ニ對シハ公然脅迫ヲ爲シタル場合ニ於テハ告訴ヲ必要トセス(刑、零) 草第三百六十八條 口頭上又ハ文書上ノ脅迫ハ恐怖ノ効力又ハ其他ノ或ル災害ニ因リ脅迫ヲ受ケタル者ノ精神錯亂又ハ無期ノ癡疾ヲ致シタルキハ一年以上三年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ノ刑ニ處ス可シ 若シ其脅迫死ヲ致セシキハ二年以上五年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上四拾圓以下ノ

罰金ニ處ス可シ(刑、命)

草第三百六十九條 惡意ニ人ヲ恐怖セシムルカ爲メニ脅迫ヲ爲セシキハ非スシテ其目的詭弄ニ出テタルモ疾病精神錯亂癡疾又ハ死ニ致セシキハ疎忽ニ因テ加ヘタル殺害及ヒ支体又ハ心裡ノ毀傷ニ關スル刑ヲ適用ス可シ(刑、零)

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 正文略之

草第三百七十條 暴行ニアラサル手段ヲ用テ故意ニ婦女ニ墮胎ヲ爲サシメタル者ハ(婦女ノ承諾ヲ經テ)二月以上二年以下ノ重禁錮及ヒ四圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(刑、第三百三十一條)○佛刑、第三百十七條第一項

墮胎ヲ承諾シ又ハ自カラ墮胎シタル婦女ノ刑ハ前項ノ刑ニ同シ(刑、第三百三十條)○佛刑、第三百十七條第二項

草第三百七十條第二 (婦女ノ承諾ヲ經テ)墮胎セシメタルキハ三月以上三年以下ノ重禁錮及ヒ六圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ

第三百三十條

原判文ヲ閱スルニ(被告ハ藤澤權吉方ニ至リ其藥料ノ何タルヤハ今分明ニ知リ難キモ墮胎ニ適スル水藥ヲ持參シ被害者朝野ニ對シ氣分爽快ヲ覺ユル藥ナリ之ヲ服

墮胎ノ罪

藥物ヲ以テ墮胎セシメテ罪ヲ斷スヘカラ

婦女ノ死スル事

醫師ニ對スル罪ノ加重

用スヘシト強ヒ云々トアリテ原裁判官ニ於テ被告人カ朝野ニ服用セシメタル藥料ハ今ニ至リテ穿鑿スルニ由シナキ者トスルモ凡醫學上ニ於テ墮胎ニ適スル水藥ナルモノナリヤ否ハ本案最モ吟味スヘキ緊要ノ事實ナルニ分明ニ知リ難キト云フヲ以テ之ハ不問ニ付シ裁判シタルハ事實理由ヲ明示セサルモノニシテ不當ノ裁判ナリトス(廣島控訴院ノ言渡シニ對シ河内政一上告事件明治二十一年四月七日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百二十一條

草案第三百七十條第一項ハ同三百七十一條ヲ比照スヘシ(但草案第三百七十條第一項ハ現行刑法第三百卅條ニ比照シアリ)

草第三百七十一條 墮胎ノ爲メ婦女ヲ死ニ致スノ意ナシト雖モ之カ爲メ死去シタルキハ犯者ニ科スヘキ刑左ノ如シ

婦女墮胎ヲ承諾セシキハ(犯者)ヲ一年以上四年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

婦女墮胎ヲ承諾セザリシキハ二年以上五年以下ノ重禁錮及ヒ二拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第三百二十二條)

第三百二十二條 正文略之

草第三百七十二條 醫師醫學得業生製藥者又ハ産婆ニシテ故意ヲ以テ墮胎セシメタル者ニ對シテ(母ノ身体ノ危害ヲ豫防スルカ爲メ醫師等ニ於テ墮胎ヲ要スト認

メタルキハ此限ニ在ラス)前條々ニ掲ケタル刑ノ區別ニ從ヒ其刑ニ一等ヲ加ヘテ科ス可シ(刑、第三百二十二條○佛刑、第三百十七條第三項)

第三百二十三條 草案欠

第三百二十四條 正文略之

第三百二十五條 正文略之

草第三百七十三條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ故意ニ非サルモ毆打又ハ暴行ヲ加ヘテ之ヲ墮胎ニ至ラシメタルキハ一年以上四年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ

故意ニ重劇ナル毆打又ハ暴行ヲ加ヘテ墮胎ニ至ラシメタルキハ二年以上五年以下ノ重禁錮及ヒ二拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(刑、第三百三十四條)

右何レノ場合ニ於ケルモ又墮胎ニ至ラシメタルト否トヲ問ハス若シ其毆打又ハ暴行ニ因テ癱疾又ハ死ヲ致セシキハ普通法ノ刑ヲ適用ス可シ(刑、第三百三十五條)

第三百七十三條第二 (墮胎ノ未遂犯ハ之レヲ罰ス可シ)(刑、零)

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百二十六條 正文略之

第九節 幼者老者病者又ハ癱疾者ヲ遺棄スル罪

遺棄ノ罪

故意ニ非サルモ暴行ヲ加ヘテ墮胎セシムル
故意ニ因レテ墮胎
婦女ノ死

寮園ナラサル地

草第三百七十三條 故意ヲ以テ五年以下ノ幼者ヲ寮園ナラサル地ニ遺棄シ又ハ遺棄セシムル者ハ其事ノミニ因テ一年以上一年以下ノ重禁錮及ヒ五圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(佛刑、第三百五十二條)
老者廢疾者又ハ疾病者ニシテ自ラ生命保存ヲ爲シ難ク且ツ自己ノ需用ヲ辨シ難キ者ヲ同上ノ地ニ遺棄セシメタル者ニ對シテ同上ノ刑ヲ適用ス可シ(刑、第三百三十六條)

寮園ノ地

第三百二十七條 正文略之
草第三百七十五條 十二年以下ノ幼者又ハ其他前條ニ指示セル者ヲ寮園ノ地ニ遺棄シタルキハ四月以上四年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第三百二十七條○佛刑、第三百四十九條)

第三百二十八條 正文略之

草第三百七十六條 遺棄セシ人ノ看守ヲ給料ヲ受ケテ好意ニ擔當シタル者ニ對シテハ前二條ニ掲ケタル刑ニ一等ヲ加フ可シ(刑、第三百二十八條○佛刑、第三百五十條第三百五十三條)

第三百二十九條

草第三百七十七條 人ヲ遺棄シ因テ之ヲ第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ニ豫

遺棄ヨリ

生タル體疾毀傷死

定シタル無期ノ癱疾身體切斷又ハ疾病ニ至ラシメタルキハ第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ニ記載シタル刑ニ照シテ重キニ從フテ處斷ス(佛刑、第三百五十一條)
遺棄ノ爲メ死ニ致セシキハ犯人死ニ致スノ意ナキト雖モ重懲役ニ處ス可シ(刑、第三百二十九條)

寮園ノ地ニ遺棄セシ場合ニ於テハ豫謀ノ爲メニ定メアル一等ノ加重ヲ適用ス可シ(犯人寮園ノ地ニ人ヲ遺棄シテ死ニ致スノ意ヲ有シ且ツ實ニ之レカ爲メ死ニ致セシキハ謀殺ノ刑ヲ適用ス可シ)(刑、零○佛刑、第三百五十一條)

第三百四十條 正文略之

草第三百七十八條 何人ト雖モ自己ノ所有地又ハ自己ノ監督スヘキ地内ニ幼者老者廢疾者若クハ疾病者ノ遺棄迷失スルヲ發見シテ之レヲ引取ラヌ又ハ之レカ引取ヲ承諾スル者又ハ其地方ノ官憲ニ之レヲ引渡サ、者ハ寮園ノ地ニ遺棄スル罪ヲ犯セシ者ト同様ニ看做シ只其刑ニ一等ヲ減シテ科ス可シ(刑、第三百四十條)

草第三百七十九條 法律又ハ合意ニ因テ幼者老者廢疾者又ハ疾病者ノ看守ヲ爲ス者之レカ還附ヲ請求スル權利アル者ノ還附ノ請求又ハ公ケノ官憲ヨリ還附ノ請求アルモ之ヲ還附セス且ツ其幼者等ノ逃走ノ理由ヲ辨明セサル者ハ輕懲役ニ處ス可シ(刑、零○佛刑、第三百四十五條第四項)

救助ヲ怠ル事

看守ヲ蒙ル者ノ虧欠

遺棄ノ罪

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條 正文略之

第十節 兒子又ハ幼者ノ略取及セ誘拐

草第三百八十四條 何人ト雖モ暴行又ハ脅迫ニ因リ若クハ欺計又ハ其他ノ手段ヲ以テ十二年以下ノ幼者ヲ之レニ對シテ威力ヲ有セシ者又ハ有効ニ之レカ看守ヲ爲セシ者ノ置キタル場所ヨリ略取シ又ハ誘拐スル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮及セ二拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(刑第三百四十一條○佛刑第三百五十四條乃至第三百五十六條)

第三百四十二條

十二年以上ノ幼者

草第三百八十一條 十二年以上二十年以下ノ幼者ニ對シ犯罪ヲ行ヒシハ犯者ヲ左ノ如ク罰ス

第一 威力又ハ脅迫ニ因テ奪取シタル場合ニ於テハ其刑ハ一年以上三年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上三拾圓以下ノ罰金タル可シ

第二 欺計誑惑又ハ其他ノ手段ニ因レル誘拐ノ場合ニ於テハ其刑ハ六月以上二年以下ノ禁錮及ヒ五圓以上二拾圓以下ノ罰金タル可シ(刑第三百四十二條○佛刑第三百五十四條乃至第三百五十六條)

從犯

第二百四十三條 正文略之

草第三百八十二條 略取又ハ誘拐サレタル兒子若クハ幼者ナルヲ知テ之レヲ自己ノ親屬中ノ者從者又ハ總テ其他ノ身分アル者トシテ收受シタル者ハ前條々ニ豫定シタル略取又ハ誘拐ノ從犯ト看做シ前條々ノ刑ニ一等ヲ減シテ罰ス可シ(刑第三百四十三條第三百四十五條)

第二百四十四條 正文略之

必要ノ告

草第三百八十三條 前條々ノ輕罪ノ起訴ハ被害者又ハ之レヲ代表スル者ノ告訴又ハ告發ノ後ニアラサレハ生セス(但シ其犯罪カ職權ヲ以テ起訴スルヲ得ヘキ他ノ犯罪ニ附帶シタルハ格別ナリ)

結婚ノ効

略取又ハ誘拐シタル場合ニ於テ犯人其略取又ハ誘拐シタル人ト適法ニ配偶セシハ假令ヒ起訴ノ有効ニ始マリシト雖モ其起訴ハ法律上當然ニ止息ス可シ(刑第三百四十四條○佛刑第三百五十七條)

發見シタル兒子癡疾者被切斷肢

草第三百八十四條 略取又ハ誘拐サレタル兒子又ハ幼者ヲ發見スト雖モ癡疾者被切斷肢者又ハ病者トナリテ之レカ爲メ犯人犯罪ニ無關係ナル意外ノ原由又ハ抗

体者トナ
リタル場
合

未タ發見
セサル兒
子逃走シ
ル二名ノ
幼者

兒子ノ更
換

未遂犯
人ノ上ノ
錯誤

親告罪ノ
棄權又ハ
公訴權ハ

私和ニヨ
リテ消滅
ス

暴行ヲ用
共スシテ
人ノ節操
ヲ害スル
所爲

暴行ヲ用
テ人ノ節
操ヲ害ス

拒スヘカラサル原由ヲ證明セサルハ犯人ハ事ノ輕重ニ從ヒ豫謀ナクシテ故ラニ
加ヘタル肢体毀傷ニ關スル第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ニ掲ケタル刑ニ處
ス可シ

若シ兒子ヲ發見セシテ其逃走ノ原由ノ證明ナキハ重懲役ニ處ス(刑、零)

草第三百八十五條 二十歳未滿ノ幼者二名同謀シテ其看守ヲ爲セシ者ノ權ヨリ逃
避シタルハ刑ヲ免除ス

然レトモ其丁年ニ至ルマテハ(懲治場)留置ノ監禁ニ服從セシムルヲ得(刑、零)

草第三百八十五條第二 詐欺ノ計策ヲ施シ一兒ヲ以テ他一兒ニ更換シ其親族又ハ

正當ノ看守人ニ對シ眞僞ヲ誤ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮及ヒ二拾
圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、零)

草第三百八十五條第三 (本節ニ豫定シタル輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スヘシ)(刑、零)

草第三百八十五條第四 (犯罪ヨリ被害者本人ノ上ニ生シタル錯誤ハ本節ノ刑ノ
適用ヲ除却セス)(刑、零)

第三百四十五條 草案欠

幼者誘拐ノ罪ハ刑法第三百四十四條ニ規定アル如ク被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待
チ論ス可キ者ナリ而シテ告訴ヲ待テ受理スベキ事件ハ被害者ノ棄權又ハ私和ニ依

テ公訴ノ消滅スベキモノナルコトハ治罪法第九條ニ規定スル所ナリ今本案一件書類
ヲ審閱スルニ被害者武澤角平ヨリ被告人ト示談行届キタル旨ヲ以テ告訴取消シ願
書ヲ差シ出シタルハ已ニ公訴ノ消滅セシモノナルヲ以テ當然被告人ヲ放免スベキ
モノトス已ニ此點ヲ以テ原裁判ヲ破毀シ放免スベキモノト認メタルハ上告點ニ對
シ爰ニ辨明ヲ要セス

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ之レヲ取消シ
被告清原佐門ヲ放免スルモノナリ(千葉輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ清原佐門上告事件)
明治廿二年十月十六日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

草第三百四十六條 同第三百八十七條第一項ヲ比照
スヘシ

第十一節 風儀ニ關スル重罪及ヒ輕罪

草第三百八十六條 男女ヲ問ハス十二年未滿ノ兒子ノ節操ニ背反スル所爲ヲ暴行
ナク犯ス者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮及ヒ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
(刑、第三百四十六條○佛刑第三百三十一條第一項)

第三百四十七條 正文略之

草第三百八十七條 男女ヲ問ハス十二年以上ニ至リタル者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ
以テ前條ノ所爲ヲ犯セシ者ハ同條ニ掲ケタル刑ニ處スヘシ(刑、第三百四十六條○
猥褻姦淫重婚ノ罪)

猥褻姦淫重婚ノ罪

ル所爲

佛刑第三百三十二條第三項)

十二年以下ノ兒子ニ對シ暴行又ハ強迫ヲ以テ同上ノ所爲ヲ犯セシキハ二月以上二年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第三百四十七條○佛刑第三百三十二條第四項)

幼者ヲ姦淫スル事

草第三百八十八條 十二年以下ノ女兒ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑第三百四十九條○佛刑第三百三十一條第一項)

(其女兒八年以下ナルキハ猥行ヲ爲シタル者ニ強姦ノ刑ヲ適用ス可シ)(刑、零)

第三百四十八條 正文略之

強姦

草第三百八十九條 何人ト雖モ威力又ハ重大ナル脅迫ヲ以テ十二年以上ノ婦又ハ娘ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處スヘシ(佛刑第三百三十二條)

睡眠無感覺又ハ其他總テ強姦ノ重罪ヲ犯スノ目的ヲ以テ暴行又ハ欺計ニ因リ被害者ニ爲サシメタル意慾ノ停止ニ乘シテ該重罪ヲ犯セシキ亦前項ノ刑ニ處ス

暴行又ハ脅迫ヲ用井或ハ前條(前項ノ誤リ)ニ豫定シタル方法ノ使用ニ因リ十二年以下ノ女兒ニ強姦ヲ行ヒシキハ重懲役ニ處ス(刑第三百四十八條○佛刑第三百三十二條第二項)

加重情狀

草第三百八十九條第二 前條々ニ豫定シタル所爲ヲ左ノ人々ノ犯セシキハ該條々

ニ掲ケタル刑ニ一等ヲ加ヘテ科ス可シ

被害者ノ尊族親

被害者ノ後見人又ハ管財人教育人又ハ教師主人又ハ棟梁或ハ總テ其他ノ人ニシテ

被害者ニ對シテ法律上又ハ事實上ノ威權ヲ有スル者

被害者ノ僕婢又ハ前述ノ人々ノ僕婢

醫師宗門ノ教職又ハ公ケノ官吏ニシテ犯罪ヲ行ハンカ爲メニ自己ノ身分ヲ濫用セ

シ者

(又ハ暴行ノ場合ニ於テ二名又ハ數名同謀シテ犯罪ヲ行ヒシ時)(刑、零○佛刑第三百三十一條第二項第三百三十三條)

第三百四十八條

第一號

發聲涕泣ノ模倣ハ強姦構成ニ必要ナシ

原判文中前略被告機藏ハ其奥ノ間ヨリ驅出來リ被害者「タミ」ノ拒ムニ拘ハラヌ「タミ」ヲ横サマニ抱ヒテ奥ノ間ヘ連レ行キ云々「タミ」カ發聲シテ涕泣シ起出ントスルヲ押倒シ右手ヲ以テ「タミ」ヲ押ヘ付ケ云々トアリテ即「タミ」ノ拒ムニモ拘ハラヌ強テ押倒シ其所爲ヲ遂ケタル事實明カナレハ強姦罪ヲ構造スヘキ一言ヲ俟タヌ而シテ發聲涕泣トハ如何ナル語ヲ發シタルヤ明示セスト云フモ其言語ハ別ニ必要ノ事

猥姦淫重婚ノ罪

實ニ非サレハ之ヲ明示セサルモ理由不備ノ裁判ト爲スニ足ラス(廣島重罪裁判所ノ言渡シニ對シ江種濶藏カ上告事件明治二十一年二月四日大審院ニ於テ棄却ノ判決)
第三百四十八條
第三百四十六條

第二號

上告ノ趣旨ハ強姦ヲ遂ケタルニ非ス唯猥褻ノ所爲ナレハ刑法第三百四十六條ヲ適用スルカ又ハ強姦未遂罪ト爲ス可キモノナリト云フモ原判文ヲ檢スルニ被告ハ在間ニミヲ捕ヘ聲ヲ出セハ手拭ヲ押込ムト申威シ強テ姦淫シタリトノ事實證據ヲ明示シ相當ナル法律ヲ適用シタルハ越權不法ノ點アルニ非ス上告ノ論旨ハ裁判官ノ職權ヲ以テ判定シタル事實證據ノ有無ヲ論難スルニ過キスシテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス(廣島重罪裁判所ノ言渡シニ對シ大重松太郎上告事件明治二十一年十月十六日大審院ニ於テ棄却ス)

第三百五十條

第三號

親屬ヨリノ告訴ハ被害者ノ爲メニ之ヲ爲スモノナルヲ以テ被告者ノ意思ニ反シテ告訴ス可キモノニ非ラズ又其意思ニ反シタル告訴ハ効ナキモノトス而シテ其親屬ハ被害者ノ意思ニ反シテ弄權私和ヲ爲スコヲ得ス又弄權私和ハ事件ニ對シタルモノナレハ共犯人其利益ヲ受クルモノトス(司法警察訓則第六十八條全第七十五條全第七十六條明治十四年七月十三號布告)

第三百四十九條

第二百五十條 正文略之

草第三百九十九條 總テ前數條ニ掲ケタル場合ニ於テハ重罪又ハ輕罪ノ起訴ハ被害者ノ成年者タルキハ其告訴幼者タルキハ其法律上ノ代表者又ハ尊族親中ノ者ノ告訴アルニアラサレハ發生セス
犯者ト被害者トノ適法ノ婚姻ハ第三百八十三條ニ循ヒ起訴ニ終了ヲ附スヘシ(刑、零)

第三百五十條

第一號

抑モ姦淫罪ノ公訴ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴アルニアラサレハ之レヲ提起實行セサル所以ノモノハ他ナシ其犯罪ノ性質專ラ被害者ノ節操榮辱ニ關スルヲ以テ概テ之レヲ隱蔽セント欲スルハ情ノ常ナルカ故ニ其意ニ反シ之レヲ顯舉スルハ仍ホ被害者ノ痛苦ニ一層甚タ敷ヲ加フルノ道理ナレハ先ツ其意ノ向フ所ニ沿ハント欲スルニ外ナラス然レモ其罪ヲ犯スニ因テ人ヲ死傷ニ致スカ如キ罪ヲ相伴テ犯セハ其殺傷罪ハ告訴告發ヲ要セスシテ直チニ公訴ヲ提起實行ス可キモノニ付此場合ニ方ツテハ彼ノ姦淫罪モ亦告訴ヲ俟テ公訴ヲナスヘキ限リニアラス何トナレハ其殺傷

猥褻姦淫重婚ノ罪

強姦ト猥褻罪トノ區別ハ事實點ニ關ス

告訴ノ必要ナル事

姦淫罪ト親告罪トナスハ他ノ犯罪ノ時ニ限ル

罪ヲ審判スルニ就テハ必スシモ其起因タル姦淫ノ事實ヲ表明セシムルハ能ハス已ニ表明スルヲ要スル以上ハ亦之レヲ公ニセスシテ蔽ハント欲スルモ蓋シ避クヘカラサルノ條理ナレハ到底公益ノ爲メニハ私益ヲ顧ミルニ違ナク社會刑罰權ノ因テ生スル所ニ基キ其告訴ノ有無ニ論ナク共ニ之レヲ罰ス可キハ法理ノ當サニ然ルヘキ者トス此故ニ刑法第三百五十一條ノ規定ヲ其第三百五十條ノ後ニ設置シタル所以ナルニ原判文ヲ閱スレハ本件ノ姦淫罪ハ追テ被害者ノ棄權ヲ爲シタル者ニ付公訴權ハ已ニ消滅セシモノト思惟シテ豫審判事カ之ヲ刑法第三百四十九條第三百五十一條第三百一一條ニ該當ス可キ事實アリト認メテ松山重罪裁判所ヘ移ツスト言渡シタル終結ハ不當ナルヲ故ニ之レヲ取消シ單ニ其第三百一一條第二項ニ該當スヘキモノト判決シタルヲ觀レハ上告論旨ノ如ク原會議局カ却テ其法律ノ解釋ヲ誤リタルモノト云ハサルヲ得ス(松山重罪裁判所會議局ノ言渡ニ對シ關谷忠太上告事件明治廿年四月五日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百五十一條 正文略之
 第三百九十一條 前數條ニ豫定シタル所爲ノ爲メニ死去癱疾又ハ第三百三十四條第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ニ豫定シタル身体上ノ毀傷ノ一ヲ生シタルハ是等ノ箇條ニ掲ケタル刑ノ最モ重キモノニ一等ヲ加ヘテ科ス可シ(刑第三百五十一條)

毀傷及ヒ殺害ニ關スル刑

幼者ノ淫行ノ媒介

第二百五十二條 正文略之

草第三百九十二條 何人ト雖モ媒介シテ男女ヲ問ハサル二十歳以下ノ幼者(又ハ白痴ナルヲ著明ナル者)ノ一名又ハ數名ノ放蕩又ハ不品行ヲ勸誘シ又ハ補助スル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮及ヒ拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第三百五十二條)○佛刑第三百三十四條第一項

贈與約務脅迫又ハ他ノ方法ヲ以テ此輕罪ヲ構造スル媒介ヲ爲サシムル者ハ共犯トシテ罰ス可シ

(其外本條第一項ニ掲ケタル犯人ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附スルヲ得(刑)○佛刑第三百三十五條第三項)

從犯

監視

加重

草第三百九十二條第二(第三百八十九條第二ノ第一項第二項第三項ニ豫定シタル身分ノ一ヲ有スル犯人ニ對シテハ前條ニ掲ケタル刑ニ一等ヲ加ヘテ科ス可シ(刑)○佛刑第三百三十四條第二項)

第三百五十三條 正文略之

草第三百九十二條 適法ノ有夫ノ婦姦通ヲ爲スルハ三月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス可シ(佛刑)第三百二十七條第一項

該輕罪ノ共犯ハ同一ノ刑ニ處ス(刑)第三百五十三條○佛刑)第三百二十八條

婦ノ姦通

共犯

姦淫姦通重婚ノ罪

夫ノ告訴

草第三百九十三條第二 姦通ノ起訴ハ夫ノ告訴又ハ夫ヨリ姦通ノ原由ニ因リ離

訟求權ノ

拋棄

夫痴白ナル

起訴ノ終

了

夫ノ告訴

事ノ權ナキ

〔告訴及ヒ民事上ノ訟求ハ常ニ確定裁判ニ至ル迄ハ願下ケテ爲スコトヲ得可シ〕

〔夫若シ白痴ナルハ夫ノ最近親二名ノ參同シタル上ニテ後見人ヨリ告訴ヲ爲シ

又ハ之レヲ願下ケルコトヲ得可シ〕

〔確定裁判前ニ生シタル夫婦ノ和合夫ノ死去又ハ婦ノ死去ハ其婦及ヒ其共犯人ニ

對スル起訴ニ終了ヲ附ス〕

夫若シ其婦ノ姦通ヲ教唆シ又ハ補助セシキモ亦其告訴ノ効ナキモノトス(刑第三

百五十三條○佛刑第三百三十六條第三百二十七條第二項○民法第三百八條第三

百九條)

第三百五十三條

一號

有夫姦ノ罪ニ付テハ法律上ノ代人ト雖モ告訴スルノ權ナシ但シ本夫白痴癡癪ナル

キハ近親ノ者ヨリ告訴スルコトヲ得可シ又棄權ハ其事件ニ對スルモノニシテ奸夫奸

婦共通ノモノナリ(司法警察訓則第六十七

條第二項第七十六條)

第三百五十七條

第三百五十三條

二號

刑法第三百五十三條ヲ案スルニ有夫ノ婦姦通シタル者ハ云々本夫ノ告訴ヲ待チテ

其罪ヲ論ストアリ抑本案上告趣旨ニ付原判文ヲ查閱スルニ被告人クマノ本夫タル

三之助カ死期ニ臨ミ其實弟タル甚吉ニ委任狀ヲ附與シ置キ甚吉ハ三之助ノ死後全

人ノ遺言ニ依リ其委任狀ヲ以テ被告人クマ外一名ニ對シ姦罪ノ告訴ヲ爲シタルモ

三之助ハ明治廿一年十月四日死亡シ甚吉ノ告訴セシハ十月八日ナレハ本夫ノ死後

ニ係ルヲ以テ告訴ノ効ナキ旨ヲ記載アリ凡ソ委任狀ノ効力ハ其依託シタル本人ノ

存亡ニ隨フ者ニシテ本人ノ死亡シタル上ハ其委任ノ効力ト共ニ消滅スヘキハ論ヲ

俟タザルヘシ然ラハ本案ノ如キハ本人死亡後ノ告訴ニシテ其委任狀ノ効力ハ已ニ

消滅シタルモノナレハ原裁判所カ該告訴權ハ其効ナシトシ公訴ヲ受理ス可ラスト

言渡シタルハ當然ノ事柄ナリ(福島縣裁判所ノ言渡ニ對シ武藏クマ津村留吉上告事)

言渡シタルハ當然ノ事柄ナリ(件明治廿一年十一月十五日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百五十四條 正文略之

草第三百九十四條 何人ト雖モ自己ノ適法ノ婚姻ノ關係ヲ脱セサルコトヲ知リシナ

カラ更ニ正式ヲ履ンテ適法ノ婚姻ヲ結約シタル者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮及

ヒ拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス可シ(刑第三百五十四條○佛刑第三百四十條)

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

四九一

狼狽姦淫重婚ノ罪

親告罪ハ
任人ノ効
本人ノ死
去ト同時
ニ消滅ス
ルモノト

重婚

第三百五十五條 正文略之

第十二節 人名譽ニ關スル重罪及ヒ輕罪

草第三百九十五條 何人ト雖モ無實ナルコトヲ知テ書面又ハ口頭上ニテ刑事ノ處斷ヲ惹起スヘキ性質ノ告訴又ハ告發ヲ司法權ニ爲ス者ハ誣告ノ犯人ニシテ被告人ニ對スル偽證ニ付キ第二百五十三條ニ掲ケタル刑ト同一ノ刑ヲ以テ罰ス(刑、第三百五十五條○佛刑、第三百七十三條)

第三百五十五條

一號

誣告罪ハ人ヲ陷害スルノ意ニテ告訴セハ直ニ成立ス

凡ソ誣告ノ罪ハ檢察官ニ於テ被告訴者ニ對シ公訴ヲ提起スルト否トヲ問ハス人ヲ陷害スルノ惡意ヲ以テ法律ニ觸ルヘキ無實ノ事柄ヲ虛構メ告訴セハ即チ成立スル者トス本案控訴院カ檢事ノ起訴ナキヲ以テ理由トシ誣告罪ヲ構成セスト判定シタルハ不當ト謂ハサル可ラス(長崎控訴院ノ言渡ニ對シ平村方八上告事件明) 第三百五十五條 治罪法第十三條

二號

誣告罪ハ其審問中キ犯罪ニ

大審院ニ於テ破毀ノ判決ヲ爲シタル日ヨリ本按告訴迄ハ廿二月ニシテ何レヨリ起算スルモ滿三ケ年ヲ經過セスト云フモ誣告罪ハ告訴ヲ爲セハ直ニ犯罪ヲ構成スル

アラス

者ニシテ其所爲ノ後ニ繼續スヘキモノニアラス之レカ爲メ上告人カ二百四日間拘留ヲ受ケタルカ如キハ誣告罪ノ結果ニ過キスシテ繼續犯ト云フヲ得サレハ治罪法第十三條上半截ニ則トリ本案事件犯罪ノ日即チ明治十七年二月中公訴期滿免除ノ期限ヲ起算スヘキヲ當然ナリトス(福井輕罪裁判所會議局ノ言渡ニ對シ湯淺重次郎上告事件明治廿一年七月十九日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百五十五條

三號

誣告罪ハ繼續犯ニアラス

誣告罪ハ其告訴シタル時ニ於テ成立スル即時犯ニシテ其被誣告者ノ審理中繼續スルモノニアラサレハ其告訴ノ當時ヨリ起算シ滿三年ヲ經過セハ期滿免除ヲ得テ公訴權ノ消滅スルモノナリ(新潟輕罪裁判所會議局ノ言渡ニ對シ今井弘三郎今井孫平上告事件明治廿二年九月廿一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百五十五條

四號

誣告罪適用

刑法第三百五十五條ニ不實ノコトヲ以テ人ヲ誣告シタルモノハ云々トアリテ人陷害スル爲メ不實ノ告訴告發ヲ爲シタルトキハ直チニ同條ノ罪ヲ組成シ從テ公訴權ノ發生スルハ論ヲ俟タズ本案事件ノ如キ松尾丑龍カ被告事件未タ確定セサルモ被告人力カ誣告事件ハ已ニ成立シタルモノニシテ二重抵當事件ノ結果ニ因リ罪ノ成否ヲトスヘキモノニアラス故ニ原裁判所ニ於テ公訴受理スヘカラサルノ申立ヲ棄却シ

誣告罪ノ罪

タルハ相當ナリ(横濱輕罪裁判所ニ於テ公訴受理ス可ラサルノ言渡ニ對シ塚本織三上告事件明治廿一年三月廿七日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百五十五條

五號

法ノ罪セサルヲ以テ人ヲ誣告スルモ罪ナシ

誣告罪ヲ組成スルニハ人ヲ陷害スルノ目的ヲ以テ法律上有罪ニシテ且實ノ事柄ヲ訴出シタルモノナルヲ要ス今被告ノ如ク舊貨幣ヲ偽造シタリトテ訴出テシモ舊貨幣ハ明治七年第九十三號公布ヲ以テ一般ノ通用ヲ廢止セラレタルモノナレハ被告ハ事ヲ訴フルノ始メヨリ目的ヲ遂成スルヲ能ハサルト即チ法律上罪トナラサル事柄ヲ訴出テタルモノト做サ、ルヲ得サルノミナラス偶々之レカ爲メ處刑セラレタルモノアリトスルモ被告カ訴出テタル事柄ノ不實ニアラザリシヲ徵シ得ヘキヲ以テ被告カ所爲ハ到底犯罪ヲ構成セサルヲ益明ナリ(金澤輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ明治十九年九月二十八日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第七十七條 第三百五十五條

六號

犯意ヲ欠キタル誣告

誣告罪ハ人ヲ陷害スルノ意思ヲ以テ事實ヲ摸造シ告訴告發シテ初メテ其罪ヲ組成スルモノトス然ルニ今諧謔或ハ過失等ヨリシテ不實ノ告訴ヲナスカ如キハ固ヨリ害意アリト認ムルヲ得サレハ其罪ヲ組成セサルモノナリ(裁判所ノ言渡ニ對シ明治廿一年一月十五日大審院ノ判決)

刑ノ除斥

第二百五十六條 正文略之

草第二百九十六條 誣告ヲ爲スモノ告發セラレタル者ニ對スル總テノ起訴前ニ自カラ願下ケラ爲スルハ假令ヒ其告發セラレタル者既ニ告發者ニ對スル告訴ヲ始メシキト雖モ其刑ヲ除斥ス可シ(刑、第二百五十六條)

第二百五十六條

一號

告訴ノ願下ケハ自願ト同一視スベカラス

被告人カ告訴ノ却下願ヲ爲シタル之レヲ以テ自首シタルモノト云フ可カラス如何トナレハ刑法第三百五十六條ニ規定スル如ク誣告ヲ爲スモ被告人ノ推問ヲ始メサル前誣告者自首シタルトキニ非サレハ刑ノ全免ヲ受クルヲ得ス然ルニ本按被告ハ單ニ誣告告訴ノ却下願ヲ爲シタル迄ニシテ其誣告シタル不實ノ事柄ヲ悔悟首出シタルニ非サレハ自首ヲ以テ論ス可キ者ニ非レハナリ(廣島控訴院ノ言渡ニ對シ谷口龜三十日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百五十七條 正文略之

誣証トノ類似

草第三百九十七條 若シ誣告ヲ蒙リタル者不適當ニ受刑シタルハ誣告者ニ第二百五十四條及ヒ第二百五十五條ヲ適用ス可シ(刑、第三百五十七條)

教唆者ノ

誣告誣毀ノ罪

第三百五十八條 正文略之

第三百九十八條 何人ト雖モ一箇人ヲ害シ又ハ之レニ不敬ヲ加フルノ意ヲ以テ公然之レニ名譽ヲ害スル事實又ハ確定ノ瑕瑾ヲ歸責シタル者ハ誹毀ノ罪ノ犯人ニシテ左ノ如ク處斷ス

第一 公然言語又ハ演説ニ因リ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二 公然配布賣却又ハ標示シタル文書又ハ印刷圖書又ハ符徵若クハ劇場ノ所作ニ因リ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮及ヒ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑)第三百五十八條〇千八百八十一年七月二十九日ノ佛蘭西法律第三十二條)

草第三百九十八條第二 (誹毀ノ罪ノ被告者ハ其誹毀ニ係ル事實ノ真正ヲ證スルニ及ハス但シ其事實タル證券又ハ義務ヲ公ケニ發行シタル商會社又ハ民事會社又ハ民事會社ノ管理人頭取「アジヤン」(會社ノ雇人ニシテ該社ノ事務ニ從事スル者ヲ云フ但シ小使ノ如キハ此限ニ在ラス)又ハ清算者ニ歸責シタルハ格別ニシテ之レカ爲メ公ケノ官吏ニ對スル誹毀事實ノ證據ノ事項ニ關シ第七十條ニ掲ケタルモノニ抵觸スルコトナシ) 被告ハ己レノ罪責ヲ辨明シ得サルハニアラサレハ刑ニ處セラル、トナシ前述佛蘭

誹毀ノ罪
事實ノ證據

文書圖書

言語演說

西法律第三十五條第二項

草第三百九十九條 他人ノ名譽ヲ害スヘキ裁判上ノ辨論又ハ民刑ノ裁判宣告文ヲ印刷手段ヲ以テ真正ニ記載シタルニ外ナキハ第三百九十八條第二項ニ掲ケタル刑ノ適用ヲ爲スノ限リニ非ス但シ刑事ノ處斷アリシハ右ノ公示ハ宣告アリタル刑ヲ止息後ニ發スルコトヲ許サス(刑)零

第三百五十八條第二項
改正新聞條例第十一條第二項

一號

被告人ハ書類ヲ以テ惡事醜行ヲ摘發公布シ人ヲ誹毀シタル者ナルニ付刑法第三百五十八條第二ニ該ルモ改正新聞紙條例第十一條第二項ニ社主印刷人等ニ新聞紙上ノ責メヲ負ハシムルノ明文ナキヲ以テ刑法第二條ニ依リ無罪トシタルハ理由ノ齟齬スル違法ノ裁判ナリトス何トナレハ已ニ誹毀ノ罪アリテ刑法第三百五十八條ニ該當スルモノト認メタル上ハ身分ノ如何ニ拘ハラヌ必ス法律ノ正條ニ照シ相當ノ刑ヲ言渡スヘキモノニシテ新聞紙ノ社主印刷人タルヲ以テ無罪トスヘキ理由カシ新聞紙條例中ニ印刷人等ニ新聞紙上ノ責メヲ負ハシムルノ明文ナシトスルモ決シテ刑法ニ該當スル犯罪ヲ免スルトノ明文アルコトナシ且刑法第二條ハ法律ニ正條ナキ所爲ヲ罰セサルノ原則ナルニ被告人ハ誹毀ノ罪アリ刑法第三百五十八條ニ該當スル

誹毀ノ罪

新聞紙條
例トハ固
トハ固
相違連シ
タル者ニ
ハ其罪ニ
ノ刑法ニ
問合スル
場合ニ新
聞紙條例
ヲ引用シ
テ決ス
無キモノ
ニアラス

廿二日大審院ニ於テ棄却ノ判決

第三百五十八條第二項 治罪法百四十六條

五〇〇

五號

誹謗ノ意
如何ナル
ハ判別スル
ハ事實ヲ
判官ノ權
内ニ屬ス

被告ハ故意ヲ以テ民事原告人ヲ凌辱シタルヲ明白ナルニ裁判官カ誹毀罪ヲ構成セ
スト判定シタルモ被告カ健訟濫訴ナリト陳述セシハ如何ナル意アリシカ其理由ヲ
示サスト云フモ原判文ニ被告カ健訟濫訴ナリト陳述セシハ甲府組合代理人ノ名譽
ヲ害スル惡意ニ出テシ者ト認メサルヲ以テ誹毀罪ヲ構成セストアリテ其理由ヲ明
示シタリ又告訴ヲ爲シタルハ島田勘六佐伯安樹兩名ナルヲ甲府組合代理人カ被害
者ノ如ク判決セシハ不法ナリト云モ島田勘六佐伯安樹ハ甲府組合代理人ノ總代ト
爲リ告訴シ其實事ニ付仍ホ誹毀セラレタル者トシ被告ニ對シ告訴シタル者ナレハ
甲府組合代理人ヲ被害者ト判決シタルハ當然ナリ(甲府輕罪裁判所ノ言渡シニ對シ井上對案
ニ於テ棄却ノ判決)

却ノ判決

第三百五十九條 正文略之

草第四百條 死者ニ對スル誹毀ハ第三百九十八條ニ依リ罰スヘシト雖モ主トシテ
其家族中ノ生存者ヲ害セントノ意思又ハ誣告ノ性質ヲ以テ誹毀シタルハ限ル可
シ(刑、第三百五十九條〇千八百八十一年佛蘭西法律第三十四條)

死者ニ對
スル誹毀
誣告
敬告
不
汚辱

裁判ノ公
示

文書ノ毀
棄

職業上ノ
秘密

害スヘキ事實又ハ確定シタル瑕瑾ノ歸責ヲ包含セサル罵詈不敬汚辱ノ罪ハ十一日
以上一月以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上拾圓以下ノ罰金又ハ其二刑中ノ一ノミニ處
ス(刑第四百二十六條第十二條〇同上佛蘭西法律第二十九條及ヒ第三十三條)

草第四百一條 誣告誹毀又ハ罵詈ニ關スル處斷ノ場合ニ於テハ裁判所ハ被害者ノ
請求ニ因リ其裁判宣告書ヲ一又ハ數多ノ新聞紙ニ公示シ及ヒ其新聞紙數葉ヲ願人
タル被害者ニ交附スルヲ命スルヲ得但シ其費用ハ之レヲ受刑者ニ科ス

其外裁判所ハ誹毀又ハ罵詈ニ係ル文書記憶物又ハ圖画ノ毀棄及ヒ書籍ニ關スル片
ハ未タ賣却セサル卷冊ニ其改正ヲ命スルヲ得可シ(刑、零)

第三百六十條 正文略之

草第四百二條 內科外科ノ醫師藥舖產婆代理人代書人公證人及ヒ宗門ノ教職ニシ
テ其身分職業ノ故ニ關シテ己レニ委託サレタル秘密又ハ其身分職業ノ故ニ關シテ
知り得タル秘密ヲ一名又ハ數名ニ漏告シ以テ之レカ爲メ代價ヲ受テ取リ又ハ人ヲ
害スルノ意ニ出テタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上拾圓以下ノ
罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル人々ハ其職業ノ故ニ關シテ委託サレ又ハ其職業ノ故ニ關シテ知
得シタル事實ニ付キ訟庭ニ於テ證據人トナルヲ拒絕スルヲ得然レモ法庭ニ於テ

誣告誹毀ノ罪

五〇一

事實ヲ漏告スルハ其漏告ヲ罰スヘキニ非ス(刑第三百六十條)佛刑第三百七十

第三百六十一條 正文略之

草第四百三條 第三百九十八條以下ニ豫定シタル輕罪ノ起訴ハ誹毀セラレタル者
又ハ損害ヲ被リタル者ノ告訴又ハ其者死去シタルハ其親族ノ告訴アルニテアサ
レハ發生セス(刑第三百六十一條)千八百八十一年佛蘭西法律第六十條

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 正文略之

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

試親ノ罪

草第四百四條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ其私生ノ子孫ナルト養子
孫ナルトナ分タス弑親罪ト爲シ死刑ニ處ス
其自殺ニ關スル罪ハ第五節ニ記載スル刑ニ照シ一等ヲ加フ(刑第三百六十二條)佛刑
第三百九十九條第三百二條

第三百六十二條

一號

子孫其祖
父母ニ對
スル殺傷
ノ豫謀
有無ニ關
セサルモ
ソトモ

原判文ヲ閱スルニ前略粗朶ヲ貫受ケント思ヒ更ニ反省スルニ貪慾無情ノ祖父些少
ノ粗朶モ尙且惜テ與ヘサルモ知ル可ラス若シ之ヲ與ヘサレハ進テ積日ノ怨恨ヲ述
ヘ猶ホ謝セサレハ寧ロ之ヲ殺スニ如カスト茲ニ殺意ヲ起シ云々源治フ之ヲ謝セサ
ルノ事ナキ却テ被告ノ不當ヲ抗爭シタルヨリ被告ハ其意制スル能ハス豫期ノ如ク
擄ヘタル窓鐵ヲ以テ直ニ源治ノ云々強撃シ云々死ニ致シタルヲ見認メテ記載シテ
ルノ事實ニ依レハ被告人ノ所爲ハ謀殺ニシテ故殺ニアラサルコト明瞭ナルヲ以テ子
孫其祖父ヲ殺害シタル者ナレハ即チ刑法第三百六十二條ニ依リ其謀殺ト故殺ヲ論
セス總テ死刑ニ處スヘキモノナリ然ルヲ原裁判所カ刑法二百九十二條ヲ併テ適用
シタル附帶上告論旨ノ如ク擬律錯誤アル不法ノ裁判ナリトス(宇都宮重華裁判所ノ言渡
明治廿一年十月十六日)大審院ニ於破毀ヲ判決

第三百六十二條

二號

刑法第三百六十二條ヲ案スル子孫其祖父母云々トアル其子孫ト云フハ正當ノ子孫
ヲ指稱シタルモノニシテ配偶者ノ如キハ結婚ニ因リ親族ノ關係ヲ生スルモノニシ
テ右法律上謂フ所ノ子孫ト稱シ得ヘキモノニ非ラス而シテ今原判文ニ認ムル事實
ニ依レハ被告「キシン」ハ被告惚七ノ配偶者ニシテ正統父子ノ關係ニ非ルカ故ニ乃チ

祖父母父母ニ對スル罪

第三百六
十二條ノ
子孫中ニ
ハ配偶者
含有セス

刑法第二百九十二條第四百條ヲ以テ制裁ス可キモノトス然ルニ原判定茲ニ出テス
全第三百六十二條ニ依リ斷了シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ適合スル破毀ノ
原由アルモノトス(福島重罪裁判所ノ言渡ニ對シ高野徳七高野キン上
告事件明治廿一年七月七日大審院ニ於テ破毀判決)

第三百六十三條 正文略之

草第四百五條 子孫其祖父母父母ヲ毆打創傷シ若クハ其健康ヲ害ス可キ藥劑ヲ施
用シ其他監禁脅迫及ヒ之ヲ遺棄シ又ハ其名譽ヲ害スル等ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本
條ニ記載シタル通常ノ刑ニ照シ一等ヲ加フ(刑)第三百六十三條○佛刑、第三百十一
條第三百十七條第六項)

第三百六十四條 正文略之

草第四百六條 子孫故意ヲ以テ其祖父母父母ニ衣食ヲ供給セズ其他必要ナル奉養
ヲ缺ク者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上拾五圓以下ノ罰金ヲ科ス
因テ癱篤疾又ハ疾病ニ致シ若クハ第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ニ記載シタ
ル身体ノ毀傷ヲ爲シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ一等ヲ加フ
犯人ノ意ニ非スト雖モ因テ死ニ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ(刑)第三百六十四條)

第三百六十五條 正文略之

草第四百七條 子孫其祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ第三節ニ記載シタル宥恕

不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス(第三百六十五條○佛刑、第三百二十二條)

第四百八條 酌量スヘキ情狀アリト雖モ本刑ニ一等ノ外減輕スルヲ得ス(刑、零)

第四百九條 祖父母父母ニ對スル重罪輕罪ノ缺効犯ハ本刑ニ一等ヲ減シ其未遂犯
ハ二等ヲ減ス(刑、零)

第二章 財產ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條 正文略之

第二章 財產ニ關スル重罪及ヒ輕罪

第一節 竊盜即チ暴行ヲ用井サル盜罪

草第四百十條 他人ニ屬スル有形ノ動産ヲ自己ノ所有ト爲シ又ハ他人ニ贈餽シ又
ハ所有主若クハ占有者ヨリ剽奪スルノ意ヲ以テ故ラニ之ヲ奪取シタル者ハ盜罪ヲ
以テ論シ左ノ數條ニ記載スル區別ニ從テ處斷ス(刑)第三百六十六條○佛刑、第三百
七十九條)

其人ニ對シ脅迫又ハ暴行ヲ用ヒスシテ犯シタル者ハ「竊盜」ノ罪トス

(左ニ記載スル第四百十四條第四百十五條及ヒ第四百十八條又ハ法律ノ他ノ條則
ニ因リ特定シタル犯罪構造ノ情狀アルモノハ特殊ノ盜罪トス(刑、零))

竊盜ノ罪

其他ノ重
罪輕罪

衣食ヲ供
給セサル
罪

因テ癱篤
疾ニ致シ
タル罪

因テ死ニ
致シタル
罪

特別宥恕
ノ條

酌量減輕
缺効犯及
未遂犯

一般ノ盜
用

竊盜

特殊盜罪

尋常盜罪
加重
尋常盜罪
ノ刑

郵便ニ封
入シタル
爲替ヲ竊
取シ金圓
ト引換ニ
ルモ竊取
罪ト成リ
罪ヲ成キ
ス可キモ
其引換ハ
竊取ノ結
果ニ過キ
ザラズ
欺取財ノ
罪アリト
ス

〔其他ノ場合ニ於テハ單純又ハ普通ノ盜罪トス〕
〔各種ノ盜罪ニ伴フ所ノ加重ノ情狀アルモ爲メニ其性質及ヒ名稱ヲ變スルコトナシ〕
草第四百十二條 單純又ハ普通ノ盜罪ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮
二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第三百六十六條○佛刑第四百一條)

第三百六十六條
第三百九十條

一號

原裁判所カ被告治平ハ郵便物ヲ開封シテ爲替證書ヲ竊取シタルコトヲ認メナカラ
獨リ竊取ノ所爲ノミヲ罰シ其開封シタル所爲ヲ郵便條例第三百三十四條ニ問擬セ
サルハ附帶上告論旨ノ如ク不當ノ裁判ニシテ擬律ノ錯誤ナリトス又其治平カ爲替
證書ヲ以テ郵便局ヨリ金員ヲ受取ラントセシハ竊盜罪ノ結果ニシテ別ニ一罪ヲ構
成ス可キモノニアラス然ルヲ原裁判所カ之レヲ詐欺取財未遂犯ナリトシテ處斷シ
タルハ附帶上告論旨ノ如ク是亦擬律錯誤ノ裁判ナリトス亦被告巧次郎カ其竊取ノ
爲替證書ナルコトヲ知テ郵便局ニ到リ該證書ヲ以テ金員ヲ受取ラントシタル如
ク別ニ一罪ヲ構造スルモノニアラサルヲ原裁判所カ治平ノ共犯者ナリトシテ刑法
第三百九十條等ヲ適用シテ處斷シタルハ附帶上告第三論旨ノ如ク是亦擬律錯誤ノ
裁判ナリトス(富山縣裁判所ノ言渡ニ對シテ都築治平外一人上告事)
裁判明治十九年八月十一日大審院ニ於テ被毀ノ判決

第三百六十六條
第三百九十五條

二號

凡ソ委託ヲ受ケタル物件ト雖モ寄托者ニ於テ鎖鑰ヲ施シ若シクハ密封シテ托シタ
ル物件ノ如キハ若シ受托者ニ於テ其鎖鑰ヲ開キ若クハ損壞スル等非常ノ手段ヲ施
シ其物品ヲ取去リタル場合ハ純然タル竊盜ノ事實ナリトス今原判文ヲ閱スルニ被
告道助ノ所爲ハ其運搬ヲ托サレタル酒樽三穴ヲ穿テ清酒ヲ採取リタル即チ竊盜ノ
事實ニシテ石藏ハ道助カ左ノ手段ヲ以テ竊取シタル清酒ナルコトヲ知テ買取リタル
即チ盜贓故買ノ事實明確ナリトス(神戸縣裁判所ノ言渡ニ對シテ川内道助大江石藏上告)
事件明治廿二年一月十九日大審院ニ於テ棄却ノ判決

第三百六十六條

三號

原判文ニ被告人ハ岡山區小橋町ヲ通行シ居タルニ姓名不詳ノ者米一俵ヲ荷ヒ故ラ
ニ人家ノ軒下暗淡ノ場所ヲ通行スルヲ視テ之レヲ怪シ何者ナルヤト答テタルニ姓
不詳ノ者右米俵ヲ投棄逃走シタルヲ以テ被告人ハ之レヲ舉ケ自家ノ食料ニ供セン
ト持飯ル途上巡查ニ逮捕セラレタル者ナリトアリ其所有者ガ被告ノ誰何ニ逢ヒ投
棄逃ケ去ルヲ目撃シ乃チ自己ノ利益ヲ圖リ之ヲ盜取シタル事實ニシテ該米苞ハ遺
失物ノ性質ニアラサルカ故尋常竊盜ヲ以テ論スヘキハ言フ俟タサルナリ然ルニ其

竊盜ノ罪

怪者ノ抛
棄シタル
米ヲ取テ
リタルモ
ノハ物盜
ニシテ得
遺失物ニ
アラズ

酒ノ運搬
者ハ其樽
ヲ穿テ穴
ヲ穿テ酒
ヲ取リタ
ルモノハ
竊盜ニシ
テ罪アリ
トス

事實ヲ認メナカラ刑法第三百八十五條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリ(岡山輕罪裁判所ノ言渡シニ對シ齋藤林八上告事件明治廿二年二月十四日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百六十六條
第三百七十六條

四號

原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告水谷多津吉鈴木熊次郎ハ云々被告平川元利ト共ニ之ヲ摺替取ランコトヲ謀リ先ツ其方法手段トシテ紙袋ノ中ニ古綿及石ヲ詰メタル者二個ヲ作り該品ト外ニ紙袋及澁紙各三枚ヲ携帶シ全年九月三日重テテ全家ニ至リ生糸買受ノ約定ヲ爲シ手附金トシテ十圓ヲ交付シ該生糸ヲ其附帶セシ紙袋二個ニ入レ而シテ元利ハ德右衛門ト其目方ヲ計算シ熊次郎ハ荷造セント宣言シ澁紙ヲ廣ク専ラ被害者德右衛門ノ目ヲ掩ハシコトヲ謀リ多津吉ハ其隙ヲ窺ヒ綿及ヒ石ヲ結メタル紙袋ト生糸ヲ入タル紙袋ト竊カニ交換シ云々ト申欺キ生糸二袋即チ目方一貫百卅九匁ヲ摺替取リタル者ニシテト明示シ人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取セシ純然タル詐欺取財ノ事實ヲ認メナカラ之ヲ竊盜ノ所爲トシ刑法第三百六十六條以下ノ法條ヲ適用シ處斷シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ナリ而シテ該手附金十圓ハ賣買代價ノ内入金ト爲シタル者ニシテ直接ニ犯罪ノ用ニ供シタル者ト云フヲ得サルモ其古綿石等ヲ入タル紙袋及ヒ澁紙ハ詐欺ノ用ニ供シタル者ニ付之ヲ沒收ス可キニ被告人等ニ還

賣買ノ名
品ヲ持來
其分ヲ取
却シテ返
欺取財ニ
シテハ詐
欺ノ名
ニアラズ

付シタルハ是亦擬律錯誤ノ裁判ナリトス(福井輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ水谷多津吉外二名上告事件明治廿二年十月廿六日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百六十六條
第三百七十三條

五號

原判文ノ事實ヲ檢スルニ會テ官林内諸所ニ於テ斫伐シ其根切ヲ爲シタル場所ニ丈二尺乃至三尺位ニ切斷シアリタル樟ノ胴木ヲ竊取シタルモノトアリテ被告等之所爲ハ官林ニ立入り樹木ト名稱スヘキモノヲ竊取シタルモノニアラスノ天然ノ生体ヲ變シタル木材ヲ竊取シタ事實明白ナレハ本件被告等ノ所爲ハ刑法第三百六十六條第三百七十六條ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヤ論ヲ俟タス(高知輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ世二十一年十一月十九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

胴木ト爲
シタル樟
ハ天然ノ
成形ヲ變
セリ

第三百六十六條 第四百廿條

六號

今原判文ニ依レハ前立川定藏所有ノ荷車一輛ヲ以テ竊取シタル米ヲ安八郡大垣船町迄運搬シ該荷車ハ同所ニ捨置キ云々トアリテ被告ハ犯罪ノ當時該車ヲ竊取スルノ意思ヲ以テ自己ノ所有トナスノ所爲ニ非ス最初ヨリ大垣船町迄盜米ヲ運搬セン爲メ單ニ之ヲ擅用シタルニ過キサレバ上告論旨ノ如ク事實理由不備ニ非ス又ハ竊盜ノ所爲ニモ非サルナリ然リト雖モ刑法第四百廿一條ニ規定スル處ノ

贓物ヲ運
搬スル爲
メ他人ノ
車ヲ擅用
シテ運搬
ノ所爲ハ
無罪ナリ

竊盜ノ罪

毀棄罪ハ他人ニ屬スル器物ヲ棄毀損壞シテ其用ニ適セサラシメテ其罪ヲ組成スルモノニシテ本案事實ノ如キハ單ニ擅用拾置キタルニ止マルモノナレハ毀棄罪ヲ以テ處斷ス可キ限ニ非ラス(岐阜縣裁判所ノ言渡ニ對シ大橋小市上告事件)
(明治廿一年十一月十日大審院ニ於テ無罪ノ判決)

第三百八十五條
第三百八十六條

七號

凡刑法第三百六十六條タル他人ノ所有ニシテ其保管ノ事蹟アル物件ヲ竊取シタル犯罪者ヲ裁制ス可クシテ現ニ遺失ノ物件ヲ拾得シ之ヲ隱匿シタル者ヲ待ツ法章ニ非ラサルナリ故ニ本按被告カ所爲ノ如ク他人ノ保有ニ拘ラサル物件ヲ拾得隱匿シタル場合ハ法理上素ヨリ遺失物ヲ以テ斷決ス可キハ勿論ナリトス爾ルニ原判文ヲ鑑査スルニ前該車中ニ取落シタル中ニ金六十三錢ヲ差入レアリシ腰提一個云々ト掲載シ既ニ遺失物ヲ拾得テ隱匿シタル事實ヲ認視シナカラス唯タ竊取ノニ文字ヲ挿入シ以テ刑法第三百六十六條ヲ適用處斷シタルハ上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第十項ニ該當シ破毀ノ原由アルモノトス(松山縣裁判所ノ言渡ニ對シ祝井音次郎上告事件)
(明治十九年四月廿九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百六十六條

八號

原判文中嚴寒ノ肌ヲ侵スニ耐難ク並河村字荒内ト唱フル田地ト街道ノ境界ナル堤

チ大キタ
ル所爲ハ
テ盜ヲ以
テ論セス

上ニ散亂セシ同村藤井トテ所有ノ藁四把ヲ拾取リ自己携帶セシ提灯ノ火ヲ移シ焚煖リタル際云々トアルヲ以テ原裁判官カ被告久米次郎ノ事實ヲ認メタル一段落トス而シテ文意ニ據レハ其竊取ノ意ナキヲ推知スルニ足ルト雖モ原裁判所ハ尙ホ之ヲ明カニ言ヒ顯ハサンカ爲メ後段ニ其所有主ノ許諾ハ得サレモ自己ヲ利スル爲メ害ヲ他人ニ被ラシムルノ意ナクシテ云々ト記載シタルモノニ前兩段ヲ通解スレハ被告久米次郎ハ寒氣ノ耐難キヨリ煖ヲ取ル爲メ堤上ノ藁ヲ拾取リタル事實ニシテ己ヲ富マスカ爲メ人ヲ害シテ取リタルノ意ニアラズト云フニアルモノナレハ彼是照應シテ毫モ齟齬シタルコトナシ凡刑法ハ或ル場合ヲ除クノ外ハ皆犯法ノ意思ヲ以テ犯罪構成ノ一要件トス而シテ原裁判官カ認ムル所ノ被告久米次郎ノ事實ハ竊取ノ意ナシ即チ犯法ノ意ナシト云フニアルモノナレハ犯罪構成ニ必要ナル條件ヲ闕キタルヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ至當ナリ(京都縣裁判所ノ言渡ニ對シ細久米次郎)
(吉田辰之助上告事件明治十九年九月廿八日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條
第三百七十二條

九號

原裁判言渡書ヲ檢スルニ被告山本喜造ハ南牟婁郡平尾村與峪吉三郎カ宅前ノ二間四方程ノ土窟ニ貯蓄シ置キタル密柑ヲ竊取スル目的ヲ以テ明治二十二年三月二十

竊盜ノ罪

既ニ土窟
ニ貯蓄シ
タル密柑
ハ田野ノ

盗物ニア
ラス

一日午后十時頃夜陰ニ乘シ窃カニ吉三郎カ宅前ノ烟ニ忍ヒ入り彼ノ土窟ニ覆フタ
ル柴木ヲ排除シ居タル際吉三郎ノ覺知スル所トナリ云々トアリ其認ムル所ノ事實
ニ依レハ該密柑ハ已ニ樹枝ヲ離脱シ以テ土窟ニ貯蓄シタルモノナリ而シテ被告ハ
之レヲ窃取セントノ未タ遂ケサルモノナレハ原裁判官カ之レニ對シ刑法第三百六
十六條ノ未遂犯ト爲シタルハ相當ナリ(安渡津輕裁判所ノ言渡ニ對シ山本喜造上告事
件明治廿二年四月九日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條 第三百九十九條

十號

貼用シタル
印紙ヲ
窃取スル
ル印紙ヲ
窃取スル
モ犯罪
トスル
モ犯罪
トスル

已ニ貼用シタル印紙ヲ窃取セシハ窃盜ノ所爲ニ非ス從テ贓物故買ノ罪ヲ組成セス
ト云フニ在ルモ本件印紙ハ官衙ニ保存スル訴訟書類ニ貼付シアルモノナルヲ不正
ノ意思ヲ以テ窃ニ此官物タル印紙ヲ剝取リ之ヲ賣却シテ利益ヲ得タル事實ナレハ
其所爲窃盜罪ヲ組成シタルハ固ヨリ論ヲ俟マス而シテ被告人等ハ其窃取ノ情ヲ知
テ之ヲ買受ケタルモノナレハ其所爲ニ對シ贓物故買ノ刑ヲ適用セシハ相當ナリ
(宮城控訴院ノ言渡ニ對シ岩井清吉馬場龜之助上告事
件明治廿一年十一月八日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條

十一號

原判文ヲ閱スルニ第六被告人純平ハ所勞引中云々戶長榮太郎以下役員一全角力見

罪構成ニ
何等ノ關
係ナシ

物ニ行キタルヲ奇貨トシ該役所ニ於テ金圓ヲ竊取セント欲シ出勤ノ戶長榮太郎ハ
宛テ本日役所ノ當直ヲ爲ス可キ旨ノ書狀ヲ認メ小使安太郎ニ持セ遣シ云々合金白
三拾八圓四十四錢五厘ヲ竊取シ云々トアリテ被告ヨリ當直ヲ爲スヘキ旨ノ書面ヲ
戶長ニ送リタルハ畢竟小使ヲシテ外出セシムルノ手段ニ外ナラサルナリ故ニ原裁
判所カ以上ノ事實ヲ以テ通常ノ窃盜ナリトシ刑法第三百六十六條ヲ適用シタルハ
不法ニ非ス(長野重罪裁判所ノ言渡ニ對シ長崎純平上告事件
明治廿一年五月十六日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條

十二號

郵便封書中ニ在ル爲替手形ヲ窃取スルハ其手形ヲ窃取スルニ止ラスシテ其目的金
圓ニ在レハ其手形ニ記載アル金額ヲ收受シタルハ竊盜ノ結果ニシテ別ニ騙取罪
ヲ構成スヘキ者ニテラス然ルニ二罪ト爲シテ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ
(神戸重罪裁判所ノ言渡ニ對シ酒井彌芳上告事件
明治廿一年九月二十九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百六十六條

十三號

被告ハ其窃取シタル切手ヲ賣拂ヒタルモノナレハ固ヨリ職權ヲ以テ拂下ケタルト
爲スヲ得ス而シテ電信條例中私擅ニ切手ヲ賣買スルノ罰則アルハ通常人ニシテ
官許ヲ受ケス切手ヲ賣捌ク者ヲ制裁スル所以ニシテ電信局官吏カ窃取セシ切手ヲ

竊盜ノ罪

賣拂フ如キハ刑法ノ正條ニ依リ處斷スヘキ犯罪ナルニ因リ全條例ヲ適用スヘカラ
サルハ論ヲ俟タス(京都重罪裁判所ノ言渡シニ對シ富田和元上告事件明
治二十一年三月三十日大審院公廷ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條

十四號

共有者ノ一人其共有物ヲ竊取シタルハ其共有者ノ一人ニテ論ス

凡共有物ナルモノハ各共有者共ニ其全部ニ付同等ノ權利ヲ有スルモノナレハ苟モ其物件ヲ處分スルコトヲ得ス何トナレハ他ノ共有者カ有スル權利ヲ侵害スルヲ以テナリ然ラハ假令共有者ノ一人カ之ヲ竊ムノ意ニテ物件ヲ取リタルモハ竊盜罪ヲ以テ論ス可キ勿論ナリトス(大津輕罪裁判所ノ言渡シニ對シ高橋瀧右衛門上告事
件明治十九年六月廿一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條 第一百十二條

十五號

竊盜未遂ノ適用

公判始末書ヲ參照スルニ竊盜ヲ爲サントテ壁ヲ切落セシモ其壁ノ向フ側ニ戸棚アリテ入ル能ハス竊盜ノ目的ヲ遂ケ得サリシ事實ナルコト原判文ニ因テ見ルニ足ルヲ以テ竊盜未遂ノ法條ヲ適用シタルハ相當ナリトス而シテ上告論旨ノ如ク斯目的外ナル所爲ヲ擲出シテ建造物破壞ノ犯罪ヲ成立タシムルコトハ得サル者ナリ(岐阜輕罪裁判所ノ言渡シニ對シ篠田寅吉上告事件明治廿一年十月廿四日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條 條百十二條

十六號

竊盜ノ目的ヲ以テ他人ノ建造物ヲ毀壞シテ其目的ヲ達スルヲ以テ論ス

原判文ヲ閱スルニ其認定シタル事實ノ理由竊盜ヲ爲スノ目的ニテ香坂伊右衛門方ノ板塀ヲ乘越ヘ邸内ニ忍ヒ入り携行キタル錐鑿ヲ用ヒ居宅ニ接シタル土藏ニ幅一尺三寸堅一尺ノ穴ヲ穿テタルモ裏面ニ鐵板ヲ張りアルヲ以テ器具ヲ損シ其目的ヲ遂クルコト能ハス止ムヲ得ス同所ヲ立去リ云々トアリテ既ニ竊盜ノ行爲ト云フ可キノミナラス其鐵板ニ當リ器具ヲ損シ目的ヲ遂ケザルハ即チ犯人意外ノ障礙ニ因リ遂ケサル者ニテ被告ノ心意ニ因リ其惡行ヲ止メサルニアラサレバ竊盜未遂ヲ以テ論斷スベキハ固ヨリナルヲ以テ原裁判所カ建造物毀壞ヲ以テ論セス竊盜未遂犯ノ法條ヲ適用シ處斷シタルハ適法ナリ(山形輕罪裁判所ノ言渡シニ對シ大久保長五郎上告事
件明治廿一年十一月廿日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條

十七號

誤テ船中ニ置キタル物ヲ持歸リシハ竊盜ナリ

刑法第三百九十五條ノ犯罪ハ其消費セシ物件ハ必ス借用物若クハ委託ヲ受ケタル者ナルコトヲ要ス本件被告人カ費消セシ物品ハ所有主ヨリ委託ヲ受ケタル者ニ非ス其管理スル船中ニ差置キアリタリト云フノミヲ以テ委託物ナリト爲スコトヲ得ズ故ニ之ヲ費消セシモ全條ノ制裁ヲ受クヘキ者ニ非ス又遺失物隱匿ノ所爲ハ所有主ニ於テ之ヲ遺失シタルヲ覺ラス其所在ノ分明ナラサル場合ニシテ他人カ偶然之ヲ拾得

竊盜ノ罪

テ隱匿シタル事實アルヲ要ス本件ノ如キハ所有主ニ於テ瀬戸田村ニ送致スヘキ荷物ヲ誤ツテ被告人ノ船中ニ差置キ而シテ被告人ハ他人ノ所有物ナルヲ知テ之ヲ費用スルノ意思ヲ以テ自宅ニ持歸リ其後所有主ヨリ該物品所在ノ取調ヲ受ケタルモ其實ヲ告ケスシテ擅ニ之ヲ費消シタルモノナレバ即チ故意ヲ以テ他人ノ所有物ヲ竊取シタル犯罪ニシテ遺失物隱匿ノ罪ナリト云フヲ得ス(廣島縣裁判所ノ言渡ニ對シテ明治二十一年十二月十五日大審院ニ於テ破毀ノ判決ヲ受ク服部七藏)

第三百六十六條
第三百七十一條

十八號

原裁判ヲ閱スルニ被告ハ明治十八年三月十一日夜福屋七藏方ニ於テ竊盜ヲ爲サントシ戸ヲ開ク際家内ヨリ聲ヲ掛ケテ其儘其場ヲ逃走セリト認メタル上ハ其竊盜ヲ爲サント欲スル意思已ニ形蹟ニ顯ハレ即チ罪ノ執行ニ着手セシテ豫備ニ止ルモノト云フヲ得ス而シテ其目的ヲ遂ケサリシハ犯人意外ノ障礙ニ因リタル者ナレハ未遂犯ヲ以テ論ス可キヲ敢テ言フ俟タズ然ルニ原裁判右ノ事實ヲ確認シナカラ無罪ヲ言渡シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリ(廣島縣裁判所ノ言渡ニ對シテ年四月廿二日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百六十六條
第四百二條

十九號

原判文第一ニ被告ハ財物ヲ竊取スルノ目的ニテ平野慶四郎方邸内ニアル板倉西側ノ羽目板ヲ方二尺計リ火ヲ用テ燒破リ其所ヨリ板倉ニ入り脇差一本ヲ竊取シ猶ホ財物ヲ搜索スル内前キニ羽目板ヲ燒破リタル時其火氣ノ倉内ノ俵等ニ燃移リ居ルヲ知ラスシテ之ヲ消置カサリシヨリ次第ニ燃出シタルニ驚キ水ヲ灌キテ頻リニ消防シタルモ遂ニ消得ベキ見込ナキニ付慶四郎次宅ノ戸ヲ敲キ家人ノ眠ヲ覺シテ立去リタル處該板倉ハ全燒ニ至レリ但被告カ羽目板ヲ燒破リタルハ倉内ニ入り竊盜ヲ爲ズノ目的ニ出タルモノニシテ板倉ヲ燒燬セントスルノ意思ナキモノナリト雖モ該板倉ノ全燒ニ至リタルハ被告カ羽目板ヲ燒キタル火氣ノ其傍ニアリタル俵等ニ移リタルヲ知ラスノ之ヲ消置カサリシ過失ニヨリタルモノトストアリ其第三ニ被告ハ財物ヲ竊取スルノ目的ニテ榎山彌平方圍ヒナキ邸内ノ板倉ニシテ錠ヲ施シタル戸前ヲ火ヲ用ヒテ燒破リ仍ホ柴刀ヲ以テ堅八寸横一尺三寸計リニ切廣メ倉内ニ入りタルモ適意財物ヲ見出サ、ルヨリ何品ヲ取ラスシテ立去リタリ但戸前ヲ燒破リタルハ倉内ニ忍入ルノ目的ニテ板倉ヲ燒燬スルノ意思ヲ有セス且戸前ノ外他ノ物件ヲ燒損シタルヲナシトアリテ以上ノ事實ニ依レバ被告カ第一第三ノ所爲ハ共ニ竊盜ヲナス目的ニテ板倉ニ忍入ル爲メ火ヲ用ヒテ戸前又ハ羽目板ヲ燬損シ倉

竊盜ノ罪

竊盜ノ目的ニテ火ヲ用テ家内ノ財物ヲ竊取スルノ事ニシテ火災ヲ起シタル事

物品ニ手ヲ觸レサルモ竊盜ノ意思ニ入リタルハ竊盜未遂ナリ

竊盜ノ方
法及現場
所ヲ明示
セザルハ
事實ノ理
由不備ナ
ルヲ免レ
タス

内ニ入りタルモノナレバ倉庫燬損ノ所爲アルモ故意ヲ以テ火ヲ放チタリト云フコトヲ得サルナリ其第一所爲ノ如キハ羽目板ヲ燬損シテ倉内ニ入り竊盜ヲ爲シタルニ其羽目板ヲ燬損スルニ用ヒルル火氣ノ儀等ニ燃移リタルヲ消置カサリシ過失ニ因リ板倉ヲ燒燬スルニ至リタルモノナレバ竊盜及ヒ失火ノ二罪アリトシ第三所爲ハ單ニ戸前ヲ毀損シ倉内ニ入りタルモノナレバ建造物侵入ノ罪アリトシタルハ共ニ其當ヲ得タルモノトス然ルニ檢察官ハ被告カ板倉一部ヲ燒抜クハ即チ惡意ヲ以テ火ヲ放チタル所爲ナリト論告スルモ被告カ火ヲ用ヒテ倉庫ヲ毀損シタルハ猶ホ刀鋸ヲ用ヒテ毀損シタルト同一ノ所爲ニシテ其故意ヲ以テ火ヲ放チタル所爲ニ非ラサルハ原判文ニ掲載シタル事實ニ徴シ其理由明白ナリ(京都官廳裁判所會議局ノ言渡廿一年十月三十一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條

廿號

原裁判言渡書ヲ閱スルニ明治十七年十一月十八日社員柴田成尹へ齋シ歸リタル所ノ當時不用ニ屬シタル振出手形用紙一枚ヲ竊盜云々トシ而已アリテ如何ナル處ヨリ何等ノ方法ニ因リ竊盜シタルヤ其理由ヲ明示セザレハ事實ノ理由不備ナル者トス何トナレハ其竊盜ノ場所及ヒ方法ニ因リ果ノ刑法第三百六十六條ノ犯罪ナル

ヤ又ハ第三百六十八條等ノ犯罪ナルヤ得テ知ル可カラサルヲ以テナリ(國籍重罪裁判所ノ言渡ニ對シテ梅田菊次上告事件明治廿二年二月二十六日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百六十六條

廿一號

被告ハ前ニ電信切手ヲ竊取シ其不足ヲ填補スル爲メ仍ホ明治十九年六月十四日受領シタル切手ヲ竊取シタル者ナレハ竊取ノ所爲ハ數次ナルモ其意思ハ連續スルヲ以テ一個ノ犯罪ト認メタルモノニシテ理由ノ齟齬アルニ非ラス(京都重罪裁判所ノ言渡件明治廿一年三月卅日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十六條

廿二號

原判文第三ノ事實ハ第二ノ事實ヲ受ケ來テ與吉ヲ殺シタル後盜意ヲ發シ與吉ノ所持スル金員ヲ取去リタリト掲ケタルモノニテ其場所ハ殺害ノ場所ニテ其時日ハ殺害ノ同日タルコト前後ノ事實照應シテ明瞭ナレハ理由不備ト見ルヘキ處ナシ已ニ自己ノ所有ニアラサル金員ヲ安リニ取去リタル上ハ假令死者ノ所持セシモノニモセヨ又其死者カ何レヨリ取り來リシモノニモセヨ竊盜ノ事實タルコト確然タレハ之ニ對シ刑法第三百六十六條第三百六十九條第三百七十六條ヲ適用シタルハ相當ノ擬

竊盜ノ罪

共犯者ヨ
リ物取ス
ルモ均シ
ク是レ盜
罪タリ

竊盜ノ連
續犯

律ナリ(横濱重罪裁判所ノ言渡ニ對シ鬼島福太郎上告事件
明治二十一年七月六日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十七條 正文略之

加重ノ情

草第四百十三條 普通盜罪ノ刑ハ左ノ七項ニ列舉スル情狀アルハ各一等ヲ加フ

第一 奴婢雇員又ハ手代日常使役スル職工又ハ徒弟ノ其主人雇主若クハ同居人ノ損害トナルヘキ盜罪ヲ犯シタルハ主人雇主ノ其奴婢雇員手代職工又ハ徒弟ノ損害トナルヘキ盜罪ヲ犯シタルハ旅舎ノ主人貸家人又ハ水陸運送營業人又ハ其奴婢若クハ雇員ノ其借家人旅客又ハ乗客ノ所持スル物品ニ付盜罪ヲ犯シタルハ借家人旅客又ハ乗客ノ旅舎ノ主人運送營業人又ハ其奴婢若クハ雇員ノ損害トナルヘキ盜罪ヲ犯シタルハ(刑、零〇佛刑、第三百八十六條第三項及ヒ第四項)

第二 若シ火災水難地震難船騷擾又ハ其他ノ變災ニ乘シテ盜罪ヲ犯シタルハ(刑、第三百六十七條)

第三 (若シ犯人官廳ノ命令ヲ矯メ又ハ官吏ノ名稱ヲ詐リ其制服又ハ節章ヲ借用シテ物件ヲ奪取シ又ハ自己ニ交付セシメタルハ)(刑、零〇佛刑、第三百八十一條第四項)

第四 (入ノ住居スルト否トヲ問ハス家屋建造物又ハ船舶内ニ於テ門戸棚箱櫃其他類似ノ器具ヲ破壊シ又ハ之ニ偽鑰ヲ施シ又ハ家外ニ於テ振開ケ若クハ破壊

スルカ爲メ該物件ヲ奪去シタルハ)(刑、零〇佛刑、第三百八十四條第三百九十六條)

(若シ犯人偽計ヲ用ヒ踰越若クハ偽鑰ニ依ラサル他ノ手段ヲ以テ人ノ住居セル家屋建造物又ハ船舶若クハ其附屬物内ニ入り盜罪ヲ犯シタルハ次ノ情狀ニ依リ亦各本刑ヲ加重ス可シ(刑、第三百七十條)

第五 夜間盜罪ヲ犯シタルハ(刑、零〇佛刑、第三百五十五條第一項及第三百八十六條第一項)

第六 犯人二人又ハ數人ナリシハ(刑、第三百六十九條〇佛刑、第三百八十五條第三項)

第七 犯人二人以上又ハ一人顯明ナラサル兇器ヲ携帯シタルハ(刑、第三百七十一條〇佛刑、第三百八十五條及ヒ第三百八十六條第二項)

第三百六十八條 正文略之

草第四百十七條 人ノ住居セサル家屋若クハ倉庫小舎船舶又ハ住所外ノ閉鎖セル物置場内ニ於テ踰越或ハ地下ヲ穿テ潛入シ若クハ外圍ヲ損壞シ又ハ偽鑰ヲ用ヒテ盜罪ヲ犯シタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第三百六十八條〇佛刑、第三百八十四條)

損壞ヲ爲シ犯シタル盜罪無住建物

竊盜ノ罪

同上住居
物

加重ノ情
状

身体外ニ
在リテ米

草第四百十八條 人ノ住居スル家屋又ハ其附屬物若クハ人ノ居在スル船舶内ニ前
條ニ指示シタル方法ノ一ヲ以テ潜入シ盜罪ヲ犯シタルハ二年以上五年以下ノ重
禁錮二拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第三百六十八條○佛刑第三百八十一
條第三百八十五條)

草第四百十六條 前二條ニ掲ケタル刑ハ第四百十三條第一項乃至第三項ニ記載シ
タル情狀ニ依リ各一等ヲ加フ其他左ノ場合ニ於テハ又一等ヲ加フ

第四 繞圍生牆溝渠其他前記ノ場處へ漫リニ出入スルヲ防止スルカ爲メ設ケ
タル障礙物ヲ毀壞踰越シタルハ

第五 夜間盜罪ヲ犯シタルハ

第六 犯人二人又ハ數人ナルハ(刑第三百六十五條)

第七 犯人一人又ハ數人顯明ナラサル兇器ヲ携帯シタルハ

第八 犯所ニ於テ取リタル荷車又ハ駄載ノ獸類ヲ以テ贓物ヲ奪去シタルハ(刑
零○佛刑第三百八十六條第三百
零○佛刑第三百八十六條第三百
一號

剽ヲ刺シ
込ミ倉庫
内ノ米ヲ
竊取シタ
ル件

壁ヲ破リ
其孔ヨリ
手ヲ入レ
物品ヲ加
取ルハ加
重ノ情狀
アリ

雪隠掃除
口ヨリ忍
入ルモ踰
越ナリト
スルヲ加
重

竊取シタリトノ事實ヲ認メタル上ハ刑法第三百六十八條ニ據テ處斷ス可キモノナ
ルニ原裁判爰ニ出テス同法第三百六十六條ヲ適用シテ處斷シタルハ上告論旨ノ如
ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス(名古屋地裁判所ノ言渡ニ對シ伊奈虎吉上告事件
明治十九年四月廿九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百六十八條

二號

被告カ所爲ハ他人居宅ノ壁ヲ手ヲ以テ破壞シ其孔ヨリ手ヲ差入レ衣類ヲ竊取シタ
ル者ニシテ牆壁損壞ノ竊盜ヲ以テ論斷スヘキ性質ヲ具備セルコトハ事實ニ徴シテ明
白タリ然ルニ原裁判所ハ此ノ如ク事實ヲ認示シタルニモ拘ラス猶ホ刑法第三百六
十六條ヲ適用シタルハ擬律ヲ錯誤セル違法ノ裁判ナリ(松山輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ宮武
大審院ニ於テ
破毀ノ判決)

第三百六十八條

三號

原判文ニ被告ハ玉虫勝彌太ナル者ト竊盜ヲ爲サント共謀シ云々勝彌太ナルモノカ
同宅雪隠掃除口ヨリ忍入り裏戸ヲ開キタルヨリ被告モ忍入りト記載シアリ其掃除
口ナルモノハ上告論旨ノ如ク人ノ出入スル所ニ非スト雖モ此處ヨリ忍入りタリト
テ門戸牆壁ヲ踰越シタル者ト一般ノ所爲ナリト云フヲ得ス又裏戸ヲ開キトアルノ

竊盜ノ罪

文詞ニ依レハ該裏戸ニ必スシモ鎖鑰ヲ施シアリシモノト見ルヲ得サルモノトス
(東京輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ小久保和三郎上告事件)
明治廿一年十月二十日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十八條

四號

釘ヲ以テ
鎖シタル
戸ハ尙ホ
鎖鑰ト同
視ス可シ

原裁判官カ認メタル事實ニ依ルニ人家裏圍釘ヲ以テ鎖シタル戸ヲ其格子ノ透キヨ
リ手ヲ差入レ之ヲ拔キ取リテ開キ忍入云々トアリテ其戸締充分堅固ナラストスル
モ他人ノ侵入ヲ防禦スルノ場所ナルヲ明ナリ且ツ其釘ヲ以テ戸ヲ鎖シタルカ如キ
ハ畢竟鎖鑰ヲ施シアルト同視スベキ者ナレハ之ヲ開キ人ノ邸宅ニ入り竊盜ヲ爲シ
タル所爲ニ對シ原裁判官カ刑法第三百六十八條ヲ適用セシハ相當ノ裁判ナリ(松山
裁判所ノ言渡ニ對シ渡邊伊五郎上告事件明治
十九年十二月十五日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十八條

五號

鎖鑰ニ代
用シタル
物ハ第三
百六十八
條ヲ以テ

刑法第三百六十八條ノ犯罪ハ門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若シクハ鎖鑰ヲ開キタルモノ
ニ限ラス既ニ「シンハリ」棒ニモセヨ他ヨリ容易ニ開拔ノ出來ザル締リヲ爲シ現ニ
鎖鑰ニ代用セシ者ヲ開キ忍入竊取シタルモノヲ罰スベキ者ナリトス(宮崎輕罪裁判所
元松次郎上告事件明治十九年
六月一日大審院ニ於テノ判決)

第三百六十八條

六號

椽下ヨリ
潜リ入り
タルハ踰
越ナリ

被告カ椽下ヨリ潜リ宅内ニ忍入竊盜ヲ爲シタル所爲ハ刑法第三百六十八條ノ踰越
タルヲ勿論ナリトス(松口輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ岡山常太郎上告事件)
明治十九年四月廿九日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十八條

七號

壁ノ破レ
タル所ヨ
リ侵入リ
タルハ踰
越ナリ

外圍ノ壁ハ人ノ侵入ヲ防クヘキモノナレハ其壁ニ假令破レアリトスルモ其破レヨ
リ忍入リタルハ所謂外圍ノ壁ヲ踰越シタル所爲ナルヲ勿論ナリトス故ニ原裁判所
カ其事實ヲ認メ刑法第三百六十八條ヲ適用シタルハ相當ナリ又後段論旨アルモ堀
ニ攀チ登リ手ヲ伸ハシ其内ニ干シ在ル物ヲ竊取シタル所爲ヲ以テ踰越シタルモノ
ト云フヲ得サレハ原裁判所カ其事實ニ對シ刑法第三百六十六條ヲ適用處斷シタ
ルハ相當ニシテ決シテ擬律錯誤ニ非サルナリ(松山輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ田中芳吉上告事件)
明治廿二年十二月七日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百六十九條

草案第四百十六條第六項同第四百十九條ヲ比照スベ

草第四百十九條 前二條ニ定メタル刑ハ第四百十六條ノ情狀ニ依リ各一等ヲ加フ
(比較刑第三百六十九條及ヒ第三百七十條〇佛刑同上)

竊盜ノ罪

看守者ノ
房室

草第四百二十條 (住居ニ供シタル家屋又ハ船舶ハ盜罪ヲ犯スノ際人ノ住居セサルキト雖モ住居シタルモノト看做ス可シ)
若シ住居ニ供セサル場處ニ晝間又ハ夜間看守者アルキハ人ノ住居スル家屋ニ關スル條則チ以テ看守者ノ房室内ニ常住ノ時間犯シタル盜罪ニ適用スルモノトス(刑、零)

第三百七十條 草案第四百十八條同第四百十九條ヲ比照スヘシ

(但シ草案第四百十八條ハ現行刑法第三百六十八條ニ草案第四百十九條ハ現行刑法第三百六十九條ニ比照シアリ)

第三百七十條

一號

用方上ノ
兇器ハ之
ヲ使用シ
タル上ニ
アラサル
ハ兇器ト
爲スヲ得
ス

抑モ刑法第三百七十條ニ謂ハユル兇器トハ性質ニ因ルノ兇器ニシテ用方ニ因ルノ兇器ハ含蓄セサルナリ蓋シ性質上ノ兇器ハ素ト人ヲ殺傷スルノ用ニ供スル目的ヲ以テ製作スルモノニシテ法律ノ豫メ危險ノ恐レアルモノト推測セル所ナリ故ニ性質上ノ兇器ハ携帯シタルノミチヲ以テ持兇器竊盜ナリトスルヲ得ヘシト雖モ之レニ反シ用方上ノ兇器ハ性質上ノ兇器外或ル器具ノ使用セラレタルニ因テ始メテ兇器ノ名稱ヲ付セラル、モノニシテ若シ使用セラレサレハ是レ尋常ノ器具ノミ法律ノ

豫メ危險ノ恐レアルモノト推測セサル所ナリ且使用トハ暴行脅迫殺傷等ノ用ニ供スルノ謂ヒニシテ其他ノ用ニ供スルノ謂ヒニアラス故ニ用法上ノ兇器ハ單ニ携帯シタルノミチヲ以テ直ニ持兇器竊盜ナリトスルヲ得可ラサルナリ而ルニ會議局カ用方上ノ兇器ナル出刃庖丁ヲ以テ刃目板ヲ破リ竊盜ヲナシタル事實ヲ認めメナカラ刑法第三百七十五條ヲ適用スヘキ犯罪トシ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル豫審終結ヲ認可シタル越權ノ處分ナリ (東京輕罪裁判所會議局ノ言渡ニ對シ坂谷源次郎上告事件明治廿二年五月廿二日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十條

二號

被告等カ携帯シタルボート錐及ヒ出刃庖丁ハ即チ用法ニ因ルノ兇器ニシテ性質上ノ兇器ニアラス用法ニ因ルノ兇器ハ管ニ之ヲ携帯シタルノミチヲ以テ持兇器ト謂フヲ得サルナリ今本件ノ事實ハ其之ヲ携帯シタルハ唯彼ノ土藏ヲ破壞シ長持簞筒ヲ毀損スルノ用ニ供シタルニ過キサルハ原判文ニ因テ之ヲ觀ルニ足ル然レハ則チ被告等カ所爲ハ牆壁ヲ踰越損壞シ倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル罪ヲ成立スヘク持兇器竊盜ノ罪ハ組成セサルナリ (水戸重罪裁判所ノ言渡ニ對シ阿部傳次郎上告事件明治二十一年十一月二十七日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十條

三號

用法ニ由
ル兇器ハ
携帯シタ
ル而巳ニ
テ持兇器
ト云フヲ
得ス

竊盜ノ罪

持兇器竊盜ノ性質上ノ兇器ヲ指稱シタルモノニシテ棍棒菜刀ヲ携ヘタルノミニテ其未タ使用セサル場合ニ於テハ性質上ノ兇器ト同一ニ看做ヲ得ス今原會議局ノ判決書ヲ見ルニ被告松五郎留藏カ竊盜ヲ爲スノ際携ヘタル器具ノ菜刀及ヒ出刃庖丁ニシテ所謂ノ所用上ノ兇器ナル事實ヲ認メナカラ持兇器竊盜犯トシ管轄ニ非サル重罪裁判所ニ移スノ豫審終結言渡ヲ認可シタルハ治罪法第四百十條第三項ニ該ル不法ノ判決ナリトス(東京輕罪裁判所會議局ノ言渡ニ對シ小出松五郎栗大審院ニ於テ)

刑法第三百七十條ニ所謂兇器トハ性質上ノ兇器ヲ指稱シタルモノニシテ棍棒菜刀若シクハ出刃庖丁ノ如キ用法上ニ因ルノ兇器ハ素ヨリ本質ノ用法アルヲ以テ唯之ヲ携ヘタルノミニテ其未タ使用セサル場合ニ於テハ性質上ノ兇器ト同一ニ看做ヲ得ス今原會議局ノ判決書ヲ見ルニ被告松五郎留藏カ竊盜ヲ爲スノ際携ヘタル器具ノ菜刀及ヒ出刃庖丁ニシテ所謂ノ所用上ノ兇器ナル事實ヲ認メナカラ持兇器竊盜犯トシ管轄ニ非サル重罪裁判所ニ移スノ豫審終結言渡ヲ認可シタルハ治罪法第四百十條第三項ニ該ル不法ノ判決ナリトス(東京輕罪裁判所會議局ノ言渡ニ對シ小出松五郎栗大審院ニ於テ)

第三百七十條

四號

用法上ノ兇器ハ携帶シタルノミチテ持兇器トシテ論ズルヲ得

原裁判所ハ其判文ニ被告外二名ハ出刃庖丁鋸鑿鏈等ヲ以テ大坂村相澤嘉吉方土藏ノ鎖鑰ヲ開キ庫内ニ忍入り云々又大坂村相澤清六方ニ至リ被告外二名ハ鑿鋸出刃庖丁ヲ以テ屋根木ヲ切斷シ云々トアリテ出刃庖丁其他ノ器具ハ單ニ倉庫ノ鎖鑰又ハ屋根ヲ開破シタルノ事實明瞭ナリ然レハ庖丁ノ如キ用法上兇器ト名クヘキ物ハ之ヲ携帶シタルノミチテ持兇器ト爲シ論ス可ラス然ルニ刑法第三百七十條ニ問ヒタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス(靜岡重罪裁判所ノ言渡ニ對シ下島三右衛門上告等件明治廿一年九月廿九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十條

五號

共犯者中ノ一人ハ兇器ヲ携帶セシモ其他ノ者ハ加テテモ情アリトス

凡持兇器竊盜共犯者各自ニ兇器ヲ携帶セサルモ其中一人之ヲ携帶スル者アリタルトキハ其所業ハ則チ各人一体ノ所業ナレハ共ニ刑法第三百七十條ノ制裁ヲ免ルヲ得サルナリ本案被告カ共犯者ノ一人ナル大川彌市カ脇差ノ裸身ヲ携帶シタルコトハ被告カ明言セル如ク豫審終結書ニ記載セルノミナラス其他一件書類ニ依ルモ顯著ナレハ假令被告ハ此ノ如キ兇器ヲ携帶セサルモ決テ持兇器竊盜ニ非スト云フヲ得ス故ニ原裁判所カ本件被告人等カ所爲ニ對シ刑法第三百七十條ヲ適用シ處斷シタルハ寔ニ相當ナリ(宮崎重罪裁判所ノ言渡ニ對シ田尻十兵衛上告事件明治廿一年九月廿一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百七十條

六號

用法上ノ兇器ハ之ヲ使用セシメテハ強盜ニ變ス

刑法第三百七十條ニ所謂兇器ハ性質上ノ兇器ニシテ用法上ノ兇器ニアラス而シテ用法上ノ兇器ハ使用シタルニ因テ始メテ兇器タリ若シ未タ使用セサルハ兇器視スルヲ得ス且使用トハ暴行脅迫ノ用ニ供スルノ謂ヒニシテ鎖鑰牆壁毀壞ノ用ニ供スルノ謂ニアラサルナリ故ニ之レヲ使用スル平即チ強盜ニシテ竊盜ニアラサルナリ今原裁判所ハ其使用セサリシ事實ヲ判示シナカラ刑法第三百七十條ヲ適用シタル

竊盜ノ罪

ハ非常上告論旨ノ如ク相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル違法ノ裁判ナリトス(重罪
裁判所ノ言渡ニ對シ小野田縣藏上告事件明治
廿二年五月廿二日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十條

七號

共犯者中
ノ一人ハ兇
器ヲ携帶シ
タルハ其
ハ其他ノ
者モ全罪
ナリ

短刀ハ被告芳太郎カ所持シタルモノナルヤ否被告ノ知ラサル所ナルニ芳太郎ト
同様ノ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云フモ原判文ヲ見ルニ「第四尙又兩人通牒
シ明治二十年十二月二十日午前三時頃芳太郎ハ前顯彌三郎方ニテ窃取セル短刀ヲ
携ヘ」トアリ被告ノ自ラ携帶シタルニ非サルモ共犯タル芳太郎ニ於テ携帶シタル
上ハ即チ分身一体ノ所爲ニ芳太郎ト共ニ持兇器竊盜ノ刑ヲ免ルヘキモノニ非ラ
ス(長野重罪裁判所ノ言渡ニ對シ喜多太女郎上告事件
明治廿一年十月五日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百七十條

八號

切破リタ
ル上ハ竊
盜ノ着手
ナリ

被告ノ所爲ハ刑法第七十二條ニ該ル罪ナリト云フモ原判文ヲ檢スルニ被告ハ佐
藤米吉遠藤長三郎木村庄兵衛佐藤與太郎前田孝道ト共謀シテ竊盜ヲ爲サントノ目
的ヲ以テ脇差又ハ短刀ヲ携ヘ云々五十嵐七兵衛方ニ至リ邸内土藏ノ「ツケ」ト稱ス
ル處ヲ切破リタル音ニ七兵衛カ立出發聲シタルヨリ其目的ヲ遂ケス一同逃走シタ

リト明ニ兇器ヲ携帶ノ竊盜ヲ爲サントノ其目的ヲ遂ケサリシ事實證據ヲ明示ノ相
當ノ法律ヲ適用シタルハ相當ノ裁判ナリ(仙台重罪裁判所ノ言渡ニ對シ飯野吉次上告事件
明治廿一年六月廿三日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百七十條

九號

竹片ハ兇
器ニアラ

法律上兇器ニ二種アリ一ヲ性質上ノ兇器ト云ヒ一ヲ用方上ノ兇器ト云フニ外ナラ
ス而シテ原判文ヲ閱スルニ前竊盜ヲ爲サントセシニ重兵衛夫婦ノ起出ツル体ヨリ
意ヲ強盜ニ決シ直チニ右夫婦ノ寢室ニ踏ミ込ミ蚊帳ノ釣手ヲ斷テ携ヘ行キタル被
告所有ノ切先ノ尖リタル竹片ヲ示シ云々アルモ竹片ハ素ヨリ性質ニ由テノ兇器ト
云フヲ得ス然則用方ニ因テノ兇器ト爲サンカ必ス其理由ヲ明示セサルヘカラス其
理由ヲ明示セスノ直チニ兇器ト認メ加等シタルハ治罪法第四百十條第九項ニ該當
スル事實理由不備ノ裁判タルヲ免レサル者トス(大津重罪裁判所ノ言渡ニ對シ小津十郎
院公延ニ於テ
破毀ノ判決)

第三百七十條

十號

持兇器
盜ハ必ラ
ス性質上
ノ兇器ナ

刑法第三百七十條ニ所謂兇器トハ性質上ノ兇器即チ銃劍鎗等當然人ヲ負傷スルヲ
以テ本分ト爲スモノニシテ用方上ノ兇器ハ之ニ包含セサルモノトス今原判文ヲ閱

竊盜ノ罪

ルヲ要ス
若シ用法
上ノ兇器
ナリトモ
ハ其使用
スルヤ直
ニ強盗ニ
變ス可ラ
ス

スルニ第一明治二十一年五月三十一日午前一時頃云々小笠利貞方物干場ニ登リ二階窓ノ戸ヲ押明ケ出及庖丁ヲ携ヘ宅内へ忍入り同家寄留人櫻田慶次郎ノ所有ニ係ル蟻口入外數點ヲ竊取シ云々トアリテ出及庖丁ノ如キハ用方上ノ兇器ナルヲ以テ之ヲ携ヘ宅内ニ忍ヒ入りタルノミニテハ本條ノ兇器ト稱スルヲ得サルモノナリ然ルニ原會議局ハ其判文中出及庖丁ヲ使用セサル事實ヲ認メナカラ持兇器竊盜ヲ以テ論シタルハ失當ナルノミナラス單ニ二階窓ノ戸ヲ押明ケ云々ト而已掲載シ其二階窓ニハ戸締リナキヤ否ナヤヲ明示セサルニ付尋常竊盜ナルカ將タ踰越損壞ノ竊盜ナルカヲ知ルニ由ナシ(東京輕罪裁判所會議局ノ言渡ニ對シ申付藤次郎上告事件) 明治廿一年十一月廿八日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百七十一條 正文略之

占有ノ盜
取
共同所有
主ノ盜罪

草第四百十一條 自己ニ屬スル物件ト雖モ他人ノ物上權ニ依リ正當ニ占有スルモノ又ハ裁判所ノ命令ニ因リ差押ヘテ他人ノ保管ニ委付シタルモノヲ惡意ヲ以テ奪取シタル者ハ盜罪ノ犯人トシテ處斷ス(刑第三百七十一條○佛刑第四百條第五項)〔共同所有主共同相續人又ハ社員惡意ヲ以テ共同ノ所有物相續物又ハ會社ノ所有物ヲ奪取シタル者ハ其關係人ノ承諾ナクシテ之ヲ使用シタル時ニ非サレハ盜罪ヲ以テ論セス〕

第三百七十一條

抵當名義
ニテ他人
ニ交付シ
タル動産
ヲ竊取ス
ルモ罪ト
ナラス

一號
刑法第三百七十一條前半ノ罪ヲ組成センニハ自己ノ所有物ナルト之ヲ典物ニ爲シタルト之ヲ竊取シタルトノ三件ヲ必要トス而シテ原判文ヲ查閱スルニ金子入用ノ爲メ自己カ所有品即チ淨留理三味線衣類等八點ヲ抵當トシ云々金十八圓廿四錢ヲ借用シト明認シアリ然ルヲ以テ假令該品ヲ他人ニ渡シ置キ之ヲ竊ニ取出スモ刑法第三百七十一條ノ罪ヲ組成セサルモノトス何トナレバ抵當タルモノハ典物ト異ニシテ其品ヲ債主ニ引渡タスヲ必用トセサルモノナレバ之ヲ取出スモ決シテ其抵當ノ權ヲ害ス可キモノニアラス故ニ犯罪組成ノ要件タル一ヲ欠ケバナリ然ルヲ原裁判所カ其抵當タルヲ認メナカラ之ヲ刑法第三百七十一條ニ問擬シタルハ非常上告論旨ノ如ク法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル者ニシテ破毀ノ原由アルモノトス(神戸輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ阿蘇タカ上告事件) 明治十九年十二月廿八日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百七十一條

二號

原裁判言渡書ヲ閱ルルニ前小作米十四俵ハ公租諸稅ヲ拂ヒ殘額ハ貸金ノ方へ受取ル可キ約アルヲ以テ之カ引渡ヲ請求シ云々該米ハ悉皆八百吉へ引渡シ度ク思フ折柄ナルヲ以テ忽チ八百吉ノ言ニ從ヒ共謀シテ之カ受渡ヲ爲シ而シテ其濟口書ヲ飯

竊盜ノ罪

濟口書ヲ
差出タル
ニ止ルモ
ノハ物件
脱漏ノ罪
ナシ

田治安裁判所へ差出シタル者ニシテ即チ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ脱漏シタルモノナリトアル明文ニ因テ十四條ノ小作米ハ初メヨリ八百吉ノ手ニ存在シ其引渡ヲ認求セリ然レハ則チ被告兩名カ所爲ハ其濟口書ヲ飯田治安裁判所ニ差出シタリト云フニ止リ未タ物件脱漏ノ罪ヲ組成セサルコト判然タリ(飯田治安長野縣裁判所ノ言旨等上告事件明治二十二年三月一日大審院ニ於テ無罪ノ判決)

第三百七十一條 草案第四百十四條第一項ノミ比照

草第四百十四條 已ムラ得ス公衆ノ信用ニ委テタル物件ヲ盜取シタル犯人ハ三月以上三年以下三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ左ノ犯罪ニ適用スルヲ得ヘシ

- 第一 繞圍ナキ田畠地面庭園又ハ牧場ニ於テ土地ヨリ離レタルト否トヲ問ハヌ菓實又ハ有益ナル土地ノ生産物肥料糞草杖竹竿泥土砂石其他土地ヨリ離レタル諸物馬車荷車其他農業器械ノ盜罪(刑)第三百七十二條〇佛刑(第三百八十八條)
- 第二 前同一ノ場所又ハ都鄙ノ別ナク道路ニ於テ變災又ハ抗拒スヘカラサル威力ニ遭遇シ一時拋棄シタル物件建築修繕又ハ繞圍ノ爲メ準備シ又ハ現ニ使用中ナル木材前同一ノ事由若クハ用法ノ爲メ同一ノ場所ニ置キタル器械若クハ馬車ノ盜罪(刑)〇

公衆ノ信
義ニ放
任シタル
物件ノ盜
罪

例外

- 第三 同一ノ場處内又ハ繞圍ナキ森林内ニ於テ伐採シタルト否トヲ問ハズ樹木灌木竹木材木皮蘆朶薪炭并ニ該物件營業器械ノ盜罪(刑)第三百七十三條
 - 第四 繞圍ナキ鑛山開鑛場石伐場泥土坑泥炭坑石油井ニ於テ石炭金屬鑛物砂石石灰肥土泥炭若クハ石腦油并ニ其開採ニ供スル器械若クハ馬車ノ盜罪
 - 第五 河川湖水池塘其他繞圍ナキ場處ニ於テ養魚場又ハ貯水場ノ魚類蜂蜜及ヒ蜂巢蜜蜂兒ノ盜罪(刑)第三百七十二條〇佛刑(第三百八十八條)
- (以上其竊取ヲ違警罪トシ處斷スル場合ヲ除キ其剝奪ニ依リ民事上所有主ニ評價スルヲ得可キ損害及ホスキニ限ル)

第三百七十二條

一號

被告ノ所爲ハ樅木ニ掛ケ干シアル大根ヲ竊取シタル事實ニシテ其大根タル唯畑ヨリ拔取干シ置キタル迄ニシテ未タ天然ノ成形ヲ變シタルニ非ス又被告ノ家ニ收メ若クハ他所ニ運搬シタルニモラス該畑ニアルヲ竊取シタル者ナレハ單ニ畑ヨリ拔キ取リ在ルノ故ヲ以テ刑法第三百六十六條ノ犯罪トスヘカラサレハ原裁判所カ刑法第三百七十二條ニ問擬シタルハ不法ニ非ス(山口縣裁判所ノ言渡ニ對シ吉村官職上告事件) 明治十九年三月廿五日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百七十一條

竊盜ノ罪

拔キ取リ
タル儘其
田畑ニ干
シアル物
ヲ竊取シ
タル者ハ
第三百六
十六條ヲ
以テ論ス
可ラス

刑取シタル
野ニアル
間ハ未ダ
天然ノ成
形ヲ失ハ
ス

二號

被告カ竊取シタル物件ハ田野ノ稻杭ニ掛ケアル稻ニ係ルモノニシテ其稻ハ未ダ田野ヲ離レス又人工ヲ加ヘ其性質名稱ヲ一變シタルニモアラサレハ原裁判所カ之ヲ刑法第三百七十二條ニ問擬シタルハ決シテ擬律ノ錯誤ニアラス(秋田縣裁判所ノ言渡件明治十九年六月五日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百七十二條

三號

刑取シタル
田野ニ積
ミ置キタ
ル穀類
竊取シタル
者ハ三百
六十六條
ヲ以テ論
スルヲ得

四號

刑法第三百七十二條田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者トアルハ當其田野ニ生殘リタル穀類菜菓ニ止マラス假令ヒ之ヲ刈取リ干燥中ニ係ルモ未ダ生來

第三百七十二條

搬シタル
野ハ三百
七十二條
ノ範圍
ヲ脱ス

ノ形体ヲ變更セサレハ復タ以テ該法條中ニ含有セリ然レモ其刈取リタル穀類ノ田野ニ在ラス既ニ他ノ海邊等ニ搬運シタル場合ハ刑法第三百七十二條ノ田野ノ邊域ヲ脱シタルモノニテ刑法第三百六十六條ノ制裁ニ屬ス可キ勿論ナリトス(和歌山縣ノ言渡ニ對シ塚本シマ上告事件明治十九年六月五日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十二條

草案第四百十四條第三項第四項第五項ヲ比照スヘシ(但現行刑法第三百七十二條ニ比照シアリ)

第三百七十三條

一號

原裁判所ハ其判文ニ被告ハ網島伊兵衛宅地裏ノ川中ニ鰻ヲ籠ニ入レ飼置タルヲ知リ被告新次郎ヲシテ該鰻ヲ竊取セシメント教唆シ新次郎ハ其教唆ニ應ジ云々ト事實ヲ認メナカラ律ヲ擬スルニ當リ刑法第三百七十三條ヲ適用シタリ抑同條ハ其明文ノ如ク川澤池沼湖海ニ於テ人ノ放棄シ置ク魚類ヲ竊取シタルノ所爲ヲ罰スルノ法條ニシテ本件ノ如ク既ニ漁得セシモノヲ籠ニ入レ飼置タルヲ竊取スル如キ場ヲ指スモノニ非ラサルナリ(東京縣裁判所ノ言渡ニ對シ川本新次郎松本鶴吉上告事件明治廿一年九月十一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十三條

二號

竊盜ノ罪

籠ニ入レ
飼置タル
魚類ヲ竊
取シタル
者ハ三百
七十三條
ヲ以テ論
スルヲ得

刑法第三百七十三條ノ其他ノ產物トハ土地ヨリ生シタルモノヲ云フモノニシテ炭ノ如キ人工ヲ加ヘタルモノハ刑法第三百六十六條ニ問擬スヘキモノトス(竹田治安言渡ニ對シ河野牧太郎上告事件明治十九年三月廿九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十三條

三號

刑法第三百七十三條ハ天產物即チ山林ニ現ニ生存スル竹木等ヲ指シタルモノニシテ既テニ之レニ人工ヲ加ヘ一ノ材木即本件ノ如キ丈餘ノ材木ト爲シタル上ハ該條ノ制裁外ニシテ其第三百六十六條ニ依ル可キ者トス(大坂輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ山内丑松ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十四條 正文略之

草第四百十五條 田野牧場其他前條ニ指示シタル通常繞圍セサル場所ニ於テ牛馬羊ヲ盜取シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑、第三百七十四條○佛刑、第三百八十八條)

第三百七十五條

草第四百二十一條 前數條ニ記載セル盜罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス(刑、第三百七十五條)

未遂犯

馬及ヒ獸類ノ盜罪

監視

條○佛刑、第三百八十八條第四百一條) 草第四百二十二條 前數條ニ依リ禁錮ニ處セラレタル者ハ尙ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付スルヲ得(刑、第三百七十六條○佛刑、同上)

第三百七十七條 正文略之

親屬又ハ姻屬ノ爲メ免刑

草第四百二十三條 本款ニ規定シタル盜罪ハ配偶者直系ノ嫡生私生又ハ養子ナル親屬同系ノ姻屬親ニ係ル者ハ本刑ヲ免ス

叔伯父甥姪ニ係ル傍系親ノ盜罪ニ付テモ其同居スル者ハ亦同シ

本條不論罪ノ寬典ハ前數者ノ共犯人又ハ從犯人ニシテ同一ノ身分ヲ有セス且ツ本犯ノ利益ノ爲メニセスシテ盜罪ニ加功シタル者ハ之ニ及ホスヲ得ス(刑、零○佛刑、第三百八十條)

第三百七十七條

一號

原會議局ニ於テ被告「ヨシ」ト民事原告人ハ夫婦ノ關係ナキニ之ヲ夫婦ト稱シ婚姻中ニ該ルヲ以テ竊盜ヲ以テ論スル限ニアラスト言渡シタル豫審終結言渡ヲ認可シタルハ事實理由ニ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フモ原會議局ハ被告「ヨシ」カ原告ト同居ヲ爲スニ當リ隣家鈴木「キヨ」カ被告ヲ連レ手拭ヲ以テ近所ヲ廻リタルハ原

竊盜ノ罪

夫婦ノ關係ハ送籍ノ有無ニ拘ラス

告モ亦自認シ其他參考人藤村藤吉及ヒ被告ノ陳供中送籍迄奉公人名義ニ致シ置キ
 タリト云ヒ殊ニ原告モ亦其意ニ適スレハ妻ニ爲ス存意ナリト供述シタル事實ヲ照
 徴シ豫審判事カ表面雇女ナリトノ名稱ニ拘ハラヌ夫婦ノ實アル者トシ被告ヲ免訴
 シタル相當ノ處分ニシテ之ヲ越權ナリト云フヲ得スト判決シタルモノニシテ毫モ
 事實理由ノ錯誤アルニ非ラス(前區輕罪裁判所會議局ノ言渡ニ對シ三侯ヨシ上告事
 件明治廿一年十月三十一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百七十七條 第二百九十九條

親族ノ教
 戒ヲ厭シ
 シ他者ト
 雖モ第三
 百七十七
 條ノ範圍
 ニ屬ス

原判文ヲ閱スルニ戸籍上ハ各別ナルモ其實全居タリシカ云々實兄其他親屬擧テ之
 チ教戒セシニ被告ハ仍ホ其意ニ服セス云々該家ヲ出テ諸所彷徨中トアリテ被告カ
 實兄渡邊源五郎ノ家ヲ出テタル所爲ハ全居ノ念ヲ斷チ全居ノ實ナキモノト認メタ
 ルモノニ非スシテ實兄其他親屬ノ教戒ヲ厭ヒ之ヲ避ケン爲メノ事實ニ外ナラサル
 ハ之ヲ以テ理由ノ齟齬ト做スヲ得サルハ勿論隨テ原裁判所カ刑法第三百七十七條
 ヲ適施シ斷了シタルハ相當ノ裁判ニシテ擬律ノ錯誤ニ非ルナリ其第三論旨ニ付之
 ヲ案スルニ已ニ被告竹五郎ノ所爲ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限リニ在ラストスル以上
 ハ被告清助カ故買及ヒ寄藏シタル物品ニ於ケルモ法律上謂フ所ノ竊盜ノ贓物ト認
 規スルヲ得サルモノナレハ原裁判所カ其事實ヲ認メ法律ノ制裁ヲ受クヘキモノニ

アラスト判定シ治罪法第二百五十八條ニ照シ無罪ヲ言渡シタルハ適法ノ裁判ナリ
(山形輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ渡邊竹五郎齊藤清助上告
 事件明治廿一年十一月廿九日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百七十七條

三號

廢嫡ノ上
 從弟ヲ以
 テ家督ヲ
 相承セシ
 ムルモ致
 テ養父子
 ノ關係生
 セス

リント被告人トノ身分ニ就テハ原判文ニ被告ハ元來宅和家戸主ニメ明治二十二年
 一月十七日付ヲ以テ家長宅和ヨチ親戚惣代和田藤市松尾万三連署ヲ以テ戸主ナル
 被告ヲ廢シ被告ノ從弟女宅和リノ戸主トナサンコト願ヒ出テ翌十八日聞届トナ
 リタル後云々トアリテリノハ被告人ノ家名相續ヲ爲シタル者ニテ養父子ノ關係ア
 ラサルコト明瞭ナレハ親族相盜ヲ以テ論スヘキ限キリニアラストス(松江輕罪裁判所ノ
 本即上告事件明治廿二年五月三
 十一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百七十七條

四號

原判文ヲ檢スルニ被告ハ本籍地ヲ立去テ東京市京橋區具足町三番地松本松五郎方
 ニ寄寓シ居リタル所云々本籍地ニ立飯リ兄林藏居宅裏口ノ戸ヲ麻繩ニテ締リアル
 ヲ及物ニテ切斷シ内ニ忍ヒ入り金二十二圓余ト書付二通ヲ竊取シタリトアリテ刑
 法第三百六十八條等ヲ適用處斷シタルモ被告人ハ松本林藏全居ノ弟ニメ一時東京

竊盜ノ罪

他へ一時
 寄寓セシ
 ハ全居チ
 絶チタル
 スモノト
 可ラス

ニ寄寓中其家ニ歸リ林藏ノ財物ヲ竊取シタルモノナラハ仍ホ親族相盜ノ例ニ從ヒ
刑法第三百七十七條ヲ適用スヘキモノナリ若シ被告人ヲ同居ノ兄弟ニアラストセ
ハ必ス其別居シテ一己獨立ノ生計ヲ營ミ居ルノ事實ヲ明示セサル可ラス然ルニ判
文上其果ノ全居ノ兄弟ニアラスト認ムヘキ事實アリヤ否ヲ明示セサルニ依リ法律
適用ノ當否ヲ監査スルニ由ナキモノナリ(千葉輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ松本定吉上告事件
明治廿二年十二月十九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十七條

五號

原判文ヲ閱スルニ被告紋三郎ハ其父船方芳五郎被害者山田喜兵衛其先妻平山リエ
并ニ喜兵衛リエノ間ニ舉ケタル娘平山イシ等ト熟議ノ上イシト結婚シ未タ戸籍ニ
登記セスト雖イシニ對シテハ夫婦ノ實アリ從テ被害者喜兵衛ニ對シテモ聲舅タ
ル實アル者トアリテ其事實點ニ屬スル親屬ノ關係如何ヲ審定スルハ則チ承審官ノ
權内ニ在レハ本件ノ事實ヲ舅ノ金圓ヲ竊取シタルモノト判定シタル上ハ他ヨリ之
レヲ論議スルモ以テ上告ノ原由ト爲スコトヲ得ス(神戸輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ松戸紋三
郎上告事件明治二十二年二月七日大審院
ニ於テ棄却ノ判決)

第三百七十七條

六號

親族相盜
ヲ教唆ス
ルモ主タ
ル犯罪成
立セサル
テ以テ其
教唆者モ
亦罪ナシ

刑法第三百七十七條第一項ニ掲クル配偶者互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以
テ論スルノ限ニ在ラストアリテ本案ノ如キ中村ミノカ其夫喜十郎ノ病氣危篤中其
所有ナル無記名公債證書五千五百圓ヲ竊取シタリトスルモ法律ハ之ヲ竊盜トシ論
セス其刑法ノ支配ヲ受ケサル人ニ對シ被告人カ竊盜ノ所爲ヲ教唆シタリトテ刑法
第三百五條ノ例ヲ用ユル罪ヲ組成シタリト爲スコラス又共謀シタル事實ナキ者ニ
對シ刑法第三百七十七條第二項ヲ適用スルコトヲ得サルハ勿論ニシテ到底罪ノ成立
タサル者ナリ加旃本件ハ原控訴院カ認メタル事實ニ因テ之レヲ見レハ被告長兵衛
ハ中村ミノト叔母ノ間柄ニシテ且ミ、夫喜十郎存生中被告人ト家計上親密ノ相
談ヲ爲シ來リ喜十郎ノ病ニ罹ルヤ被告人ハミノト俱ニ看護ニ盡力シ其病危篤ニ迫
ルヲ見テ被告人ハ喜十郎死後必ス中村家ニ一大紛議ヲ生センコトヲ豫知シ於茲ミ
ノニ說クニ所有公債証書悉皆竊ニ取出シ置キ遺子等ノ爲メ宜シク後圖ヲ爲スヘシ
ト教唆シ之レヲシテ喜十郎所有ノ無記名公債証書額面五千五百圓ヲ竊ニ取出サシ
メ喜十郎死後之ヲ自宅ニ持歸リ其内額面八百圓ヲミノヨリ分配ヲ受ケ六百圓ハ已
ニ他ニ賣却シタル所爲アル者ト明示シタリ此所爲タル被告人ハ中村家將來ヲ慮リ
保護主義ニ出テタルヤ事實甚タ明瞭ニシテミノモ亦之ニ同意シ其所置ヲ爲シタリ
ト云フニ外ナラス此ノ如キ場合ニ於テ臨機保護ノ手段ヲ施スハ親戚間往々アルヘ

竊盜ノ罪

キ事實ニノ固ヨリ原判文上ニ於テモ被告人及中村ミノヲ惡意アリタルヲ及ヒ當時利益ヲ共謀シタルヲハ之ヲ認メサレハ竊盜罪ヲ構成スヘキ原由ナシ喜十郎死後公債証書額面八百圓ヲ分配シタリトアルハ豫約豫防ノ分配ニアラスシテミノカ故ナク贈與シタリト云フニ止マリ是亦犯罪ヲ構成スヘキ事實ニアラス原控訴院カ被告人ニ對シ刑法第百五條同第三百七十七條第二項ニ原キ竊盜ノ刑ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル上告ノ原由アル者トス
(大坂控訴院ノ言渡ニ對シ安藤子長兵衛上告事件 明治廿一年十月三十日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第一節 強盜ノ罪

第三百七十八條 正文略之

第二節 強盜即チ暴行ヲ以テスル盜罪

草第四百二十四條 身体ノ毀傷ヲ生セサルモ人ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ殺傷(若クハ其他人身ニ對スル害)放火若クハ所有物ノ毀壞ヲ目的トスル脅迫ヲ爲シ以テ盜罪ヲ犯シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス(刑、第三百七十八條○佛刑、第三百八十一條第五項)
竊盜罪ヲ犯シタル後贓物ノ全部又ハ一部ヲ保存スルノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ亦同一ノ刑ニ處ス(刑、第三百八十二條)

尋常ノ強盜罪

暴行脅迫ハ強盜罪ノ要件タ

〔盜罪ヲ犯ス時顯ハニ兇器又ハ放火若クハ爆裂質ノ物品ヲ携帯シタル者ハ前項ニ定メタル脅迫ト同シク論ス(比較刑、第三百七十條)〕

第三百七十八條

一號

原裁判言渡書ヲ審閱スルニ其第三ノ事實ニ略「タツ」ハ戶外ニ瞭望シ外三名ハ同家ノ雨戸ヲ外シ押入り徵三郎母「マス」ヲ威迫シ圓次カ携フル處ノ竹切庖丁ヲ以テ箆筈及ヒ皮箱ヲ毀壞シ云々強取シタリトアリ抑強盜罪ハ暴行脅迫ノ事實ニ因リ構成スル者ナレハ其暴行脅迫ノ手段方法ヲ示スハ最モ緊要ノ事實ナリ然ルニ原裁判ハ單ニ威迫シトノミニテ如何ナル手段方法カ威迫トナリタルヤ之カ事實ノ理由ヲ明示セサレハ強盜罪ノ有無ヲ知ルニ由ナシ
(德島重罪裁判所ノ言渡ニ對シ淺井萬平中村義三 月四日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十八條 第一百十二條

二號

刑法第三百七十八條人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜罪ト爲シトアリテ已ニ人ヲ脅迫シ財物ヲ強取セント爲シタルモノハ本條ノ制裁ヲ免レサルヤ勿論ナリトス今原判文ヲ見ルニ被告ハ要入ノ所持金ヲ盜ミ取ラント惡意ヲ

強盜ノ罪

汝子錢アルカト云ヒ作ラ袖ヲ振リタル所爲ハ第三百七

十八條ヲ以テ論ス

生シ突然要八ニ對シ小僧錢カアルカト云ヒ掛ケ云々直ニ要八カ着衣ノ袂ヲ振り云々トアルハ即チ脅迫強取ノ手段ニ外ナラズシテ而シテ其財ヲ得サルハ意外ノ舛錯ニシテ右刑法第三百七十八條ノ罪ヲ構造シタルモノトス(水戸重罪裁判所ノ言渡ニ對シ赤一月七日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百七十八條

三號

決心ハ教唆罪ノ要索タリ

教唆ノ理由不備ナリト云フニ在レモ今原判文ヲ查閱スルニ前被告音市ト宿泊中支市ハ早戸善三郎ノ告訴ニヨリ前顯ノ處刑ヲ受ケシヲ以テ深ク全人ノ母カメヲ怨ミ何ニトカ之カ復仇ヲ爲サント音市ニ對シ全家ニ押入強盜ヲ爲サントテ教唆ニ及ヒ音市ハ之ヲ諾シ云々トアル事實ハ教唆ノ方法ヲ示シタル者ナレハ理由ヲ付セサル裁判ト云フ可カラス況ンヤ音市ヨリ奪取シタル手拭一筋ヲ受ケタル事蹟ヨリ案スルモ被告ハ強盜ヲ教唆シタルヲ明確ナルニ於テオヤ(松江重罪裁判所ノ言渡ニ對シ足立三日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百七十九條

草案第二百二十四條第三項第四百二十五條ノ二第四項ヲ比照スヘシ

特種ノ強盜

第四百二十五條 人ノ住居スル家屋又ハ其附屬ノ建物内ニ踰越外圍ノ損壞又ハ偽鑰ニ依リ犯人ノ侵入シテ強盜ヲ犯シタルキハ重懲役ニ處ス(刑、零)佛刑、第三百八十一條第四項)

都府若クハ村落外ノ道路又ハ碇泊中ナルト航海中ナルトヲ問ハス人ノ乗組ミタル船舶ニ於テ強盜ヲ犯シタルキハ亦同一ノ刑ニ處ス(刑、零)佛刑、第三百八十三條)

加重ノ情狀

第四百二十五條ノ二 前二條ニ記載シタル刑ハ左ノ情狀ノ一箇又ハ數箇ニ依リ最長期限ヲ以テ之ヲ宣告ス可シ

第一 僕婢又ハ第四百十三條ノ一ニ指示シタル者ノ強盜罪ヲ犯シタルキ(刑、零)佛刑、第三百八十六條第二第三第四項)

第二 該條ノ二ニ定メタル變災ニ乘シ之ヲ犯シタルキ(刑、零)

第三 夜間之ヲ犯シタルキ(刑、零)佛刑、第三百八十一條第一項第三百八十五條第一項第三百八十六條第一項)

第四 犯人二人又ハ數人ナリシキ(刑、第三百七十九條)佛刑、第三百八十一條第二項第三百八十五條第三項第三百八十六條第一項)

第五 官廳ノ命令ヲ矯メ又ハ官吏ノ名稱飾章若クハ制服ヲ借用シタルキ(刑、零)佛刑、第三百八十一條第四項第三百八十四條)

強盜ノ罪

第六 犯人ノ一人又ハ數人ノ身体ニ對シ兇器ヲ加フルニ當リ身体ノ毀傷ヲ生

セサリシキト雖モ亦同シ
第七 兇器ヲ加ヘサルモ暴行又ハ脅迫ヲ爲シ依テ二十日又ハ二十日以上ノ日數

第三百七十九條 第一百十二條

一號

強盜未遂

被告人ハ強盜ヲナサントノ目的ニテ外一名ノ者ト共謀シ被害者本橋善七宅ノ表戸
ヲ押シ破ラントシタルニ家主善七ニ覺知セラレ被告等ハ小石ヲ二階ヘ擲テ付ケシ
モ善七ハ戸ヲ閉テ尙ホ大聲ニ吐鳴ルヲ以テ目的ヲ遂ケスシテ逃走シタリトノ事實
ニヨレハ被告人共ハ被害者善七ニ對シ脅迫ヲ加ヘ財物ヲ強取セントシタルモ意外
ノ障礙ニ因リ其目的ヲ遂ケサリシト明ナリ(水戸重罪裁判所ノ言渡シニ對シ堀江龜次郎上告事
件明治二十一年十一月九日大審院ニ於テ棄却判決)

第三百八十條 正文略之

草第四百二十六條 若シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シ依テ第三百三十五條ニ定メタル身体
又ハ精神上ノ廢疾ニ致シタルハ該條第二項ノ場合ニ於テハ有期徒刑ニ處シ又第
一項ノ場合ニ於テハ該刑ノ最長期限ヲ宣告ス

殺害

若シ之カ爲メ死ニ致シタルトキハ犯人死ニ致スノ意思ナキト雖モ無期徒刑ニ處

故殺

若シ故殺ヲ行フタルトキハ第三百三十條ニ依準シ死刑ニ處ス(比較刑、第三百八十
條○佛刑、第三百八十二條)

第三百八十條

一號

強盜殺人
ノ自首セ
シハ謀
殺ト過
失殺トテ
區別シ以
テ減否ヲ
定ム可シ

抑強盜殺人ノ罪ハ殺意ノ有無ヲ問ハス刑法第三百八十條ノ支配ス可キモノナルコ
ハ多言ヲ俟タサル所ナリトス然レモ本案ノ如ク犯人ニ於テ自首シタル場合ニアリ
テハ其殺人ノ有意即チ謀殺故殺ニ出テタルカ將テ無意即チ過失犯ニ出テタルカ等
ヲ審究シ而シテ同第八十五條ニ照ラシ減輕ヲ與フルト否トヲ判定スベキハ當然ナ
ルニ原判文ヲ査閱スルニ被害者ニ傷ヲ負ハセ死ニ致シタル外部ノ所爲ハ之ヲ明示
シタルモ其内部即チ殺意アリシヤ否ヤノ點ニ至リテハ毫モ之ヲ判示シアラサルヲ
以テ果シテ自首減等ヲ與ヘタルハ當ヲ得タルヤ否ヤヲ鑑査スルニ由ナク到底代言
人カ附帶上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第九ニ所謂事實理由ノ不備アル不法ノ
裁判タルヲ免カレサルモノトス(水戸重罪裁判所ノ言渡シ青木清松上告事件
明治十九年七月九日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百八十條 第二百九十二條
第三百六十六條

二號

強盜ノ罪

豫メ謀テ
人ヲ殺害
シテ財物
ヲ奪ハシ
タルハ即
チ強盗ニ
シテ謀殺
トシテ殺
ニアラズ

原判文ニ被告ハ「タカ」カ神戸ニ來リシ幸ヒトシ茲ニ惡意ヲ起シトアルハ殺害ノ
惡意ナルカ財産ヲ奪フノ惡意ナルカ判明セサルモ後段ニ「タカ」ノ嫉妬倍甚シク寧
ロ同人ヲ殺害シ兼テ企望ノ財産ヲ得ント決意シ云々トアレハ爰ニ始メテ殺意ヲ決
シ而シテ其瞬間ニ在テ之レヲ決行シタルモノニテ前ノ惡意ヲ起シト云フハ殺意
ニアラサルヲ明ナレハ即チ故殺ノ事實ナリ故ニ原裁判ハ到底不法ヲ免カレサル破
毀ノ原由アルモノト論告セリ仍テ之ヲ審按スルニ上告前項ノ理由トスル處「タカ」
ノ財産ヲ奪ヒ又ハ殺害スルノ意思ナク同人ノ暴行ヲ止メシカ爲メ毆打セシニ絶息
シタル者ト云フニアリテ單ニ無形ノ妄想ヲ掲ケ以テ裁判官ノ權内ナル事實ノ認定
ヲ批難スルニ外ナラサレハ法定メタル上告ノ原由ト爲スヲ得ス而シテ擴張論旨
ニ付原裁判言渡ヲ視ルニ其中段ニ寧ロ同人ヲ殺害シテ兼テ企望スル財産ヲ得ント
決意シ同夜午前二時過頃兵庫ニ至リ宿泊ス可シト欺キ右草原ヨリ誘ヒ同區宇治野
山麓近傍ニ於テ云々トアリテ已ニ強盜決意ノ事實ヲ舉示シタルモノナレハ代言
人論旨ノ如ク之ヲ以テ故殺ノ事實ナリト論スルヲ得ス且ツ原判文事實ノ部ヲ前後
對照熟閱セハ其冒頭ニ(兼テ私通セル磯田「タカ」ハ相應ノ財産ヲ所有スルモ獨身ニ
シテ他ノ親戚ハ睦シカラス常ニ疎遠ナルヨリ被告ハ該財産ヲ自己ノ所有ニ爲サン
トノ念ヲ起ス内云々中段ニ寧ロ同人ヲ殺害シ兼テ企望ノ財産ヲ得ント決意シ後段

ニ遂ニ之ヲ殺害シ仍ホ「タカ」ノ携帶セシ衣類在中ノ風呂敷包及ヒ金二圓廿錢在中
ノ紙入ヲ取去リトアル理由ハ其意思其所爲照應シテ即チ純然タル強盜殺人ノ事
實明確ナレハ只其豫謀ノ所爲アルヲ以テ單一ナル謀殺ノ事實ト爲ス可カラス原裁
判茲ニ出テス謀殺竊盜ノ二罪ヲ以テ論シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ該ル擬
律錯誤ノ裁判ナリトス(神戸重罪裁判所ノ言渡ニ對シ擬並爾治上告事件)
(明治十九年十月五日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百八十條

三號

被告ハ犯罪ノ用ニ供シタル兇器ノ有無出所ヲ明示セサレハ刑法第三百八十條ニ該
當スヘキモノニ非スト云フモ原判文ヲ觀ルニ其傷ヲ負ハシメタルハ被害者ヲ突倒
シタルモノニシテ兇器ヲ以テシタルニ非ス其兇器ヲ舉示セサルハ當然且兇器ヲ用
ユルト否トヲ問ハス強盜人ヲ傷シタル上ハ刑法第三百八十條ノ制裁ヲ免ルヘキニ
非ス(千葉重罪裁判所ノ言渡ニ對シ佐藤平助上告事件)
(明治二十一年二月七日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

全上

四號

被告ハ強盜ノ念ハ斷了シ將ニ戶外ニ出ントスルニ際シ被害者父佐五郎及ヒ嫁カク
ニ捕押ヘラレ被告人ハ尙ホ逃走セントシテ挑ミ合フ中彼レ自ラ傷ヲ爲シタルニ因

強盜ノ罪

護匪傷人
モ亦第三
百八十條
ノ制裁ヲ

兇器ノ如
何ハ強盜
殺人ニ構
成ニ何等
ノ影響ヲ
與ヘサル
モノトス

免レス

リ強盗人ヲ傷シタル法條ヲ適用ス可キモノニアラスト論告スレモ被告人カ強取シタル金圓ヲ持去ントスル故被害者ハ捕押ヘント互ニ争フ際被害者ニ負傷セシメタルハ原判文ニ因テ判然タレハ設ヒ闘毆中ニ係ルモ傷ヲ負シメタル以上ハ刑法第三百八十條ノ罪ハ免レカタクモトス(浦和重罪裁判所ノ言渡シニ對シ小林仙吉カ上告事件)
(明治二十一年三月廿三日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百八十條

五號

強盜殺人ノ適用

原裁判言渡書ヲ檢スルニ被告ハ明治十九年十二月四日午後八時頃兼テ注文ノ筭ヲ携ヘ寅吉方ニ至リシニ寅吉及ヒ妻(セイ)共ニ不在ニテ年齢十一年ナル雇人角田(カメ)獨リ留守シ居リタリ是ニ於テ被告ハ忽チ盜心ヲ生シ所持ノ手拭ヲ以テ火鉢ノ傍ニ坐シ居ル右(カメ)ノ咽喉ヲ絞リ遂ニ之ヲ殺害シ而シテ其場ニ在リタル算筒抽斗ノ錠ヲ火箸ニテ引毀シ衣類貳拾六點雜品四品及ヒ火鉢ノ抽斗中ヨリ金壹圓七拾五錢ヲ奪取シタルモノト認定ストアリテ財物ヲ得ンカ爲メ(カメ)ヲ殺害シタルノ事實證據ヲ明示シ刑法第三百八十條ヲ適用セシハ相當ナリ(東京重罪裁判所ノ言渡シニ對シ川崎藤藏カ上告事件)
(明治二十一年三月六日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百八十條

六號

強盜人ヲ傷シタルノ罪ハ一罪ニシテ強盜ノ罪ニテアラス

刑法第三百八十條ヲ按スルニ強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處ス云々トアツテ強盜人ヲ傷シタルニ依テ一個ノ罪ヲ組成スル明ナレバ被告人ニ於テ強盜ヲ爲サン爲メ人ヲシテ負傷セシメタルトテ強盜罪ト毆打罪ト二罪ヲ以テ罰ス可キモノニアラス抑ツモ刑法中一罪ヲ犯スニ該リ人ヲ殺傷シタル場合ニ在テ二罪トシ罰ス可キ類ノ如キハ刑法第四百十條同第三百二十八條同第三百二十四條同第三百三十五條同第三百五十一條等ニ特別規定アルヲ以テ其明文ナキトキハ一罪トシ論スベキモノナルヤ明ラカナリ(甲府重罪裁判所ノ言渡シニ對シ今村豐造カ上告事件)
(明治十九年四月二十九日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百八十條

七號

脅迫ヲ加ヘタルモ財物ヲ取ラサルヲ以テ強盜未遂罪ナリト云フモ刑法第三百八十條ヲ視ルニ強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處スト在リテ該條ハ強盜既遂未遂ノ如何ヲ以テ區別スヘキ者ニ非ス既ニ原裁判所ニ於テ認メタル如ク被告ハ拔刀ヲ示シ金圓ヲ差出セト脅迫シ負傷セシメタルモノナレハ直ニ強盜傷人罪ヲ構成シタルヤ論ヲ竣タス(前橋重罪裁判所ノ言渡シニ對シ田子寅次郎カ上告事件)
(明治二十一年四月六日大審院公廷ニ於テ棄却スルノ判決)

第三百九十條

原判文ヲ閱スルニ原裁判ハ被告カ環次郎ヲ引連レ故ラニ通行人稀ナル所ニ立入り

強盜ノ罪

五五三

暴行脅迫ヲ以テ財

強盜傷人罪ハ財物ヲ得ルト關セサルモ

物ヲ取リ
タルハ恐
喝取財ト
云フベカ
ラス

共犯ノ意
義

物件ヲ掠奪スルノ目的ヲ以テ人ヲ傷セハ其爲豫謀ニ係ルト否トニ強盜傷人トスヘキモノトス

戸外ノ隙犯者ハ正犯ノ一人ナリ

突然此胸襟ヲ摺ニ白紙ニテ刃先ヲ卷キ兼テ懷中シ居タル小刀ヲ取出シ其紙ニ卷キタル儘面前ニ差付ケ暴威ヲ示メシ環次郎カ驚怖ノ餘リ其ノ所持セル風呂敷包ヲ投棄テ逃走シタル隙ニ乘シ徐ニ其風呂敷包ヲ取り云々トノ事實ヲ認メナカラ之ヲ處斷スルニ當リ恐喝取財トシテ刑法第三百九十條ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ夫レ恐喝取財トハ姦計ヲ以テ無實ノ威權若シクハ無根ノ災害等其人ニ及フノ畏懼心ヲ懷カセ財物ヲ交付セシメタルモノヲ云フ本件ノ如キ小刀ヲ作用シ暴行ヲ以テ環次郎ヲ嚇シ物品ヲ擲却シ去リタルヲ盜取シタルハ刑法第三百七十八條ニ人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタルモノハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ストアルニ必的スル者トス(大坂重罪裁判所ノ言渡ニ對シ白江兆庵上告事件 明治廿一年六月廿一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第四百四條
第三百八十條

八號

原裁判言渡書ヲ檢スルニ被告人等犯罪事實第十七項中ニ守本ナカノ寢所ニテ大聲ヲ發シタルヨリ其手ヲ下シタル者ノ誰レタルヲ知ルニ由シナシト雖モ右其犯者中携ヘタル拔刀ヲ以テナカヲ殺害シ云々トアリテ被告光次郎ハ外三名ト強盜ヲ爲サント共謀シ各自兇器ヲ携帶シ暴行脅迫ヲ爲シ共犯中ノ一人人ヲ殺害シタル者ナレハ其全行一體ノ正犯ニシテ各自本刑ヲ科スヘキハ固ヨリ論ヲ俟タズ現ニ手ヲ下ス

ト云フヲ以テ強盜殺人ノ共犯ニ非ストナスコトヲ得サルナリ(神戸重罪裁判所ノ言渡シニ對シ三上光次郎中野平吉等ガ上告事件明治二十一年二月廿一日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百八十條

九號

本案被告カ篠原愛助ヲ殺サントシタルハ其目的廣石倉助カ物件ヲ掠奪スルニ在レハ其殺傷ノ豫謀ニ係ルト否トヲ問ハズ強盜傷人ヲ以テ論スヘキハ相當ナリ然ルニ原裁判官ハ判文ニ強盜傷人ノ事實理由ヲ明示シナカラ之ニ刑法第二百九十二條第百十二條ヲ適用シタルハ檢事上告論旨ノ如ク擬律ヲ錯誤シタル不法ノ裁判ナリトス(廣島重罪裁判所之言渡ニ對シ黑杭タキ上告事件明 治廿一年一月二十一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百八十條
第四百四條

十號

數人共謀シテ強盜罪ヲ犯スニ一人ハ外ニ在テ瞭望シ他ノ數名ハ家内ニ押入り物品ヲ奪ヒ又ハ家人ヲ殺傷シタル場合ニ於テハ固ヨリ分身一体ノ所爲ナリト論定セサル可ラス然レハ本案被告常次郎ハ假令戸外ニ觀張ヲ爲シタルモ已ニ持兇器強盜ノ共謀者ナリト認定シタル以上ハ被害者ヲ負傷セシメタル場ニ在ルト在ラサルトヲ問ハズ刑法第二百八十條ニ依リ處斷スヘキヲ相當ナリトス(福岡重罪裁判所ノ言渡シニ對シ松本常次郎上告事件明治二十一年一月二十一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

強盜ノ罪

十一年五月十九日大審院ニ於テ棄却ノ判決

第四百四條 第三百八十條

十一號

抑強盜人ヲ傷スルノ罪ハ持兇器強盜罪ノ原素タル即チ暴行ノ結果ナレハ現場ニ臨ミ手ヲ下サ、ルモ分身一体ノ舉動ト做ス可キハ法理ノ然ラシムル所ニシテ其ノ正犯タルト論テ俟タサル處ナリ故ニ原裁判所カ其實事ヲ揭ケ刑法第三百八十條ヲ適用シ斷了シタルハ決ノ事實理由不備ナル裁判ニ非ラストス(京都重罪裁判所ノ言渡シニ對シテ於テ棄却ノ判決)

第三百八十一條 草案欠

第三百八十二條 草案第四百二十四條第二項ヲ比照スヘシ

(但シ同條ハ現行刑法第三百七十九條ニ比照シアリ)

第三百八十三條 草案第四百十三條第二項ノニチ比照スヘシ

(但シ同條ハ現行刑法第三百六十七條ニ比照シアリ)

第二百八十三條

一號

原判文ニ據レハ源作ハ性遲鈍加フルニ酒ヲ嗜ミ常ニ昏迷スルノ癖アリ依テ源作ヲ

尋常酒ハ
刑法第三

百八十三
條ニ包含
セス

醉ハシメ云々ト尋常酒ニ醉ハシメタル事實ヲ認メナカラ刑ノ適用ニ至リ藥酒ヲ用井人チ醉迷セシメタル者ノ如ク刑法第三百八十三條ニ依リ處斷シタルハ治罪法第四百二十五條ニ所謂相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル者トス依テ全條第二項ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス(長野重罪裁判所ノ言渡シニ對シ安川月二十八日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百八十四條 正文略之

第四百二十七條 前數條ニ記載シタル刑ハ讓渡義務辨濟又ハ領収ヲ記載スル署名書又ハ約束書ヲ強取スルノ犯罪及ヒ暴行脅迫ヲ以テ或ル物件ヲ自己ニ交付セシメタル犯罪ニ適用ス可シ(刑、零〇佛刑、第四百條第一項)

第四百二十八條 凡ソ強盜犯ノ爲メ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其他二年

以上五年以下ノ監視ニ付ス(刑、第三百八十四條)

第三節 遺失物理藏物ニ關スル罪

第三百八十五條 正文略之

第三節 遺失物及ヒ埋藏物ニ關スル罪

第四百二十九條 自己ノ所有地若シハ家屋ノ内外ヲ論セス他人ニ屬スル遺失物ヲ發見シ故ラニ之ヲ利得シ又ハ他人ヲシテ之ヲ利得セシメシカ爲メ之ヲ其所有主

監視

遺失物ノ
曲取

遺失物ニ關スル罪

五五七

五五六

ニ還付セス又ハ地方官廳ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮二圓以上
ニ拾圓以下ノ罰金ニ處ス(刑第三百八十五條)
〔本條ノ法則ハ陸地ノ遺失物河海ノ漂着物ニ適用ス(全上)〕

第三百八十五條

一號

原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告ハ明治二十一年四月十四日夜居村成瀬清三郎方ニ
於テ説教アリシヨリ多衆ノ村民ト共ニ聽聞ニ立越シ退散ノ際孰レモ自由ニ出入シ
得ヘキ同家ノ中庭ニ落チアリシ同人所有ニ係ル銀ノ煙管一本ヲ持歸リシ末云々和
田治郎右衛門へ賣却シタリトアリテ何人モ自由ニ出入シ得ヘキ即チ道路ニ等キ場
所ニ落チアル煙管ヲ拾ヒ取り之ヲ賣却シタル所爲ニテ遺失物ヲ拾得テ隱匿セシ事
實明カナレハ原裁判所カ右事實ヲ認メ刑法第三百八十五條ニ問擬シタルハ相當ナ
ルヲ以テ上告趣旨ハ相立サル者ト判定ス(岐阜輕罪裁判所ノ言渡ニ對スル青木駒吉上告事件)
明治二十一年九月廿七日大審院ニ於テ棄却ノ判決

第三百八十五條
遺失物取扱規則第十四條

二號

原檢察官ハ被告萬次カ會テ逃走ノ牡馬一頭ヲ繫留シ之ヲ官ニ送ラサリシ所爲ニ對
シ原裁判所ニ於テ適用シタル法條ハ錯誤ニ出テタルモノナリト論訴スルモ遺失物

モノハ遺失物取扱規則ニ
モノハ遺失物取扱規則ニ
モノハ遺失物取扱規則ニ
モノハ遺失物取扱規則ニ

取扱規則第八條ニ凡ソ家畜ノ類他所ニ遺走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得ス
ト雖モ其主ヨリ官ニ報シ云々同第九條凡ソ逃走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラ
ザレハ之ヲ官ニ送ルヘシ云々同第十四條ニ凡ソ遺失物及ヒ逃走畜類ヲ得若シクハ
理藏物ヲ掘得テ官私ニ送還セス云々并ニ律ニ照ラシテ處分ストアリテ本案ノ如キ
逃走畜類ヲ繫留シテ官ニ送ラサリシ所爲ハ刑法第三百八十五條第三百八十六條ニ
明掲シアラザレハ該法條等ヲ適用處斷スルヲ得サルヤ勿論ニシテ則チ刑法中ニ其
明文ナキ者ナリ然リ而シテ前掲遺失物取扱規則第九條ハ意思ノ惡意ナルト否トニ拘
ハラス逃走シ來レル畜類ヲ得タルモノニシテ其主分明ナラサルトキハ速カニ官ニ
送ラサル可カラサルノ法律ナレハ原判文上ニ假令ヒ意思ノ有無ヲ掲ケサルモ被告
ハ該法條ニ違背シ逃走ノ牝馬ヲ繫留シテ官ニ送ラサリシ事實ノ理由ヲ明載シアレ
ハ之ヲ以テ事實理由ニ不備アル裁判ナリトハ云フテ得ス故ニ原判官カ其認メタル
事實ニ對シ遺失物取扱規則第十四條ニ照ラシ明治十四年第七十二號布告第四條ニ
依リ罰金ニ處シタル相當ヲ裁判ナリ(熊本輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ井萬次上告事件)
明治廿二年十月五日大審院ニ於テ棄却ノ判決

第三百八十五條

三號

原判文ヲ閱スルニ(其邸内兄ノ住家窓下ノ地上ニ於テ金八錢入りノ煙艸及煙管付
遺失物ニ關スル罪

兄ノ邸宅
地内ニ於

テ他人ノ
物品ヲ拾
得シタル
モノハ得
遺失物罪
ナリ

幼者カ拾
得セシ物
品ヲ受ケ
タルモノ
ハ受賍罪
ヲ免レヌ

届出期限
内ナルモ

遺失物藏
匿ノ事實
アル中ハ
隠匿罪ヲ
組成ス

キノ黒皮煙艸入一個ヲ拾揚ケタル云々被告人ハ其所有者知レサルヲ以テ其煙艸ハ
之ヲ棄テ其金錢ハ自己ノ財布ニ入レ自己ノ金錢ト混同シ煙管及ヒ煙艸入ハ之ヲ自
己ノ使用ニ供シ居タルモノナリト記載シアルニ依レハ被告人ノ所爲ハ兄ノ邸宅
地内ニ於テ遺失物ヲ拾得シ官署ニ申告セズ之ヲ隠匿シタルノ事實ニシテ則チ刑法
第三百八十五條ノ罪ヲ構成シタル者ナリ(岡山輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ難波仁三郎上告事件
明治廿二年十二月廿五日大審院ニ於テ破毀ノ判決)
第三百八十五條
第四百一條

刑法第三百八十五條ハ拾得物隠匿者其人ヲ罰スル法條ニシテ拾得物ヲ受ケタル者
ニ引用スヘキモノニ非ス故ニ上告前段ノ論旨ハ相立ス然レモキクカ遺失物隠匿ノ
罪ヲ論セサルハ其幼者タル身分ニ因テ然ルノミ遺失物其物ハ賍タルノ名稱ヲ消滅
セサルナリ故ニ其遺失物ナルコトヲ知テ之ヨリ受ケタル者ハ刑法第四百一條ノ制裁
ヲ免カル可キニアラス然ルニ之レヲ無罪ト爲シタルハ上告後段論旨ノ如ク擬律錯
誤ナリ(天津輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ山根三平上告事件
明治廿二年六月十一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百八十五條

五號

原判文ヲ査閱スルニ(上)猶ホ一斗計ヲ屋隅ノ筵ノ下ニ包藏シアルヲ發見セリトア

リテ原裁判官ハ遺失物藏匿ノ事實ヲ認メナカラ未タ期限内ナルヲ以テ刑法第二條
ニ依リ無罪ヲ言渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス何トナレハ原裁判ノ理由トスル所
ハ遺失物取扱規則第二條ニ記スル期限内持主ニ物件ヲ還給セシ一事ニアリテ其期
限ハ善意者ノ物件ヲ持主ニ還シ又ハ官ニ送ルカ爲メ與フル猶豫ニシテ本案ノ如キ
場合ニ適當スル者ニアラサレハナリ到底原裁判ハ破毀ノ原由アルモノトス(大分輕
罪裁判所ノ言渡ニ對シ渡邊マツ上告事件明治十
九年五月廿七日大審院ニ於テ破毀ノ判決)
○遺失物取扱規則ハ明治九年四月第五十六號布告及ヒ十年九月內務省甲第二十號
布達ヲ參照スヘシ

第三百八十六條 正文略之

草第四百三十條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ發見シ其全部又ハ一部ヲ曲
取シ以テ所有主ヲシテ法律上歸屬シタル部分ヲ失ハシメタル者ハ亦タ前條ノ例ニ
照シテ處斷ス(刑第三百八十六條)
草第四百三十條第二 犯人若シ僕婢其他第四百十三條第一項ニ指示シタル者ノ
一人ナルハ前二條ノ刑ニ一等ヲ加フ(刑、零)

第三百八十七條 正文略之

草第四百三十一條 或ル血屬親若クハ姻屬親ノ爲メ第四百二十三條ニ定メタル不

遺失物ニ關スル罪

不論罪

加重ノ情
狀

論罪ハ前二條ノ犯罪ニモ亦タ之ヲ適用ス(刑第三百八十七條)
草第四百三十三條 左ニ記載スル犯人ハ尋常倒産ノ罪ヲ以テ論シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第一 家資分散ノ景狀ナル旨ヲ宣告シタル裁判後其權利者ノ一人ノミニ返濟ヲ爲シ自餘ノ權利者ニ損害ヲ加ヘタル者(刑第三百八十九條○佛商法第五百八十五條第四同刑第四百二條第三項)
第二 商賈ニシテ法律ニ定メタル帳簿ヲ作ラサリシ者(佛商法第五百八十六條第六、同刑、同上)

(商法ニ於テ尋常ノ倒産者ト認メタル者亦タ同一ノ刑ニ處ス)
第四百三十三條ノ二 (會計官吏公證人銀行者兩替商又ハ牙保ニシテ前二條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ本刑ニ一等ヲ加フ)(佛商法第八十九條同刑第四百四條)第四百三十三條ノ三 (被害者第四百二十三條ニ指示シタル血屬親若クハ姻屬親ナルキハ本節ニ記載スル刑ヲ免除スルモノトス)

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 草案第四百三十二條第一項第二項ヲ比照スヘシ

第四節 倒産ノ罪

詐欺ノ倒産
共犯
未遂犯

草第四百三十二條 凡ソ家資分散ノ景狀ナル旨ヲ宣告シタル裁判ノ前後ニ於テ其權利者ニ損害ヲ加フルノ意ヲ以テ其現在ノ財産貨高ノ一部ヲ毀棄曲取若クハ隱匿シ其負債借高ニ過分ノ申立ヲ爲シ又ハ其帳簿ノ全部或ハ一部ヲ毀棄隱匿若クハ變造シタル者ハ詐欺倒産ノ罪ヲ犯シタル者トシ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑第三百八十八條第一項第三百八十九條○佛商法第五百九十一條同刑第四百二條第二項)

情ヲ知テ直接ニ倒行者ヲ幫助シ以テ其詐欺ノ所爲ヲ遂ケシメタル者ハ此輕罪ノ共犯人トシテ同一ノ刑ニ處ス(比較刑第三百八十八條第二項○佛商法第五百九十三條同刑第四百三條)

未遂犯

此輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三百八十八條

一號

身代限ノ處分ヲ受ケ財産取調ノ際畑地數筆建家三棟ハ現ニ被告ノ所有物ナルニ所轄戸長ノ取調行届カサルヲ僥倖トシ右等地所建家ノ現在スルノ情ヲ明カサス殊更ニ藏匿シ公賣處分ヲ受クルニ至リ遂ニ右ノ物件ヲ脱漏シタル者ナリトアリテ其戸長ノ調漏アルニ乘シ故サラニ藏匿シ公賣處分ヲ受ケタルハ惡意ニ出タルニ非スト

家資分散ニ關スル罪

戸長ノ調漏ニ乘シタル者ハ同刑法第三百八十八條ノ罪ヲ成ス

云フヲ得ス其藏匿ニヨリ公賣處分ヲ免カレタルハ即財產脫漏ノ所爲ナレハ藏匿脫漏ノ分解ヲ錯雜シタルニ非ス已ニ財產ヲ脫漏シタル上ハ債主ニ損害ヲ加ヘタルハ必然ノ事ナレハ其惡意詭計ヲ以テ債主權ヲ害シタル事實及ヒ其手段方法明白ニシテ理由ノ不備ト云フヲ得ス(浦和輕罪裁判所ノ言渡シニ對シ矢澤村吉上告事 件明治廿一年七月七日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百八十八條

二號

抑モ刑法第三百八十八條ニ所謂財產トハ惟リ有形ノ財產ノミニ止マラスシテ無形ノ財產即チ債主權ノ如キモノヲモ包含スルヤ論ヲ俟タス故ニ家資分散ノ際其債主權ヲ藏匿脫漏シタル者ハ該條ノ制裁ヲ免ルヲ得ス然ラハ即チ本件被告ノ如キハ家資分散ノ際ニ是等ノ所爲アリシヤ如何ヲ審明スルコト最モ緊要ナルニ原裁判所會議局ノ判文中ニハ止タ被告カ講小字形ノ賣買ヲナシタルハ家資分散ノ前ニアリ或ハ其代金ヲ受取リタルハ家資分散ノ後チニアリトスルモ云々ト認メアルノミニテ家資分散ノ際ニハ果ソ其賣代金又ハ債主權ヲ藏匿脫漏シタルコトナキヤ如何ノ點ヲ判示セサルカ故未ダ輒スク被告カ有無罪ヲ識別シ難ク隨テ會議局カ豫審免訴ノ言渡シヲ認可シタルハ果シテ相當ノ處分ナルヤ否ヲ監査スル能ハス(德島輕罪裁判所ノ言渡シ 件明治十九年三月三十一日 大審院ニ於テ破毀ノ判決)

無形ノ財產
主權ヲ免
漏スルモ
分ナルハ
刑罰第三
百八十八
條ノ罪ヲ
組成ス

第三百八十八條第一項

三號

刑法第三百八十八條初項ノ罪タル身代限財產取調ノ前後ニ論ナク債主ヲ害スルノ目的ヲ以テ財產ヲ藏匿脫漏シテ家資分散ヲ決行シタル以上ハ同條ノ制裁ヲ免カレサルモノナリ故ニ第一債主ヲ害スルノ意思アルコト第二家資ノ分散ヲナシタルコト第三債主權ヲ害シ得ヘキコト以上三原素ヲ要スルモノナリトス而シテ原判文ニ被告人小林小太郎南藤藏谷口丈太郎星野小平ハ各共謀シテ明治廿二年三月十五六日頃云々佛檀并ニ水車各一個云々藏匿シ同月廿一日家屋四棟土藏二棟ヲ云々ニ番抵當トシテ小林小太郎ヨリ金九拾五圓ヲ借受ケタルカ如ク虛偽ノ負債ヲ増加シ中ノ島治安裁判所判事代理書記石川正心ヲ右賣買書入登記ヲ爲サシメタルハ全ク右南徳太郎ノ先代市松へ長村榮三郎ヨリ金百五十圓ノ貸付金アリ其元利金催促ノ勸解出願ヲ受ケ其義務ヲ確認シ身代限ヲ以テ其義務ヲ盡スヘキ旨申立勸解了了ノ後チ其ノ執行ノ爲メ財產差押ヲ受クルニ際シ債主榮三郎カ貸金ノ抵償ニ充ツルコトナカラシメント企圖シ即チ債主ニ損害ヲ與フルノ目的ニテ右ノ所爲ニ及ヒシ者タル云々ト記載アリテ其目的タル債主權ヲ害スルノ事實ハ認メアルモ家資分散ノ處分ヲ受クルニ至リシヤ否債主權ヲ害シ得ヘキヤ否ノ事實ヲ見ルヘキナクシテ所謂犯罪構

家資分散ニ關スル罪

家資分散
ノ罪ハ債
主ニ害ノ
生シ得ヘ
キコト家
資分散ヲ
シタルコ
ト要件ト
ス

成ニ必要ナル原素ヲ具備シタルノ事實理由判然ナラサルカ故ニ判決ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキナリ(大坂縣裁判所會議局ノ言渡ニ對シ谷口丈太郎外一名明治廿二年十一月三十日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百八十八條

四號

刑法第三百八十八條ニハ家資分散ノ際云々トアリ本件ノ如キ身代限ノ處分ヲ受ケタルニアラスシテ唯財產ヲ公賣シ其代金ヲ以テ負債ノ辨濟ニ充ル場合ハ之レニ包含セサルナリ(長野縣裁判所ノ言渡ニ對シ西澤榮藏外四名上告事)

第三百八十八條

五號

刑法第三百八十八條ニ家資分散ノ際トアルハ單ニ出訴後ノミヲ指シタルニアラス原判文ニ認メタル如ク豫テ身代限ヲ爲サン爲メ財產ヲ藏匿セント謀リ表面賣買ニ假裝シ他人ノ所有ト爲シ置キ身代限ノ場合ニ方リ尙ホ其意思目的ノ如ク之ヲ財產調ニ加ヘサルハ即チ家資分散ノ際財產ヲ藏匿シ惡意ヲ以テ債主ヲ害シタルモノナレバ本條ニ問フタルハ相當ナリ(高知重罪裁判所ノ言渡ニ對シ織田利貞上告事件)

第五節 詐欺取財ノ罪及受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條 草案第四百二十四條第一項ノミ比照

第五節 詐欺取財及ヒ背信ノ罪

通常ノ詐欺取財

草第四百三十四條 左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ詐欺取財ノ犯人ト爲シ二月以上二年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第一 假想ノ危害ヲ以テ恐懼ヲ懷カシメ又ハ虛偽ノ利益ヲ希望スルノ念慮ヲ生セシメ其他有罪ナル計策ヲ以テ金額有價物品不動産若クハ動産又ハ權利ノ讓渡義務若クハ義務ノ免脱ヲ記載セル證書ヲ自己ニ交付セシメタル者若シ公私ノ證書ヲ偽造シタルキハ第二百三十七條乃至第二百五十條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(刑、第三百五十條○佛刑、第四百五條)

第二 賣買其他消費物商品若クハ或ル動産ノ物品ヲ目的トスル有價契約ニ付キ詐欺ノ手段ヲ用井相手方ヲシテ契約物件ノ性質若クハ量目數高又ハ度尺ノ多寡ヲ誤マラシメタル者(刑、第三百九十二條○佛刑、第四百二十三條佛千八百五十一年三月廿七日四月一日ノ法律)

第三 自己ノ所有ニアラサルヲ知テ故ラニ詐欺ノ手段ヲ以テ動産不動産ヲ賣渡シ又ハ有價ノ名義ニテ讓渡シ若クハ書入質入ヲ爲シ或ハ其所有ニ係ルト雖モ既ニ他ニ讓渡ヲ爲シ書入質入又ハ或ル物上權ヲ該財產ニ付承諾シタル上其物上權ノ全部又ハ一部ヲ隱蔽シタル時亦同シ(刑、第三百九十三條)

詐欺取財ノ罪

誹謗ノ恐
喝ニ依ル
詐欺取財

刑ノ加重

下宿ノ立
替金ヲ拂
ハスシテ
逃走シタ
ルモ初メ
ヨリ騙關
ノ意ナキ
中ハ詐欺
ノ罪ナシ

但シ此場合ニ於テハ犯人最初ノ起訴ノ際書入質ヲ有スル負債ノ金額ヲ償却シ又
ハ其他ノ物上權ヲ該財産ヨリ脱却シタルキハ其刑ヲ免ス(刑、零)
草第四百三十五條 [裁判所ニ對シ又ハ公衆若クハ一人ノ面前ニ於テ誣罔誹謗
ニ涉ル書面口頭上ノ恐喝ヲ爲シ以テ金額其他ノ物件又ハ財産讓渡シテ證義務ノ證
義務釋放ノ證ヲ明載スル證書類ヲ自己ニ交付セシメタル者ハ三月以上三年以下ノ
重禁錮五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス]

草第四百三十五條ノ二 (官吏其職權ヲ濫用シテ詐欺取財ヲ行ヒ又ハ官吏ニ非サ
ル者官ノ命令ヲ詐稱シ又ハ官吏ノ名稱服飾徽章ヲ僭用シタル者ハ前二條ノ刑ニ一
等ヲ加フ)

第三百九十條

一號

抑モ詐欺取財ノ罪ハ惡意ヲ以テ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シ而シテ財物及ヒ證書類ヲ騙
取スルノ原素具備スルニアラサレハ其罪ノ成立スヘキモノニアラス今原判文ヲ閱
スルニ(前被告梶川彌平ハ西郷港西町荒木德松方止宿中明治十八年五月二十八日
夜全町木村清次方へ轉宿セント所持ノ荷物ヲ取出シ右止宿中取替賞ヒシ餽飈及ヒ
餉代金十二錢ヲ拂ハス逃走シタルモノト判定ストアリ此事實ニ於ケル毫モ欺罔等

ノ手段ナキハ勿論騙取ノ所爲モナクシテ取替金返濟ヲ怠リト云フニ過キサレハ刑
法上ノ責ヲ受クヘキモノニ非サルヲ以テ無罪ノ言渡ヲナス相當ナリ(松江輕罪裁判所
川彌平上告事件明治十九年五月
廿五日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

二號

原判文ヲ閱スルニ被告ハ一度返濟ヲ受ケ已ニ無効ニ販シタル預ケ金證書ヲ以テ民
事ノ訴訟ヲ起シ二重ニ金員ノ返濟ヲ受ケタル事實ヲ明記セリ抑モ刑法第三百九十
條ニ所謂詐欺取財ノ罪ト稱スルハ詭計ト惡意ト人ニ害ヲ加フルトノ三原素ヲ具備
シテ成立スルモノナリトス今被告ハ果シテ原判文ニ明記スルノ所爲アルニ於テハ
則チ第三百九十條ヲ適用セサルヲ得ス其返濟ヲ得タル金員ヲ未ダ返濟ヲ得スト稱
シ無効ニ販シタル遺留證書ヲ以テ證明スル如キハ則チ民事上公正ノ法式ニ因リ得
タルト否ラサルトニ論ナク已ニ右詐欺取財ニ必要ナル三原素ヲ具備シタルモノト
爲サハルヘカラス
新潟輕罪裁判所ノ言渡シニ對シ阿部與次郎上告事
件明治十九年十月十五日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百九十條

三號

原判文ヲ閱スルニ豫審終結言渡書ニハ中内金詐取云々豫審判事ハ金百五十圓ヲ
詐欺取財ノ罪

辨濟セシ
証書ノ存
在セシチ
奇貨トシ
再ヒ返金
ヲ求ムル
モノハ詐
欺取財ノ
罪アリ

証書變造
ハ其全体

ニ關係セ

詐取シタリトハ看認メサルナリトアルモ其内金トハ幾何ナル金員ナルヤ知ルニ由
ナク試ニ被告カ所爲ヲ訴訟書類ニ徴スルニ被告ハ最初二百五十圓ヲ松井章之ヨリ
借入レントセシモ抵當物件ノ不足ナルヨリ談判相調ハス於是被告ハ騙瞞ノ手段ヲ
以テ公正證書ニ他人所有ノ田地五畝歩ヲ書加ヘ之レヲ抵當ノ体ニ仕做シ金百五十
圓ヲ騙取シタルモノ、如シ然ラハ則チ其賍金ハ百五十圓ニシテ右田五畝歩ニ負フヘ
キ金額ヲ以テ賍金ト爲スノ理ナキハ勿論該證書ノ如キモ苟モ變造ニ係ル上ハ其一
部ヲ分離シ之レカ不正ヲ論スヘキモノニアラザルナリ何トナレハ被害者ハ證書
ノ全部ヲ信認シ金員ヲ交付セシモノナレハナリ要スルニ本案ノ賍金ハ原判文ニ記
スルカ如キ百五十圓ノ内金ト爲サン乎其金員ノ若干ヲ知ル能ハス然ルニ承審官ハ
其内金ナリト認メナカラ他ニ賍金ヲ算出シ遂ニ舊惡滅免例圖ニ照ラシ處分シタル
ハ孰レヨリ論スルモ不法ノ判決タルヲ免カレヌ(熊本縣裁判所ノ言渡ニ對シ橋本孫平上告
事件明治十九年四月廿八日大審院ニ於テ破
判ノ)

第三百九十條

四號

刑法第三百九十條ノ趣旨ハ云々又ハ民事上ノ責ニ止ル云々論告スレバ該條ニハ人
ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲スト

鉄棒ヲ以
テ欺罔シ
タル詐欺
取財

アリ而テ被告カ所爲ハ鐵棒ノ兩端ニ貳錢銅貨ヲ附着シ其兩端ヲ露ハシ周圍ニ紙ヲ
貼付ケ貳錢銅貨ノ五拾錢金ニ擬シ之ヲ以テ他ヲ欺罔シ若干金ヲ騙取シタル事實ニ
シテ刑法上詐欺取財ノ罪ヲ構成スルハ論ヲ俟タヌ(東京控訴院ノ言渡ニ對シ常盤シケル上告事
件明治廿一年十月卅一日大審院ニ於テ棄却
ノ判)

第三百九十條

五號

原判文ヲ檢スルニ被告福藏常右衛門ハ共謀シ岩崎半助所有ノ地所建家ヲ兼テ鏡沼
忠助ヨリ貸金抵當ト爲シアルヲ双方示談ノ上福藏買入ルベキ約定ヲ整ヘ福藏半助
忠助同道ニテ白河登記所ニ出頭シ登記ヲ爲濟代金授受ニ際シ福藏ハ持參セサルニ
付常右衛門方迄ト申延シ同人方ニ至リ常右衛門ハ代金拂渡スニ付證書披セント忠
助ヨリ借覽シ之ヲ福藏ニ渡シ阿部鑛方ヨリ金員取リ來ント同人ヲ去ラシメ福藏ハ
其儘踪跡ヲ暗マシ賣買證書ヲ持逃ケシ其掛合中常右衛門モ亦金策不調遂ニ失踪シ
告訴セラル、ニ至リ登記ノ際現金拂渡シタリト主張スルハ則チ人ヲ欺罔シ證書ヲ
騙取シタル者ナリトアリテ共謀トハ如何ナルトチ謀リシカ常右衛門ハ忠助ヨリ證
書ヲ借覽シ福藏ニ渡シタルハ證書ヲ騙取セントノ思意ニ出テタルカ常右衛門ノ失
跡ハ金策不調ノ爲メナリトスレバ證書騙取ノ惡意ナキモノ、如シ且登記ノ際現金

証書騙取
ナルヤ否
理由不備
ノ裁判

詐欺取財ノ罪

拂渡シタリト主張スルハ則チ罪ト爲ルト認メタルモノ、如シ然レモ抗辨セシヲ以テ直チニ詐欺取財ノ罪アリト爲スヲ得ス(福島縣裁判所ノ言渡ニ對シ佐藤福藏石川常右衛門上告事件明治廿一年十月十六日大審院ニ於テ破毀ノ決判)

第三百九十條

六號

抑詐欺取財ノ罪ハ他人ニ屬スル所ノ財産ヲ詐取セントスルニ於テ初メテ成立スルモノナルヤ論ヲ俟タサルナリ本按事件ノ如キハ只拂フベキノ車賃ヲ拂ハサルニ過キサルノミナラス勞力ハ直ニ財産ナリト云フヲ得ス今原判文ヲ檢スルニ被告ハ曾テ壹錢ノ貯ヘモ無ク亦伯母モナキニ虛言ヲ以テ車夫ヲ欺キ賃錢ヲ出サ、ル見込ニテ乗車セシモ其所爲詐欺取財ナリト云フヲ得ストノ意ニ外ナラサレハ原裁判ハ相當ニシテ齟齬ナリト云フ可カラス(松山縣裁判所ノ言渡ニ對シ大隅テヨ上告事件明治廿二年十二月廿四日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百九十條

七號

原裁判ノ趣旨ハ被告等ノ所爲タルヤ詐欺シテ財ヲ取りシ者ト雖モ元來菊次カ自ラ國法ヲ犯シ偽造紙幣ヲ買得スル爲メ其代金ヲ被告等ニ騙取セラレシモノナレハ法律上保護ス可キ限りニアラサルニ付被告等カ其代金ヲ騙取セシモ其罪ヲ問ハスト

偽造紙幣ヲ買得スル爲メ其代金ヲ騙取セシモ其罪ヲ問ハスト

詐欺取財ヲ以テ論セ

ノ下ナリ若シ菊次ニ於テ被告等ヨリ約束ノ如ク偽造紙幣ヲ受取り之ヲ行使セシナラハ獨リ其代金ノ損失ニ止マラス重罪ヲ構成スルニ至ラン而シテ被告等ニ對シ詐欺取財ノ罪ヲ問ハ、被告等ヲシテ偽造紙幣ヲ買得セシムヘキ反對ノ結果ヲ生スルノ弊アレハナリ又上告論旨ノ如ク被告等ニ於テ偽造紙幣ヲ所持セサルニ之ヲ所持スルモノ、如ク詐ハリ其代金ヲ菊次ヨリ交附セシメ共謀者タル被告ノ一人カ探偵掛リト詐稱シ菊次等ヲ恐喝シテ偽造紙幣ナリト云フ紙包ヲ取上ケシヤ其罪アリトシ法律ノ保護スル所トナラハ世ニ惡事ヲ勸誘シ却テ世ノ公安ヲ害スルノ危險アリト云ハサルヲ得サルナリ何者被告等ニ於テ其代金ヲ受取りシナラハ誠實ニ約束ノ偽造紙幣ヲ菊次ニ交附スヘシトセハ前段説明ズルカ如ク菊次ノ惡望ヲ遂ケシムヘキ義務アリト云フニ齊シケレハナリ(松山縣裁判所ノ言渡ニ對シ植松森次郎龜井伊三郎藤本鶴次橫田壽賀次上告事件明治廿二年五月廿二日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第二百九條 第三百九十條

八號

私印盜用ハ其目的ノ詐欺取財ノ爲メナルト否トニ拘ハラズ單獨ノ犯罪ナレハ他ノ罪ト共ニ發シタルキハ刑法第百條ヲ適用スルハ當然ニシテ私書偽造ノ如キハ詐欺取財ノ目的ニ因テ犯シタルキハ刑法第三百九十條第二項ニ依ルヘシト雖モ到底偽

詐欺取財ノ爲メ私印ヲ盜用シタル者ニ依

詐欺取財ノ罪

テ處罰ス
ルモ不當
ニアラス

造ノ本條ニ照シ論スヘキモノナレハ原裁判所カ該本條ニ依リ刑法第百條ニ照シ私
印盜用罪ニ從ヒ處斷シタル上ハ刑法第三百九十條第二項ヲ引用セサルモ毫モ利害
ニ影響アレサレハ之レヲ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラス(廣島控訴院ノ言渡ニ對シ日坂助
日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百九十條

九號

有罪ト認
タルハ相
當

原判文ヲ閱スルニ被告人カ所爲ハ縮布數百反行商ノ委託ヲ受ケ其賣代金ヲ雇主ヘ
引渡スニ際シ該代金ノ内五百六拾圓ハ出雲地方ニ於テ生蠶ヲ買入タリト欺キ之ヲ
騙取シタル者ト認定シ之ニ相當スル刑法第三百九十五條全第三百九十條ヲ適用シ
タレハ不法ノ裁判ト爲ス可ラス(新潟輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ桑山丹治上告事件
明治廿二年四月廿二日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百九十條

十號

犯罪ヲ原
因トシタ
ル欺罔

本按被告事件ハ忠右衛門外二名ニ於テ虛誕ノ言ヲ以テ利ヲ食マシメ因テ以テ被害
者ヲ欺罔シ金圓ヲ収得シタリト云フノ事實ニ在レテ其欺罔タル漂流物ヲ拾得テ之
レヲ隱匿シ其利益ヲ分取セント言フ即チ刑法上犯罪者タルノ情ヲ知テ被害者之ニ
與ミシタル者ナレハ其漂流物拾得ノ眞偽如何ニ關セス法律ハ見テ以テ犯罪分子ヨ

リ成立チタル不正ノ契約ナリトス已ニ不正ノ契約ナレハ公訴ニ對シテハ刑法ノ制
裁ヲ與フヘキ者ニ非ス從テ私訴ニ對シ民法上保護スヘキ限ニアラサル者トス然ル
ニ原控訴院カ被告人等ノ所爲ヲ詐欺取財ナリトシ刑ノ言渡ヲ認可シ私訴ニ付テモ
終審裁判ヲ與ヘタルハ俱ニ擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ相當
スル上告ノ理由アル者トス(宮城控訴院ノ言渡ニ對シ志賀忠右衛門關喜右衛門工藤哲造等ガ
上告事件明治二十一年十二月廿五日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

有罪ト認
タルハ相
當

原判文ヲ閱スルニ預リタル金員ヲ帳簿ニ記載セス擅ニ云々費消シト記載アリテ其
故ヲニ帳簿ヲ脱シタル事實ニ依レハ詐欺取財ノ罪ヲ構成シタル者ナリ故ニ原裁判
所カ該所爲ニ對シ刑法第三百九十五條全第三百九十條全第三百九十四條ヲ適用シ
タル者ナレハ擬律錯誤ナリト云フノ論旨ハ不相立モノトス(東京控訴院ノ言渡ニ對シ佐
一年十月二十九日大審
院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百九十條

十號

凡ソ詐僞取財ノ罪ヲ組成センニハ刑法第三百九十條ニ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財
物若シハ證書類ヲ騙取スルコトヲ必要トセラレタリ故ニ假令ヒ人ヲ欺罔シ又ハ
恐喝シテ負債ヲ免脱スルカ如キコトアルモ證書類又ハ財物ヲ騙取スルコト之ヲ換言

詐欺取財ノ罪

義務ノ免
脱ヲ得タ
ルモノハ
罪ナシ

スレハ人ヲシテ證書類又ハ財物ヲ渡サシムルコトノ一事ヲ闕クトキハ詐欺取財ノ罪ヲ構成セサルモノトス然リ而シテ原判文ヲ査閱スルニ被告ハ刈田定右衛門太田東一等ヲ欺罔シ定右衛門ニ對スル負債ノ内未タ返濟セサル金二拾圓ヲ已ニ返濟シタリト云ヒ以テ其義務ノ幾分ヲ免脱セントシタルモノト認メタルモノナレハ附帶上告論旨ノ如ク原裁判所カ認ムル所ノ事實ハ刑法第三百九十條ノ罪ヲ組成セサル者ナルニ原裁判所ニ於テハ之ヲ刑法第三百九十條第百十二條第三百九十四條ニ問擬シタルハ全ク擬律錯誤ノ裁判ナリ(私前輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ原十日吉上告事件明治十九年六月十七日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

十一號

抑モ犬肉ヲ牛肉ナリト詐言シ以テ人ニ信ヲ置カシメ之レヲ販賣シタルモノハ詐欺取財ノ罪ナリト云ハサルヲ得ス然ルニ原裁判所ハ被告カ所爲ハ犬肉ヲ牛肉ナリト詐言シ販賣シタルコトヲ認メナカラ刑法第三百九十條ヲ適用セス處斷シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリ(新瀉輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ山口權六上告事件明治十九年十二月七日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

十二號

原判文ヲ閱スルニ其前段ノ事實理由ニ被告ト須田傳吉ト半紙賣買ノ約ヲ爲シ傳吉

引續キタ
ル事案ハ
一休不分
ノモノナ
リ故ニ之
ヲ區分シ
テ罪ヲ論
スルヲ得

ヨリ金五百圓受取り之ニ對シ六百五十五圓ノ半紙ヲ引渡シタルモノニテ此點ニ付テハ更ニ欺罔詐取ノ所爲ト見ル可キ所ナシ而シテ其中段ノ理由ニ(跡半紙ヲ渡ス可キニ依リ金員ヲ渡セト申聞ケ被告ハ渡スヘキ紙ヲ所持セス他ヨリ仕入ル可キ念慮ナク又紙ヲ渡タスノ意思アルニアラスシテ云々遂ニ紙代金トシテ金千圓ヲ受取りトアリテ此點ニ依レハ欺罔ノ事實アルモノ、如シ然ルニ末段ニ至リ(右千五百圓ノ内引渡シタル紙代金六百五十五圓ヲ差引金八百四拾五圓ヲ騙取シタルモノナリ)トアリ抑モ詐欺取財ノ罪ナル其詐取シタル財物全体ニ對シ構成スル者ニテ假令如何ナル事由アリト雖モ其詐欺ニ因テ得タル財物ヲ區分シ其一部ニ對シノ罪ヲ構成スル道理アル可カラズ然ルニ原扣訴院ハ前掲ノ如ク前キニ尋常賣買ノ如ク認メ次ニハ騙取ノ如ク認メ前後ノ金ヲ合シタル千五百圓ヨリ六百五十五圓ヲ扣除シ殘額ヲ詐取金トシタルハ事實ノ理由齟齬シ事實ノアル所ヲ知ルニ由ナク從ヒテ犯罪構成ノ事實ヲ鑑査シ能ハサル不法ノ裁判ナリ(東京扣訴院ノ言渡ニ對シ竹内全彌上告事件明治廿二年十二月七日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

十三號

原判文ニ掲載スル事實ニ依レハ被告人ハ詐欺ノ手段ヲ逞シ被害者ヲ欺罔シテ家屋

詐欺ニ導
レタル登

詐欺取財ノ罪

記ハ無効ナリ

買賣登記ノ手續ヲ結了シ以テ騙取ノ目的ヲ遂ケタル者ナレハ登記ノ結了シタルヲ以テ正當ノ契約アリト云フヲ得ス(東京控訴院ノ言渡ニ對シ鷺見松五郎上告事件明治廿一年六月廿八日大審院ニ於テ棄却ノ判決)

第三百九十條

十四號

受取書ヲ偽造シテ債務ノ免脱ヲ圖リタル事實ハ詐欺取財ノ罪ヲ構成セス

原裁判所ニ於テ被告カ金三十五圓ノ受取證書ヲ偽造シテ借入金ノ義務ヲ免レントシタル所爲ニ對シ詐欺取財未遂ノ罪アルモノトシテ處斷シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス何トナレハ刑法第三百九十條ハ欺罔又ハ恐喝ノ手段方法ヲ用ヒ財物若シクハ證書類ヲ交付セシメタルモノヲ詐欺取財ノ罪トシ罰スルノ法條ニシテ本按ノ如キ偽造ノ受取證書ヲ以テ欺罔ノ手段トナシタルモ唯借金ノ義務ヲ免カレントシタルニ過キヌシテ財物若シクハ證書類ヲ交付セシムル意ナキ所爲ヲ支配スル法章ニアラザレハナリ(秋田輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ高橋市之助上告事件明治十九年十一月廿六日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

十五號

詐欺取財ノ理由顯露

原裁判言渡書ヲ審閱スルニ被告奧村安平ハ自己所有ノ宅地ヲ被告小林儀平へ質入レシ儀平ハ該質地證書ヲ抵當トナシ相被告タル富永安三ヨリ金員ヲ借用シ安平ハ其返済期限經過セシヨリ流レ込ミタル者ト思料シ該質地證借用證ヲ岩野善(原ノ)

太郎へ賣渡シ而シ安平三ハ岩野林太郎ニ對シ右宅地ノ地券名替致シ遣スト欺キ安平儀平林太郎外一名全道戸長役場ニ至ル途中儀平ニ其手段ヲ勸誘シ役場ニ至リ林太郎カ證書ヲ出スヤ直チニ安平三ハ該賣渡證儀平へ該質地證ヲ取り立去リ而シ該質地證ヲ安平中裁ニテ用上爲八へ借金抵當ニ差入レ云々トアリテ被告儀平ニ於テハ富永安三等ト相謀リ會テ安平三ニ差入レタル自己ノ借用證書等岩野林太郎カ手ニ存在スルヲ欺罔ノ手段ヲ用テ擅ニ取去リタル事實ナレハ則チ合意上普通ノ手順ニ依リ所有スル林太郎ニ對シテハ現ニ害ヲ加ヘタルモノト云フヘシ然ルニ未段ニ至リ儀平カ持去リタル證書ハ林太郎ニ對シテハ毫モ効用ナキ一片紙タルニ過キサレハ敢テ加害ノ點ナキヲ以テ罪ト爲ルヘキモノニアラス隨テ該證書ヲ抵當トシテ貸借ノ仲裁ヲ爲シタル安平モ罪トナルヘキモノニアラスト言渡シタルハ前後ノ理由齟齬スルノミナラス毫モ効用ナキ一片紙トハ何等ノ理由アリテ認メタルヤ之ヲ知ニ由ナシ(熊本輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ奧村安平小林儀平等上告事件明治二十一年十二月二十九日大審院公庭ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

十六號

原判文判定ノ事實ニ據レハ被告カ所爲タル之レヲ約言スレハ金圓ヲ騙取セン爲メ頼母子講瓦解ノ期ニ際シ新谷萬治ヲ瞞着シ金五拾圓ノ預リ證書ヲ收領シ該證書ヲ

詐欺取財ノ罪

人ヲ瞞着シ證書ヲ收領シタルハ証

書騙取ノ
既遂ニシ
テ其金ヲ
得ルハ結
果ナリ

金圓ヲ受
ケタル因
由ヲ明示
セサル理
由不備ノ
裁判
主犯タル
事實ニ欠
クハ他ノ
共犯人モ
破毀スヘ
キナリ

詐欺取財
罪ヲ構成
スルニハ
詐欺ノ手
段アルヲ
要ス

以テ其金員ヲ騙取セント勸解出願ヲ爲シタリト云フニ在リ果シテ然ラハ本院檢事
附帶上告旨趣、如ク其證書ヲ握手シタルトキニ於テ刑法第三百九十條明文ノ如ク
證書騙取ノ罪ハ已ニ成立シタルモノト云ハサルヲ得ス故ニ其金圓ヲ騙取セント勸
解ヲ出願シタルカ如キハ一ニ其結果ニシテ之レヲ遂ケサルトテ未遂ヲ以テ論スヘ
キモノニアラス(大坂輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ岡田源次郎上告事件
明治十九年五月廿五日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

十七號

刑法第三百九十條恐喝取財ノ罪ハ上告論旨ノ如ク何等ノ方法手段ニ因ルモ苟モ被
害者其人ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシメ金圓ヲ取りタルキハ其罪ヲ組成スベキヲ論ヲ
俟タス今ヤ原判文ヲ閱スルニ其前段數項ニ恐喝取財ノ如キ事實ヲ掲ケ其末段ニ至
リ右ノ件ハ高橋銃一郎カ有井龍雄増井啓次郎ヨリ醜行ヲ新聞紙ヘ掲載スルコトニ
依リ金圓ヲ受タルモ其威力暴勢等ヲ以テ右兩名ヲ恐怖セシムル程ノ方法手段アル
事蹟ハ絶テ見ルヘキモノナシ云々トアリ其判定ノ旨意タル威力暴勢ヲ以テセザレ
バ其罪ナシトスルニ在リ然レモ威力暴勢ヲ示サ、ルモ被害者ヲシテ畏懼心ヲ生セ
シメ以テ金員ヲ取りタルニ於テハ其罪ヲ免カレサルベク若シ又被告カ該金圓ヲ取
リタルハ被害者ヲ恐怖セシメタルモノニ非ズトセン乎果シテ然ラバ其金圓ヲ受ケ

タルハ何等ノ理由ナルカ分明ナラス之ヲ要スルニ被告銃一郎カ有井龍雄外一名ヨ
リ其醜行ヲ新聞紙ヘ掲載ノコトニ依リ金圓ヲ受ケタル事實ヲ認メナカラ其金圓ヲ受
ケタル因由ヲ明示セサルカ故ニ罪ノ有無ヲ監査スルニ由ナキ者トス已ニ主犯タル
銃一郎ニ對スル判決ノ理由不備ナル上ハ之ニ關連スル他ノ二名ニ對スル裁判モ亦
其當否ヲ査定スルニ由ナキ者トス(大坂輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ高橋銃一郎根來總之助中松小翠上
告事件明治二十一年五月十一日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

十七號

抑詐欺取財ノ罪ハ人ヲ欺罔ノ無實ノ成功ヲ希望セシメ又ハ無根ノ事故ヲ以テ之ヲ
畏怖セシメ其他偽計ヲ用ヒ因テ以テ財產若クハ證書類ヲ騙取スルニ非サレハ之ヲ
構造セサル者ニノ要スルニ其財產若シクハ證書類ヲ交付セシムルニ先立チ欺罔又
ハ恐喝ノ手段ナカラサル可ラサルナリ然ルニ原判文ハ刑法第三百九十條ヲ適用セ
シ事實部内ニ於テ「被告入ハ明治十七年二月廿四日小山田甚三郎カ本岡勝太郎ヨ
リ金卅圓借用シタル末其證人今村甚作引受辨償スルコトナリ示談ノ上十五圓ニテ
消算ノ約定書ヲ甚作外一名ヨリ勝太郎外一名ヘ差入タリ此際甚作ノ爲メニ盡力ス
ルトテ甚作ヨリ數度ニ金廿六圓四十錢ヲ受取リ之ヲ勝太郎ヘ返金ト入費トニ充テ
事落着シタリト甚作ヘ對シ申詐リ該金騙取シ」云々ト掲載アリテ其甚作カ勝太郎

詐欺取財ノ罪

ニ盡ス可キ卅圓ノ義務ハ被告カ盡力ニ依テ半額ノ十五圓ニ減シタレハ之ヲ辨濟ス
 ルト且此間被告多少奔走シタルノ費用ヲ償ヒ受クル約束ヲ以テ合計二十六圓餘ノ
 金圓ヲ甚作ヨリ受取リタルモ被告ニ於テ其拾五圓ヲ消費シ之ヲ勝太郎ニ辨濟セズ
 ノ遂ニ詐言ヲ陳セシモノ、如シ果ノ然レハ被告カ該金ヲ交付セシムルニ先キ立チ
 之ヲ騙取スルノ惡念アリシ事實ナキヲ以テ個ハ刑法第三百九十五條ニ依ルヘキモ
 未タ純然タル詐欺取財ノ罪ハ構成セサルナリ良シ又其惡念アリテ騙取シタルモ甚
 作カ義務ノ十五圓ニ減セシハ全ク被告ノ盡力ニ因ルトスレハ其他ノ金員ハ未タ必
 スシモ被告カ無根ノ騙術ヲ以テ之ヲ詐取シタリト概論シ難シ何トホレハ其甚作カ
 希望ヲ満足スルニ至リシ結果ヲ見ルニ就テハ被告カ多少勞力ト費用ヲ要スヘキ道
 理アリテ存スレハナリ然レハ即チ該廿六圓四十錢ノ金額ヲ皆被告カ騙取シタリト
 明示シタルハ未タ理會セサル者ト云フヘシ(福岡輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ萩尾佐十郎上告事
 件明治廿年十月廿八日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第二百三條 第四百廿一條
 第三百九十九條

十八號

合意ニ出
 テタル結
 果ハ毀棄
 ナリテ論
 セス又自
 己ノ

名義ニシ
 テ且自己
 ノ保管ニ
 係ル証書
 ナリテス
 ルモノハ
 欺罔ノ本
 質ヲ欠ク

メ己レノ債主ノ名義ヲ見ハシタル公證消印願ト題スル書面ヲ作り之ヲ交付シ伊之
 吉等ハ各自管轄登記所へ右願書ヲ差出シ登記官ヲノ公證并ニ公證簿へ消印ヲ爲サ
 シメタルモノナリ該事實ヲ案スルニ頼母子講ヨリ成立シタル借用證書ナリトスル
 モ其權利者ノ名義ハ被告新三郎ナルヲ明カナリ然ラハ債主負債主トノ合意上ヨリ
 借用證書ヲ塗抹シ或ハ公證ヲ消シ込ミタル事實ニアレハ之ヲ以テ直チニ官私文書
 ヲ毀棄シタルモノト速斷シ能ハサルモノナリ如何トナルニ該借用證書ヲ塗抹シ且
 ツ公證ヲ消印セシメタルハ所謂合意上ノ結果ニシテ法律上觀テ以テ不當ノ手續ト
 云フヲ得サレハナリ然ラハ則チ本件文書毀棄ノ罪ハ當初ヨリ構成セザルモノ、如
 シ加之詐欺取財ノ事實ヲ要スルニ被告新三郎ハ霧戸滄龍福島伊之吉茂木久五郎全
 彦太郎加藤金四郎鈴木勇次郎等ニ對シ自己カ保管スル頼母子講ノ借用證書ヲ返還
 シ掛金ノ義務ヲ釋放スルヲ以テ其代リニ金拾五圓ヲ渡ス可シ云々又頼母子講モ
 久敷ク休會シ瑤明サルニ付一口ヲ金拾五圓位ニ示談濟方スルヲニ村方ニ於テ相
 談整ヒ云々ト申欺キ都合四次ニ金圓ヲ騙取シタル者ト云フニ在レハ該證書宛名ハ
 被告ニノ保管ニ係ルモノナレハ負債主ニ對シ示談濟方ヲ爲シタル詐欺罔ノ條件ヲ
 具備シタルモノト看做スヲ得然レトモ被告カ保管ニ係ルモ尙ホ自己ニ處分權ヲ
 有スルモノニ非ス他人ノ權利ヲ害シ更ニ負債主ニモ亦害ヲ生セシメタルモノトセ

詐欺取財ノ罪

ハ其理由ヲ明示セサルヘカラス然ルニ之ヲ明示セサル以上ハ霧戸滄龍外五名ヲ果シテ欺罔シタルモノトスルニ足ラス(浦和重罪裁判所ノ言渡シニ對シ木村新三郎上告事)
(符明治二十一年六月七日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

十九號

虛無ノ地所ヲ抵當ニ掲記シ云々トアリ法律適用ニ至テモ虛無ノ地所ヲ抵當ト爲シタルハ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ該ルト判定シタリ然レモ原裁判所カ認メタル事實ヲ通觀スレハ虛無ノ地所トハ乃チ其ノ字ノ如ニシテ之ヲ抵當ニ書入レタルモ其被害者ナク反テ被害者アル詐欺取財ノ罪ハ不問ニ付シタル如ク法條ノ理由ヲ明示セス虛無又ハ現在ノ地所ヲ抵當ニ記入シタルハ他ノ財物ヲ詐取スルノ目的ニ出テ、證書ヲ偽造スルノ手段方法ニ供シタル者ト言ハサル可カラス果シテ然ラハ當裁判所ハ官文書偽造ニ付本刑ヲ科シ虛無ノ地所ヲ抵當ト爲シタルコ付刑ヲ適用シタルハ輒チ一罪ニ罰ヲ科シタル越權ノ處分ニシテ治罪法第四百十條第一一規定スル上告ノ原由アルモノトス(浦和重罪裁判所之言渡シニ對シ飯島武兵衛高橋忠太郎上告事件明治廿一年四月十二日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

廿號

抑公訴ト私訴トハ固ヨリ殊別ナルモノナレハ或ハ犯罪ニ由ラ生スル私訴ニ付民事擔當人カ損害賠償ノ責任アルヲ發見セシ場合ト雖モ爲メニ既成ノ罪ニ影響ヲ與フ

虛無ノ地所ヲ抵當ト爲シタル件

雇人カ詐取シタル金額ニ付雇主カ償

却メ可キ責メアルノ故ナリ詐取罪ヲ消滅スルノ理ナシ

賣樂得意先及ヒ賣掛代金取立權トモ譲渡シテ其ノ取立チ爲スニ先テ金ヲ取立タル所爲ハ刑法上罰スヘキモノニ非

可キモノニ非ス何トナレハ事後ノ所爲ハ犯罪構成ノ原素ニ關係ナケレハナリ然ルニ今原判文ヲ監査スルニ其判文第二ニ於テ被告廣三郎カ領收證ヲ作爲シ而シテ五星社新聞代金収受人ト稱シ吉田勝登外數名ヲ欺罔シ金錢ヲ騙取シタル即チ詐欺取財ノ事實ヲ明認シナカラ其後段ニ至リ五星社ハ民事擔當人タルヲ以テ川上分署外數名ノ者ニ於テ損害ヲ被ムル者ニ非スト云フノ理由ヲ付シ無罪ノ判斷ヲ下シタルハ擬律ヲ誤リタル者ナリ(松山輕罪裁判所ノ言渡シニ對シ竹内廣三郎上告事件)
(明治二十一年二月二十二日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十條

廿一號

原判文ニ被告喜助ハ明治二十年七月四日付ノ證書ヲ以テ賣樂掛場所帳面トモ角田吉郎平ナル者ヘ譲渡シ置キナカラ右讓受人ノ取立ヲ爲スニ先タチ一旦讓渡シタル得意先ヲ奔走シ得意先カ未タ事ノ由ヲ知ラサルヲ幸トシ前件吉郎平トノ讓渡契約ハ會テ無之カ如クニ仕向ケ明治廿一年十一月ヨリ明治廿一年三月迄ニ云々近藤巳之松外五名ノ者ヨリ讓ニ賣掛ケタル藥代金都合二圓九十四錢八厘ヲ約束ニ背キ詐取シタルモノナリト記載シタル事實ニ依レハ被告人ハ角田吉郎平ニ賣樂得意先キニ賣立代金取立權ヲ併テ讓渡シタルモ其義務者タル巳之松外五名ノ者ハ未タ拂フヘキ義務ノ吉郎平ニ轉シタルコヲ知ラサルヲ以テ見レハ喜助ニ拂フヘキ金員ヲ已之

詐欺取財ノ罪

松等カ之ヲ仕拂ヒタルハ正面至當ノ事柄ニシテ敢テ已之松等ハ其レカ爲メ詐取セラレタリトシ損害ヲ受ケタリト云フ者ニ非ラス而シテ被告カ吉郎平ニ對スル契約ニ背キタリトスルモ曩ニ賣掛金ヲ讓渡スノ際吉郎平ニ對シ損害ヲ與ヘキ意思ノ見ルヘキモノナシ依テ其所爲ハ民事上ニ止マリテ刑法上之ヲ罰スヘキ者ニアラス

(盛岡輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ中野喜助上告事件) 明治廿一年十月廿一日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百九十條 第二條

廿二號

原判文ニ被告人ハ中野喜助ニ於テ云々證書ヲ以テ賣藥掛場所帳面トモ北村權六ナル者ニ讓渡シ置キタル次第ヲ承知シアリナカラ喜助ト相謀リ右讓受人ノ取立ヲ爲スニ先タチ一旦讓渡シタル得意先ヲ奔走シ得意先カ未タ事ノ由ヲ知ラサルヲ幸トシ前件權六トノ賣買契約會テ無之カ如クニ仕向ケ云々近藤已之松外五名ノ者ヨリ先キニ喜助ノ賣掛ケタル藥代云々約束ニ背ムキテ横取りナシ云々ト認メタル事實ニ依レバ被告人ハ喜助ヨリ賣藥得意先キニ賣掛代金取立權ヲ併テ權六ニ讓渡シタルモ其義務者タル已之松外五名ノ者ハ未タ拂フ可キ義務ノ權六ニ讓ラサルヲ以テ見レハ喜助ニ拂フベキ金員ヲ被告人ニ已之松等カ之ヲ仕拂ヒタルハ正面至當ノ事柄ニシテ敢テ已之松等ハ其レガ爲メ詐取セラレタリトシ損害ヲ受ケタリト云フ者

營業及ヒ
營業上ノ
債權者ニ
對シテ
未タ其
義務者ニ
通知セザ
ルニ先テ
讓渡シタル
ハ詐取
組ノ罪ヲ
成セス

ニ非ラズ而シテ被告カ權六ニ對スル契約ニ背キタリトスルモ曩ニ賣掛金ヲ讓渡タスノ際權六ニ對シ損害ヲ與フベキ意思ノ見ルベキモノナシ仍テ其所爲ハ民事上ニ止マリテ刑法上之ヲ罰スベキ者ニ非ラス

(盛岡輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ新井利助上告事件) 明治廿一年十月十六日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百九十條

廿三號

原判文ヲ閱スルニ其第一項ノ事實ハ被告村上松次郎比江島三右衛門甲斐才次郎ハ共謀シテ云々ト被告カ金員騙取ニ與ミセシ所爲アル理由ヲ明示シ其第二項ニ三右衛門ハ見スル丈ケニテ宜ケレハ金二三十圓周旋シ吳ルレハ云々重藏ヲ欺キ金員ヲ持參セシメ云々ト被告ハ相被告ト賭博ヲ爲シタル体ニ擬シ一時ノ見セ金ナリト欺キ金員ヲ騙取シタル事實ヲ明認シ之レカ各證據ヲ列舉シアリテ毫モ被告事件ノ模様ニ因リ有罪ノ推測ヲ下シタルモノト見ルヘキ處ナケレハ上告ノ理由ナキモノトス

(宮津輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ村上松次郎上告事件) 明治廿二年十月四日大審院ニ於テ棄却ノ判決

第三百九十條

廿四號

原判文ヲ閱スルニ其略ニ曰ク被告三名ハ俗ニ式坐ト唱フル仕掛ヲ以テ宰田石松ヨリ金圓ヲ詐欺セント共謀シ次郎三郎ハ喜六ト賭博ヲ爲シ六平及ヒ石松ヲ其勝敗

詐欺取財ノ罪

虛偽ノ賭
博ヲ爲シ
表面金員
ヲ借受ケ

虛偽ノ賭
博ヲ爲シ
見セ金ト
稱シ博徒
ニアラサ
ルモノヨ
リ借受ケ
ルモ騙取
罪ヲ免レ
ス

タルモノ
ハ詐欺取
財ナリ

貨幣ヲ偽
造シ利益
ヲ分與セ
シテ取
本ヲ竊取
シタルモ

ヲ見セシメ密ニ石松ニ向ヒ金ノ持合セアラハ貸與レヘシ喜六ハ毛布製造會社ノ設
定ヲ企テ居ル頗ル富有ノ者ニテ性來愚ナレハ博賭手合セテ試ミナバ容易ニ其所持
金ヲ取得ラルヘシ左スレハ多クノ利金ヲ附ケ之ヲ貴殿ニ得セシムヘシト石松ハ其
言ヲ信シ金圓ヲ次郎三郎ニ貸渡シ以テ賭博ニ供セシメタリ云々トアリテ被告等ハ
初メヨリ金圓ヲ騙取スルノ惡意ニ出テ詭計ヲ設ケテ石松ヲ術中ニ置キ其利慾心ヲ
誘起シ以テ金圓ヲ交付セシメタル者ニテ詐欺取財ノ罪ヲ構成スルニ要スル三條件
ヲ具備スルヲ明カナレハ被害者カ賭博即チ法禁ノ法方ナルヲ知リナカラ利得ヲ僥
倖セルト否ラサルトニ拘ハラズ詐欺取財ノ罪トシ論セサルヲ得ス何トナレハ詐欺
取財ノ罪ト雖モ其害單ニ一己人ノ財産ニノミ止マラス社會ノ公益ヲモ保護ス可キモノナレバナ
ヲ以テ一己人ノ私益ヲ保護スルト同時ニ社會ノ公益ヲモ保護ス可キモノナレバナ
リ(岡山輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ中川次郎三郎外二名上
告事件明治廿二年十月十日大審院ニ於テ破毀ノ判決)

第三百九十条

廿五號

原判文ニ被告ハ云々長次郎ニ對シ豫メ所持シ居タル眞一朱銀二枚及鹽酸硫酸硝酸
ヲ掛ケ變色セシメタル眞貨十錢及五錢ノ銀貨各一枚ト示シ曾テ自ラ偽造シタル
體ニ爲シ斯ク偽造セシモ本金乏シキ爲メ中止致居ルニ付共ニ偽造セン旨申欺キ云

ノハ詐欺
取財ナリ

々銀貨ヲ鑄造シ利益ハ分配スル旨長次郎ヲ欺キ同人ヨリ金十圓ヲ騙取シタルモノ
トスト記載シアリ抑モ詐欺ノ手段タル各種アリト雖モ要スルニ人ヲ欺瞞シ金圓ヲ
騙取スルニ在リ本按ノ如キ假令不正ノ私約ヲ以テ長次郎ヲ誘導シタルモ公害即チ
詐欺取財ノ罪ヲ構成ス可キ條件具備シ其目的ヲ遂ケタルモノナレハ則刑法第三百
九十条ニ問擬ス可キヲ論フ俟タズ然ルニ原裁判所カ右ノ事實ヲ認メナカラ法律上
長次郎ヲ被害者ト見做スコトヲ得サレハ隨テ捨藏等ノ所爲モ法律上行害者トシテ
詐欺取財ノ罪ヲ論ス可キモノニ非ラズトシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ヲ言
渡シタルハ擬律錯誤アル不法ノ裁判ニシテ上告論旨ヲ正當ナリトス(福岡輕罪裁判所
淵捨藏上告事件明治廿二年十月
三日大審院ニ於テ破毀ノ判決)
以前ハ此等ノ例ヲ左ノ理由ニテ罪ヲ問ハサリシ賭博ノ用ニ充ツル爲メ若シクハ偽
造貨幣ノ資本ニ供スル爲メノ貸借ノ如キハ均シク成法ノ禁制シタル者ヲ原因トス
ルモノナレハ假令賭博ヲ爲サス貨幣ヲ偽造セシ眞ニ詐欺ノ手段トシテ財物ヲ騙取
スルモノ固ヨリ民事刑事トモ法律ノ保護スヘキモノニ非ストシ無罪トセリ然ルニ方
今議論一變ノ總テ詐欺取財ニ問擬スルコトナレリ(佐賀重罪裁判所ノ言渡ニ對シ押川益太郎
月十七日大審院ニ
於テ破毀ノ判決)
於十四日大審院ニ
於テ破毀ノ判決)
(松山重罪裁判所ノ言渡ニ對シ久保虎吉濶淵千代造上
告事件明治廿一年三月八日大審院ニ於テ破毀ノ判決)
(東京重罪裁判所ノ言渡ニ對シ玉樹神秀
山際藏上告事件明治二十一年六月

第三百九十條

廿六號

宿料ヲ拂ハスモ逃走スルモ當初ヨリ其意アルニアラサレハ詐欺トナラズ

原判文ニ依レハ被告カ下宿料ヲ拂ハス逃走セシハ其宿料滞リ催促受クルモ差向之ヲ辨濟スル目途ナキヨリ寧ロ之ヲ踏倒サントノ意思ヲ發セシニ因ルモノニテ其投宿ノ起頭ヨリ斯ル意思ノアリシニアラス又宿料受取書ヲ偽造行使シタルハ其支拂ノ義務ヲ免脱セント圖リタルモノニシテ共ニ詐欺取財ノ罪ヲ構成ス可キ原素ヲ具備セサレハ固ヨリ刑法第三百九十條ノ制裁ヲ受ク可キモノニアラサレハナリ

(東京輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ小林盛次郎上告事件) 明治二十年十二月九日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百九十條

廿七號

既ニ辨濟セシ証書ヲ再ヒモ初メヨリ惡意ノ見ルヘキモハ詐欺トナラズ

詐欺取財ノ罪ヲ構成スルニハ欺罔ト騙取ハ必要欠ク可ラサル者ニシテ欺罔ト騙取ノ如何ニ付テハ犯罪ヲ構成スルト否トノ岐分スル所ナリ茲ニ原判文ヲ閱スルニ勢村永和代理全人養子右源太ヨリ會テ預ケアル金十九圓ヲ受取云々預リ證書ヲ右源太へ返附セサルヲ以テ全人ヨリ其返還ノ督促ヲ受クルニ際シ却テ金圓受取ラサル杯ト言フヲ左右ニ托シ右源太ヲ欺罔シ該證書ヲ以テ再ヒ金十九圓ヲ騙取セントシタルモノト認定ス云々トアルモ其欺罔ハ證書ヲ返サハルノトキナラサルヘカラ

然カルニ之レヲ返還セサルハ何等ノ手段ヲ廻ラセシカ又タ再ヒ騙取セントシタルハ何等ノ方法ヲ用非シカ其欺罔ト騙取ノ手段方法ヲ明示セサレハ果シテ詐欺取財ノ罪ヲ構成スヘキヤ否ヲ視ルニ由ナシ(岡山輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ龜見哲太郎上告事件) 明治十九年九月二十八日大審院ニ於テ破毀ノ判決

第三百九十條

廿八號

車ノ乘込ケハ初メテアリハ詐欺取財ナリ

乘車賃金ノ如キハ勞力ニ代フル所謂財産ノ一部分ト云ヒ得可ケレハ惡意ヲ以テ之ヲ支拂ハス乘込ケタル所爲ハ即チ詐欺取財ニシテ刑法第三百九十條ノ制裁ヲ免レザルモノナリ今原判文ヲ監査スルニ被告ハ金員ヲ所持セス乘込ケントノ目的ニテ三十圓ノ爲換金ヲ受取ル爲メ立越ス可シト車夫ヲ詐ハリ遂ニ賃金ヲ拂ハス逃走シタルノ事實明確ナルヲ以テ原裁判ハ正當ニシテ毫モ不法ト認ムル瑕瑾アルコトナシ

(秋田輕罪裁判所ノ言渡ニ對シ泉田正英上告事件) 明治二十年二月廿八日大審院ニ於テ棄却ノ判決

第三百九十條

廿九號

半錢銅貨ノ上部ヲ字削リ水銀ヲ塗布シテ行使シタルハ詐欺取財

原判文ヲ閱スルニ被告松府文藏生野新五郎ハ明治二十年八月中五厘銅貨ニ水銀ヲ鍍シ以テ銀貨ノ如ク假裝シテ行使セント共謀シ被告兩人ハ鑪ノ折レヲ以テ半錢銅貨ノ表面半字ノ上部ヲ削リ二百枚換膏圓ノ文字其他ノ模様ハ返テ舊ノ如ク存シ置キ之ニ硝子鏡ノ水銀ヲ塗布シ諸所ニ於テ二十錢銀貨ナリト偽リ買物代金ノ方ニ渡

詐欺取財ノ罪